

平成26年度

ステージラボ・
アートミュージアムラボ

～公共ホール等企画運営ワークショップ～

事業報告書

一般財団法人 地域創造

目 次

I	事業概要	
1	実施にあたって	3
2	あらまし	3
3	開催実績	5
4	都道府県別参加状況	8
II	平成26年度事業	
1	事業概要	11
2	参加者の属性	13
3	コーディネーター・講師一覧	17
4	スタッフ一覧	19
5	実施日程（参加者募集～研修実施の流れ）	21
III	ステージラボ 新潟セッション	
1	研修スケジュール	25
2	各コースについて	
(1)	ホール入門コース	29
(2)	自主事業Ⅰ（音楽）コース	37
(3)	自主事業Ⅱ（舞台芸術）コース	46
3	共通プログラム	54
IV	ステージラボ 公立ホール・劇場 マネージャーコース	
○	研修スケジュール	57
○	公立ホール・劇場 マネージャーコース	58
V	アートミュージアムラボ 愛知セッション	
○	研修スケジュール	65
○	アートミュージアムラボ	66
VI	ステージラボ 広島セッション	
1	研修スケジュール	77
2	各コースについて	
(1)	ホール入門コース	81
(2)	自主事業Ⅰ（音楽）コース	86
(3)	自主事業Ⅱ（演劇）コース	91
3	共通プログラム	95
VII	参加者リスト	
○	ステージラボ 新潟セッション	99
○	ステージラボ 公立ホール・劇場 マネージャーコース	109
○	アートミュージアムラボ 愛知セッション	113
○	ステージラボ 広島セッション	117

I 事業概要

1 実施にあたって

劇場・ホールの運営については、ハードウェア（施設）、ソフトウェア（活動）、ヒューマンウェア（人材、組織、職能）の3要素が一体不可分なものとして、相互にバランスよく結びついたものとして存在しなければなりません。

一般財団法人地域創造では、地域の公共ホール・劇場、美術館や地方公共団体で文化・芸術に携わる職員の方々を対象とする研修交流事業（※）、ステージラボ・アートミュージアムラボ（公共ホール等企画運営ワークショップ）を実施し、ソフトウェアを支えるヒューマンウェアの確立という課題面から、地域における創造的な芸術環境づくりをサポートしています。

※ 地域創造で実施する研修・交流事業（終了した事業を含む）

ステージラボ・アートミュージアムラボ（公共ホール等企画運営ワークショップ）、ステージクラフト（舞台技術ワークショップ）、芸術見本市、文化政策セミナー、ステージラボ・マスターコース

平成26年度は、新潟セッション、広島セッションを開催するとともに、東京・赤坂で「公立ホール・劇場 マネージャーコース」を「文化政策幹部セミナー」と同時開催しました。また愛知で「アートミュージアムラボ」を開催しました。全国各地から133名の方々に参加いただき、研修を通してソフトウェアに関する諸課題の検討を進めてきました。

ヒューマンウェアをめぐる課題は、地域やホールごとに様々な形で存在しています。このため、効果的な方法論を短時間に見いだすことはなかなか困難なことではありますが、地域創造ではステージラボ、アートミュージアムラボという研修手法を通じて、今後とも全国各地の公共ホール、劇場、美術館、地方公共団体関係者の方々と、この課題の検討を進めて行きたいと考えております。

2 あらまし

（1）事業目的

- ① 公共ホール・劇場、美術館や地方公共団体などの芸術環境づくりに取り組む役職員を対象とした実践的研修とネットワークの形成の場の提供
- ② 研修の実践を踏まえた人材育成プログラムのあり方の探求

（2）事業内容

① 運営方針

ステージラボ、アートミュージアムラボは、地域における文化・芸術の創造拠点（アーツセンター）となる公共ホール、劇場、美術館の企画・制作や事業運営に関わる役職員を対象に、職務内容、階層に応じた実践的研修プログラムにより実施しています。

研修内容の主目的は、地域社会と文化・芸術をどうつなぐかというアートマネジメント論に立った施設運営の探求と、施設間の連携（ネットワークづくり）による効果的な芸術支援（育成）の環境を整えることにあります。

② 研修内容

公共ホール、劇場、美術館及び地方公共団体の文化・芸術に携わる職員を対象として、4日間程度の密度の濃い集中研修とし、双方向のコミュニケーションが可能な少人数のゼミ形式で実施。

原則として、参加者の業務内容、経験度等に合わせたコース設定（1セッション3コース程度）とし、ワークショップ、グループディスカッション、レクチャーコンサート、シンポジウムなどを取り入れたプログラムで構成。

③ 開催回数及び実施時期

ステージラボ：原則年度2回 年度の前半及び後半に各1回ずつ

アートミュージアムラボ：原則年度1回

④ 会場

全国各地の公共ホールや劇場、美術館などにおいて実施

（3）研修実施方法

ステージラボ、アートミュージアムラボの実施方法は以下のとおりです。

① 集中ゼミの実施

3～4日間の日程に密度の濃いカリキュラムで実施。

② 研修参加者の経験度にあわせたコース設定・プログラム構成

研修効果を高めるため、担当業務の内容、経験年数ならびに職務階層別のカリキュラム体系を編成。また、参加者の問題意識や参加ニーズは、参加応募時にアンケートを提出いただき、参加者の抱える課題に応じたゼミ内容に努めている。

③ 参加者の能動的参加を促し、双方向のコミュニケーションを導き出す

一方的な講義とならないよう、少人数形式を採用。事前課題、グループディスカッション等を用い、参加者自らの積極的な参加意識を高める。

④ 実体験に触れるプログラムの提供

ワークショップ、レクチャーコンサート等を通して、実演芸術のあり方を肌で感じる機会を設けている。

⑤ 事業体験プログラム

アートミュージアムラボでは、美術館を拠点とした地域交流プログラムや、先進的な展覧会事業など、参加者が自館での事業企画の参考とするためのケーススタディとなる「事業体験プログラム」を設けている。

⑥ 具体的な事業、運営への活用

業務遂行のための単なるノウハウ伝授の場とならぬよう、研修で得られた内容を日常業務のさまざまな場面でのヒントにいただき、情報交流事業による情報交換、相談の場の提供などのアフターフォロー体制を敷いている。

3 開催実績

【ステージラボ・アートミュージアムラボ開催実績】

年度	セッション名	開催日時	会場	参加者数	設定コース	
平成6年度	埼玉セッション	平成 6年 1月 30日 ～ 1月 2日	彩の国さいたま 芸術劇場 (埼玉県与野市：現さいたま市)	65名	基礎コース 音楽コース 演劇ダンスコース	23名 23名 19名
	宮崎セッション	平成 7年 2月 28日 ～ 3月 3日	宮崎県立芸術劇場 (宮崎県宮崎市)	56名	基礎コース 音楽コース 演劇コース	18名 19名 19名
平成7年度	水戸セッション	平成 7年 6月 6日 ～ 6月 10日	水戸芸術館 (茨城県水戸市)	52名	ステージ業務入門コース ステージ創造環境コース ステージ鑑賞共感コース	21名 12名 19名
	広島セッション	平成 8年 2月 27日 ～ 3月 1日	アステールプラザ (広島県広島市)	76名	基礎コース 音楽コース 演劇コース	23名 33名 20名
平成8年度	盛岡セッション	平成 8年 7月 2日 ～ 7月 5日	盛岡劇場 (岩手県盛岡市)	59名	ホール事業入門コース 音楽事業コース 演劇事業コース	21名 18名 20名
	福岡セッション	平成 8年 11月 19日 ～ 11月 22日	アクロス福岡 (福岡県福岡市)	60名	基礎準備コース ホール運営Ⅰコース ホール運営Ⅱコース	17名 22名 21名
平成9年度	松山セッション	平成 9年 8月 5日 ～ 8月 8日	松山市総合 コミュニティセンター (愛媛県松山市)	69名	ホールマネージャーコース ホール運営入門コース 自主事業(音楽)コース 自主事業(演劇・ダンス)コース	19名 20名 15名 15名
	世田谷セッション	平成10年 2月 17日 ～ 2月 20日	世田谷 パブリックシアター (東京都世田谷区)	78名	ホール計画コース ホール入門コース 演劇コース 音楽コース	17名 26名 16名 19名
平成10年度	札幌セッション	平成10年 6月 23日 ～ 6月 26日	札幌芸術の森 (北海道札幌市)	69名	ホールマネージャーコース ホール入門コース 演劇コース 音楽コース	14名 20名 15名 20名
	神戸セッション	平成11年 2月 2日 ～ 2月 5日	神戸アートビレッジ センター (兵庫県神戸市)	69名	ホール計画コース ホール入門コース 演劇・ダンスコース 音楽コース	15名 24名 11名 19名
平成11年度	静岡セッション	平成11年 6月 29日 ～ 7月 2日	静岡県コンベンション アーツセンター (静岡県静岡市)	66名	ホール入門コース ホール運営Ⅰコース ホール運営Ⅱコース	25名 20名 21名
	高知セッション	平成12年 2月 15日 ～ 2月 18日	高知県立美術館 (高知県高知市)	70名	ホールマネージャーコース ホール入門コース 自主事業コース 美術コース	14名 20名 21名 15名
平成12年度	金沢セッション	平成12年 7月 4日 ～ 7月 7日	金沢市民芸術村 (石川県金沢市)	81名	ホール入門コース 演劇コース 音楽コース 美術コース	26名 19名 20名 16名
	熊本セッション	平成13年 2月 20日 ～ 2月 23日	熊本県立劇場 (熊本県熊本市)	66名	ホール入門コース 運営基礎コース 演劇コース 音楽コース	19名 20名 12名 15名

年度	セッション名	開催日時	会場	参加者数	設定コース
平成13年度	仙台セッション	平成13年 7月 3日 ～ 7月 6日	仙台市青年文化センター (宮城県仙台市)	65名	ホール入門コース 23名 演劇コース 13名 音楽コース 18名 美術コース 11名
	佐世保セッション	平成14年 2月 5日 ～ 2月 8日	アルカスSASEBO (長崎県佐世保市)	60名	ホールマネージャーコース 17名 ホール入門コース 22名 演劇コース 9名 音楽コース 12名
平成14年度	岐阜セッション	平成14年 6月 25日 ～ 6月 28日	岐阜市文化センター (岐阜県岐阜市)	87名	ホール入門コース 24名 自主事業入門コース 21名 自主事業企画・制作コース 21名 ホール管理・運営コース 21名
	大分セッション	平成15年 2月 18日 ～ 2月 21日	大分県立総合文化センター (大分県大分市)	71名	ホール入門コース 23名 自主事業入門コース 20名 自主事業企画・制作コース 16名 アートミュージアムラボ 12名
平成15年度	横浜セッション	平成15年 7月 1日 ～ 7月 4日	横浜赤レンガ倉庫1号館 (神奈川県横浜市)	88名	ホール入門コース 25名 自主事業入門コース 23名 自主事業企画・制作コース 21名 アートミュージアムラボ 19名
	沖縄・佐敷セッション	平成16年 2月 3日 ～ 2月 6日	佐敷町文化センター・シュガーホール (沖縄県佐敷町)	50名	ホール入門コース 21名 自主事業コース 17名 文化政策・企画コース 12名
平成16年度	新潟セッション	平成16年 6月 22日 ～ 6月 25日	りゅーとびあ新潟市民芸術文化会館 (新潟県新潟市)	81名	ホール入門コース 24名 自主事業Ⅰ(音楽)コース 20名 自主事業Ⅱ(演劇)コース 18名 文化政策企画・文化施設運営コース 19名
	京都セッション	平成17年 2月 1日 ～ 2月 4日	京都芸術センター (京都府京都市)	69名	ホール入門コース 23名 自主事業Ⅰ(演劇)コース 13名 自主事業Ⅱ(ダンス)コース 17名 アートミュージアムラボ 16名
平成17年度	松本セッション	平成17年 7月 5日 ～ 7月 8日	まつもと市民芸術館 (長野県松本市)	77名	ホール入門コース 25名 自主事業Ⅰ(音楽)コース 14名 自主事業Ⅱ(演劇)コース 18名 文化政策企画・文化施設運営コース 20名
	三重セッション	平成18年 2月 21日 ～ 2月 24日	三重県総合文化センター (三重県津市)	51名	ホール入門コース 15名 自主事業Ⅰ(音楽)コース 19名 自主事業Ⅱ(演劇)コース 12名 アートミュージアムラボ 5名
平成18年度	長久手セッション	平成18年 7月 11日 ～ 7月 14日	長久手町文化の家 (愛知県長久手町)	65名	ホール入門コース 20名 自主事業Ⅰ(音楽)コース 16名 自主事業Ⅱ(演劇)コース 10名 文化政策企画・文化施設運営コース 19名
	高松セッション	平成19年 2月 20日 ～ 2月 23日	サンポートホール高松 (香川県高松市)	64名	ホール入門コース 19名 自主事業Ⅰ(音楽)コース 16名 自主事業Ⅱ(演劇)コース 15名 アートミュージアムラボ 14名
平成19年度	鳥取セッション	平成19年 7月 10日 ～ 7月 13日	鳥取県立県民文化会館 (鳥取県鳥取市)	62名	ホール入門コース 21名 自主事業コース 22名 文化政策企画・文化施設運営コース 19名
	東京セッション	平成20年 2月 5日 ～ 2月 8日	東京芸術劇場 (東京都豊島区)	65名	ホール入門コース 24名 自主事業Ⅰ(音楽)コース 20名 自主事業Ⅱ(ダンス)コース 10名 アートミュージアムラボ 11名

年度	セッション名	開催日時	会場	参加者数	設定コース
平成20年度	青森セッション	平成20年 7月15日 ～ 7月18日	青森市文化会館、 青森県立美術館 (青森県青森市)	57名	ホール入門コース 20名 自主事業コース 16名 文化政策企画・文化施設運営コース 11名 アートミュージアムラボ 10名
	徳島セッション	平成21年 2月 3日 ～ 2月 6日	徳島県郷土文化会館 (徳島県徳島市)	49名	ホール入門コース 21名 自主事業コース 16名 文化政策企画・文化施設運営コース 12名
平成21年度	富山・高岡セッション	平成21年 7月 7日 ～ 7月10日	富山県高岡文化ホール (富山県富山市)	57名	ホール入門コース 23名 自主事業コース 21名 アートミュージアムラボ 13名
	(東京・赤坂開催)	平成21年 9月 3日～5日	地域創造会議室	16名	公立ホール・劇場マネージャーコース 16名
	鹿児島セッション	平成22年 2月 2日 ～ 2月 5日	鹿児島県文化センター (鹿児島県鹿児島市)	55名	ホール入門コース 23名 自主事業Ⅰ(音楽)コース 18名 自主事業Ⅱ(演劇)コース 14名
平成22年度	群馬セッション	平成22年 7月15日 ～ 7月18日	群馬県民会館 (群馬県前橋市)	56名	ホール入門コース 21名 自主事業Ⅰ(音楽)コース 20名 自主事業Ⅱ(ダンス)コース 15名
	(東京・赤坂開催)	平成22年10月13日～15日	地域創造会議室	16名	公立ホール・劇場マネージャーコース 16名
	奈良セッション	平成23年 2月 1日 ～ 2月 4日	なら100年会館 (奈良県奈良市)	63名	ホール入門コース 24名 自主事業Ⅰ(音楽)コース 19名 自主事業Ⅱ(演劇)コース 20名
	アートミュージアムラボ高知セッション	平成23年 3月 9日～11日	高知県立美術館(高知県高知市)	17名	アートミュージアムラボ 17名
平成23年度	(東京・赤坂開催)	平成23年10月12日～14日	地域創造会議室	18名	公立ホール・劇場マネージャーコース 18名
	アートミュージアムラボ埼玉セッション	平成23年12月7日～9日	埼玉県立近代美術館(埼玉県さいたま市)	16名	アートミュージアムラボ 16名
	栃木セッション	平成24年 2月21日 ～ 2月24日	栃木県総合文化センター (栃木県宇都宮市)	53名	ホール入門コース 21名 自主事業Ⅰ(音楽)コース 20名 自主事業Ⅱ(ダンス)コース 12名
平成24年度	埼玉セッション	平成24年 7月10日 ～ 7月13日	彩の国さいたま芸術劇場 (埼玉県さいたま市)	54名	ホール入門コース 25名 自主事業Ⅰ(演劇)コース 14名 自主事業Ⅱ(ダンス)コース 15名
	(東京・赤坂開催)	平成24年10月31日～11月2日	地域創造会議室	15名	公立ホール・劇場マネージャーコース 15名
	兵庫セッション	平成25年 1月29日 ～ 2月 1日	兵庫県立芸術文化センター (兵庫県西宮市)	62名	ホール入門コース 23名 自主事業Ⅰ(地域交流プログラム)コース 19名 自主事業Ⅱ(音楽企画政策)コース 20名
	アートミュージアムラボ静岡セッション	平成25年 3月 6日～8日	静岡県立美術館(静岡県静岡市)	11名	アートミュージアムラボ 11名
平成25年度	静岡セッション	平成24年 6月25日 ～ 6月28日	静岡県コンベンションアーツセンター グランシップ (静岡県静岡市)	60名	ホール入門コース 22名 自主事業Ⅰ(伝統芸能)コース 18名 自主事業Ⅱ(子ども)コース 20名
	(東京・赤坂開催)	平成25年9月4日～6日	地域創造会議室	25名	公立ホール・劇場マネージャーコース 25名
	アートミュージアムラボ宮城セッション	平成25年 12月 4日～6日	宮城県美術館(宮城県仙台市)	8名	アートミュージアムラボ 8名
	長崎セッション	平成25年 2月18日 ～ 2月21日	長崎ブリックホール (長崎県長崎市)	48名	ホール入門コース 18名 自主事業Ⅰ(音楽)コース 13名 自主事業Ⅱ(演劇)コース 17名
平成26年度	新潟セッション	平成26年 7月 1日 ～ 7月 4日	りゅーとびあ 新潟市民芸術文化会館 (新潟県新潟市)	58名	ホール入門コース 21名 自主事業Ⅰ(音楽)コース 22名 自主事業Ⅱ(舞台芸術)コース 15名
	(東京・赤坂開催)	平成26年10月15日～17日	地域創造会議室	16名	公立ホール・劇場マネージャーコース 16名
	アートミュージアムラボ愛知セッション	平成27年 1月28日～30日	愛知芸術文化センター(愛知県名古屋)	12名	アートミュージアムラボ 12名
	広島セッション	平成27年 2月17日 ～ 2月20日	アステールプラザ (広島県広島市)	47名	ホール入門コース 20名 自主事業Ⅰ(音楽)コース 14名 自主事業Ⅱ(演劇)コース 13名

2,780名(広島セッション終了時点での修了者)

Ⅱ 平成26年度事業

1 事業概要

(1) ステージラボ 新潟セッション

開催期日	平成 26 年 7 月 1 日 (火) ~ 4 日 (金)
開催会場	りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館 (新潟県新潟市中央区一番堀通町 3-2)
開催体制	主催：一般財団法人地域創造 共催：新潟市、公益財団法人新潟市芸術文化振興財団
対象者	「ホール入門コース」 公立ホール・劇場（開館準備のための組織を含む）において、業務経験年数 1 年半未満（開館準備のための組織にあっては年数不問）の職員。 「自主事業Ⅰ（音楽）コース」 自主事業を実施している公立ホール・劇場で、音楽の自主事業に積極的に取り組みたいと考えている、業務経験年数が 2~3 年程度の職員。 「自主事業Ⅱ（舞台芸術）コース」 自主事業を実施している公立ホール・劇場で、演劇・ダンス等舞台芸術の自主事業に積極的に取り組みたいと考えている、業務経験年数が 2~3 年程度の職員。

(2) ステージラボ 公立ホール・劇場 マネージャーコース

開催期日	平成 26 年 10 月 15 日 (水) ~ 10 月 17 日 (金)
開催会場	一般財団法人地域創造会議室 (東京都港区赤坂 2-9-11 オリックス赤坂 2 丁目ビル 9 階)
開催体制	主催：一般財団法人地域創造
対象者	主に公立ホール・劇場等において、管理職程度の職責を持つ職員（館長、事務局長、事業課長等）の方。

(3) アートミュージアムラボ 愛知セッション

開催期日	平成 27 年 1 月 28 日 (水) ～30 日 (金)
開催会場	愛知芸術文化センター (愛知県名古屋市東区東桜 1-13-2)
開催体制	主催：一般財団法人地域創造 共催：愛知県県民生活部文化芸術課国際芸術祭推進室
対象者	主に公立美術館等において、学芸業務を担当する職員の方。

(4) ステージラボ 広島セッション

開催期日	平成 27 年 2 月 17 日 (火) ～2 月 20 日 (金)
開催会場	アステールプラザ (広島市中区加古町 4-17)
開催体制	主催：一般財団法人地域創造 共催：広島市、公益財団法人広島市文化財団
対象者	「ホール入門コース」 公共ホール・劇場（開館準備のための組織を含む）において、業務経験年数 1 年半未満（開館準備のための組織にあっては年数不問）の職員。 「自主事業Ⅰ（音楽）コース」 自主事業を実施している公立ホール・劇場で、音楽の自主事業に積極的に取り組みたいと考えている、業務経験年数が 2～3 年程度の職員。 「自主事業Ⅱ（演劇）コース」 自主事業を実施している公立ホール・劇場で、演劇の自主事業に積極的に取り組みたいと考えている、業務経験年数が 2～3 年程度の職員。

2 参加者の属性

(1) 新潟セッション

コース名	ホール入門	自主事業Ⅰ (音楽)	自主事業Ⅱ (舞台芸術)	合計
参加者数	21	22	15	58

参考：参加申込者数63名

①都道府県別

	入門	自主事業Ⅰ	自主事業Ⅱ	合計
北海道	1	1	1	3
青森				
岩手				
宮城		1		1
秋田				
山形	1			1
福島	1			1
茨城	1	1	1	3
栃木			1	1
群馬		2		2
埼玉		2	1	3
千葉				
東京		2	3	5
神奈川			2	2
新潟	2			2
富山	1	1		2
石川				
福井				
山梨				
長野	1	2		3
岐阜	2		1	3
静岡		2		2
愛知	1	2		3
三重	2			2
滋賀				
京都				
大阪	1		2	3
兵庫		1	1	2
奈良				
和歌山				
鳥取		1		1
島根	1			1
岡山		1		1
広島				
山口		1		1
徳島	1			1
香川				
愛媛				
高知				
福岡	3	1	2	6
佐賀				
長崎				
熊本				
大分		1		1
宮崎				
鹿児島				
沖縄	2			2
合計	21	22	15	58

②採用形態別

	ホール入門	自主事業Ⅰ	自主事業Ⅱ	合計
公務員	9	1	2	12
指定管理者	12	20	11	43
その他		1	2	3
合計	21	22	15	58

③性別

	ホール入門	自主事業Ⅰ	自主事業Ⅱ	合計
男	11	9	5	25
女	10	13	10	33
合計	21	22	15	58

④年代別

	ホール入門	自主事業Ⅰ	自主事業Ⅱ	合計
20代	13	8	5	26
30代	4	11	8	23
40代	2	1	2	5
50代	2	2		4
合計	21	22	15	58

(2) 公立ホール・劇場マネージャーコース

コース名	マネージャーコース
参加者数	16

参考：参加申込者数17名

①都道府県別

	内訳
北海道	
青森	
岩手	
宮城	1
秋田	
山形	
福島	
茨城	
栃木	
群馬	
埼玉	1
千葉	1
東京	2
神奈川	
新潟	
富山	
石川	
福井	1
山梨	
長野	2
岐阜	
静岡	
愛知	1
三重	
滋賀	
京都	
大阪	
兵庫	2
奈良	
和歌山	
鳥取	1
島根	
岡山	1
広島	
山口	
徳島	
香川	
愛媛	
高知	
福岡	2
佐賀	1
長崎	
熊本	
大分	
宮崎	
鹿児島	
沖縄	
合計	16

②採用形態別

	内訳
公務員	4
プロパー	12
その他	
合計	16

③性別

	内訳
男	15
女	1
合計	16

④年代別

	内訳
20代	
30代	1
40代	9
50代	3
60代	3
合計	16

(3) アートミュージアムラボ

コース名	アートミュージアムラボ
参加者数	12

参考：参加申込者数13名

①都道府県別

	内訳
北海道	
青森	
岩手	
宮城	
秋田	
山形	
福島	
茨城	
栃木	
群馬	
埼玉	2
千葉	
東京	
神奈川	
新潟	
富山	
石川	
福井	
山梨	
長野	1
岐阜	1
静岡	
愛知	2
三重	
滋賀	
京都	
大阪	2
兵庫	2
奈良	
和歌山	
鳥取	
島根	
岡山	
広島	
山口	
徳島	
香川	
愛媛	
高知	
福岡	
佐賀	
長崎	1
熊本	1
大分	
宮崎	
鹿児島	
沖縄	
合計	12

②採用形態別

	内訳
公務員	3
プロパー	9
その他	
合計	12

③性別

	内訳
男	3
女	9
合計	12

④年代別

	内訳
20代	7
30代	2
40代	3
50代	
60代	
合計	12

(4) 広島セッション

コース名	ホール入門	自主事業Ⅰ (音楽)	自主事業Ⅱ (演劇)	合計
参加者数	20	14	13	47

参考：参加申込者数48名

①都道府県別

	入門	自主事業Ⅰ	自主事業Ⅱ	合計
北海道	2			2
青森				
岩手				
宮城				
秋田				
山形				
福島				
茨城	2			2
栃木	1			1
群馬				
埼玉				
千葉				
東京	1	1	1	3
神奈川			2	2
新潟				
富山	1		1	2
石川			1	1
福井				
山梨				
長野	2	2	1	5
岐阜				
静岡	1	1		2
愛知	2	1	1	4
三重				
滋賀				
京都				
大阪		1		1
兵庫	3		2	5
奈良				
和歌山				
鳥取				
島根	2	1		3
岡山		2		2
広島	2	2	1	5
山口				
徳島				
香川				
愛媛				
高知				
福岡	1	2	2	5
佐賀				
長崎			1	1
熊本				
大分				
宮崎				
鹿児島		1		1
沖縄				
合計	20	14	13	47

②採用形態別

	入門	自主事業Ⅰ	自主事業Ⅱ	合計
公務員	5	3	1	9
指定管理者	15	11	12	38
その他				
合計	20	14	13	47

③性別

	入門	自主事業Ⅰ	自主事業Ⅱ	合計
男	9	5	5	19
女	11	9	8	28
合計	20	14	13	47

④年代別

	入門	自主事業Ⅰ	自主事業Ⅱ	合計
20代	13	6	5	24
30代	5	3	6	14
40代	2	3	2	7
50代		1		1
60代		1		1
合計	20	14	13	47

3 コーディネーター・講師一覧

(1) ステージラボ 新潟セッション

【コーディネーター】

○ホール入門コース

真田 弘彦 (りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館 事業課長)

○自主事業Ⅰ (音楽) コース

榎本 広樹 (りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館 事業課)

○自主事業Ⅱ (舞台芸術) コース

久野 敦子 (公益財団法人セゾン文化財団 プログラム・ディレクター)

【講師】

○ホール入門コース

佐藤 隆弘 (文化庁芸術文化課文化活動振興室)

唐津 絵理 (公益財団法人愛知県文化振興事業団)

山口 茂徳 (小美玉市四季文化館みの〜れ)

田中 恵子 (りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館 施設課)

金森 穰 (Noism 芸術監督)

唐津 絵理 (愛知芸術文化センター・愛知県芸術劇場 シニアプロデューサー)

上杉 晴香 (Noism 制作統括)

児玉 真 (一般財団法人地域創造プロデューサー)

いわき芸術文化交流館アリオス チーフ プログラム オフィサー)

寺田 尚弘 (りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館 事業課)

加藤 礼子 (ヴァイオリニスト)

中村 哲子 (ピアニスト)

伊藤 香織 (りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館 事業課)

中尾 友彰 (りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館 事業課)

石田 覚 (りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館 事業課)

福井 健策 (弁護士)

○自主事業Ⅰ (音楽) コース

松原 健 (株式会社 ヒラサ・オフィス)

小林 淳一 (りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館 事業課)

寺田 尚弘 (りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館 事業課)

伊藤 香織 (りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館 事業課)

中尾 友彰 (りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館 事業課)

佐藤 裕美 (クリエイティブランド晴れ日)

瀧村 依里 (ヴァイオリニスト)

國井 拓也 (株式会社アルビレックス 新潟マーケティンググループ)

葉葺 正幸 (株式会社和僑商店 代表取締役)

横木 裕子 (りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館 事業課)

○自主事業Ⅱ (舞台芸術) コース

片山 正夫 (公益財団法人セゾン文化財団)

日沼 禎子（女子美術大学 准教授）
橋本 裕介（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団 プログラムディレクター）
中野 成樹（有明教育芸術短期大学 講師）

○共通プログラム

瀧村 依里（ヴァイオリニスト）
鈴木 慎崇（ピアニスト）
中尾 友彰（りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館 事業課）

（2）ステージラボ 公立ホール・劇場 マネージャーコース

【コーディネーター】

草加 叔也（有限会社空間創造研究所 代表）

【講師】

柏木 陽（NPO 法人演劇百貨店 代表）
岩崎 孔二（豊岡市民プラザ 館長）
真田 弘彦（りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館 事業課長）
北風 幸一（文化庁文化部芸術文化課 文化活動振興室 室長）※
中川 幾郎（帝塚山大学名誉教授・大阪大学博士）※
津村 卓（一般財団法人地域創造プロデューサー）※
松井憲太郎（富士見市民会館キラリ☆ふじみ 館長）

※「文化政策幹部セミナー」との合同ゼミ

（3）アートミュージアムラボ

【コーディネーター】

拝戸 雅彦（愛知県国際芸術祭推進室主任主査／あいちトリエンナーレキュレーター）

【講師】

藤川 哲（山口大学人文学部 教授）
武藤 隆（あいちトリエンナーレ アーキテクト）
天野 太郎（横浜美術館 主席学芸員）
森田 靖久（豊川市桜ヶ丘ミュージアム 学芸員）
千葉真智子（岡崎市美術博物館 学芸員）
山田 論（名古屋市美術館 学芸係長）

(4) ステージラボ 広島セッション

【コーディネーター】

○ホール入門コース

津村 卓 (北九州芸術劇場 館長兼チーフプロデューサー／地域創造プロデューサー)

○自主事業Ⅰ (音楽) コース

山本 若子 (有限会社N.A.T 取締役／地域創造 公共ホール音楽活性化事業コーディネーター)

○自主事業Ⅱ (演劇) コース

平田オリザ (劇作家・演出家／こまばアゴラ劇場芸術監督／劇団「青年団」主宰／地域創造理事)

【講師】

○ホール入門コース

大月ヒロ子 (有限会社アイデア代表取締役)

田村 緑 (ピアニスト)

北村 成美 (ダンサー／コレオグラファー)

多田淳之介 (富士見市民文化会館キラリ☆ふじみ芸術監督)

坂田 雄平 (北九州芸術劇場 舞台事業課)

○自主事業Ⅰ (音楽) コース

大上 仁彦 (アーバン・サクソフォン・カルテット)

小林 浩子 (アーバン・サクソフォン・カルテット)

中村 優香 (アーバン・サクソフォン・カルテット)

千葉 一喜 (アーバン・サクソフォン・カルテット)

児玉 真 (一般財団法人地域創造プロデューサー／

いわき芸術文化交流館アリオス チーフ プログラム オフィサー)

○自主事業Ⅱ (演劇) コース

杉山 至 (劇団「青年団」舞台美術家)

○共通プログラム

ノゾエ征爾 (演出家／俳優／ 劇団「はえぎわ」主宰)

金沢 章子 (アステールプラザ 事業担当)

4 スタッフ一覧

(1) ステージラボ 新潟セッション

○一般財団法人地域創造

高尾 和彦 (事務局長)

斎藤 正治 (企画課長)

津村 卓 (北九州芸術劇場 館長兼チーフプロデューサー／地域創造プロデューサー)

都留 誠、宇野加奈子、角南 晴久、水上 俊秀 (事務局)

井上 裕士 (ホール入門コース)

森田 梨佐 (自主事業Ⅰ (演劇)コース)

桐田 郁 (自主事業Ⅱ (舞台芸術)コース)

- 公益財団法人新潟市芸術文化振興財団
 - 竹内美樹子、石川 尚朋（事務局）
 - 金子 竜介（ホール入門コース）
 - 伊藤 香織（自主事業Ⅰ(音楽)コース）
 - 岡田 康之（自主事業Ⅱ(舞台芸術)コース）

（２）ステージラボ 公立ホール・劇場 マネージャーコース

- 一般財団法人地域創造
 - 有岡 宏（事務局長）
 - 斎藤 正治（企画課長）
 - 津村 卓（北九州芸術劇場 館長兼チーフプロデューサー／地域創造プロデューサー）

 - 宇野加奈子（芸術環境部）
 - 角南 晴久（芸術環境部）

（３）アートミュージアムラボ 愛知セッション

- 一般財団法人地域創造
 - 有岡 宏（事務局長）
 - 斎藤 正治（企画課長）

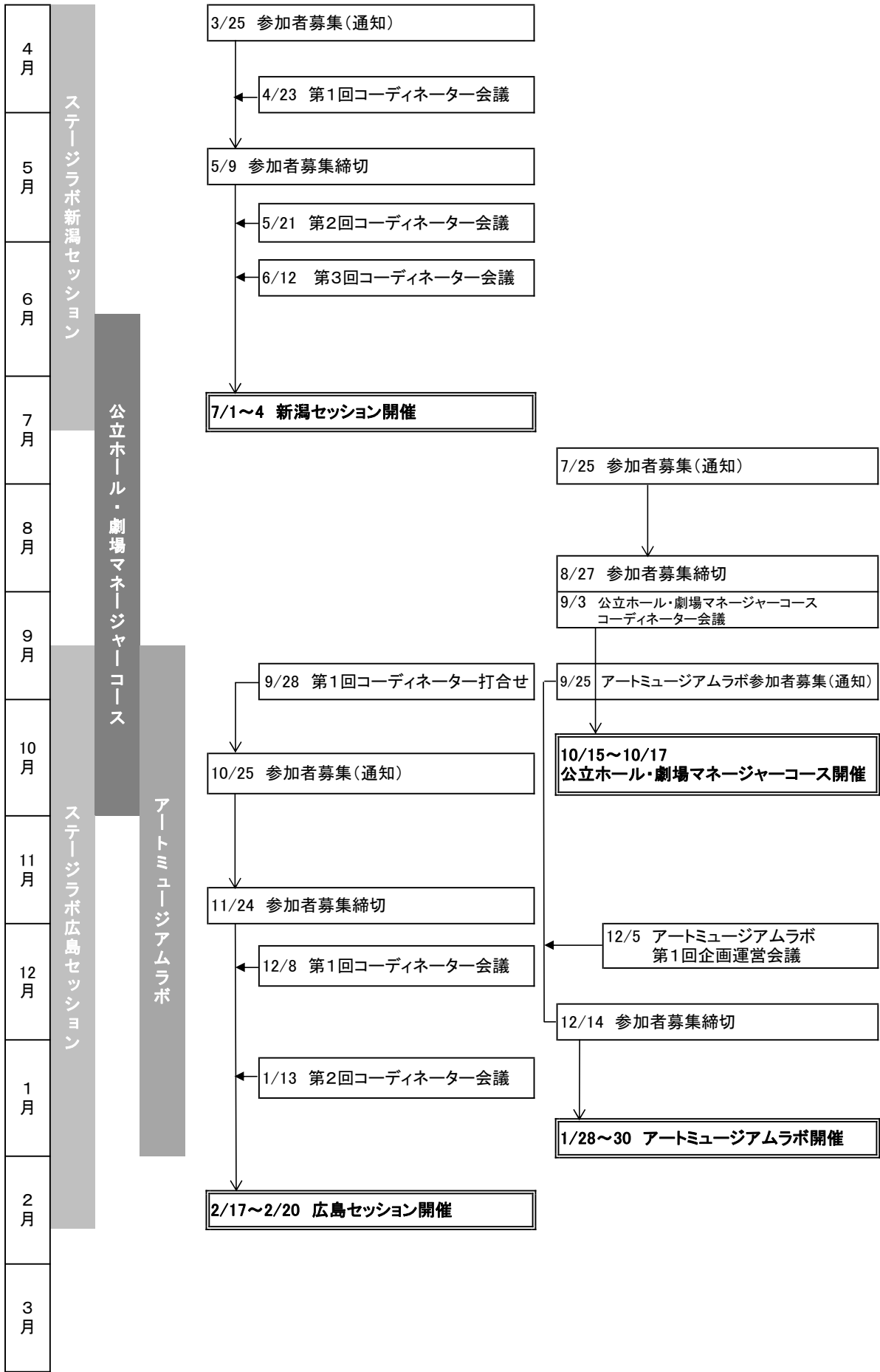
 - 山崎 菜未（芸術環境部）
 - 角南 晴久（芸術環境部）
 - 布施 知範（総務部）
 - 下川 華奈（総務部）
- 愛知県国際芸術祭推進室
 - 中野 充康、小田 貴之
- 愛知芸術文化センター
 - 樋口 光男

（４）ステージラボ 広島セッション

- 一般財団法人地域創造
 - 有岡 宏（事務局長）
 - 斎藤 正治（企画課長）

 - 宇野加奈子、都留 誠、角南 晴久、栗林 礼也、大垣 敬子、水上 俊秀（事務局）
 - 兒島 安希（ホール入門コース）
 - 宇野 希美（自主事業Ⅰ(音楽)コース）
 - 江口 隆志（自主事業Ⅱ(演劇)コース）
- アステールプラザ
 - 高宮 敏浩、竹岡 伸洋（事務局）
 - 引地 由姫（ホール入門コース）
 - 加藤 恵美（自主事業Ⅰ(音楽)コース）
 - 市谷浩右平（自主事業Ⅱ(演劇)コース）

5 実施日程（参加者募集～研修実施の流れ）



Ⅲ ステージラボ

新潟セッション

■7月1日(火) 第1日

【研修スケジュール】

	ホール入門コース	自主事業Ⅰ(音楽)コース	自主事業Ⅱ(舞台芸術)コース
	コーディネーター 真田弘彦 (りゅーとぴあ新潟市民芸術文化会館 事業課長)	コーディネーター 榎本広樹 (りゅーとぴあ新潟市民芸術文化会館 事業課主査)	コーディネーター 久野敦子 (公益財団法人セゾン文化財団 プログラ ム・ディレクター)
主会場	練習室4・スタジオA	練習室5	スタジオA・劇場舞台
9:00			
10:00			
11:00			
12:00			
13:00			
14:00	13:30 受付 会場:劇場ホワイエ		
15:00	14:00 オリエンテーション・施設見学等 会場:劇場ほか		
16:00	15:00 ゼミ1「アイス・ブレイク(他己紹介)」 講師:真田弘彦 会場:練習室4	15:00 ゼミ1「アイス・ブレイク&グループ作り」 講師:榎本広樹 会場:劇場ホワイエ	15:00 ゼミ1「本コースのねらいと自己紹介」 講師:久野敦子 会場:スタジオA
17:00	休憩(15分程度)	休憩(10分程度)	
18:00	17:15 ゼミ2「公共ホールとは？」 講師:真田弘彦 会場:練習室4	16:30 ゼミ2「探す」「出会う」 講師:松原健(株式会社ヒラサ・オフィス) 会場:練習室5	16:30 ゼミ2「公共劇場と舞台芸術」 講師:片山正夫(公益財団法人セゾン文 化財団) 会場:スタジオA
19:00	休憩・移動		
20:00	19:00 全体交流会 会場:イタリアンレストラン『リバーージュ』		
21:00			

	ホール入門コース	自主事業Ⅰ(音楽)コース	自主事業Ⅱ(舞台芸術)コース
主会場	コーディネーター 真田弘彦 (りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館 事業課長)	コーディネーター 榎本広樹 (りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館 事業課主査)	コーディネーター 久野敦子 (公益財団法人セゾン文化財団 プログラム・ディレクター)
9:00	練習室4・スタジオA	練習室5	スタジオA・劇場舞台
10:00	9:30 ゼミ3 「劇場法の制定と指針が求めるものとの国の補助制度」 講師:佐藤隆弘(文化庁芸術文化課文化活動振興室) 会場:練習室4	9:30 ゼミ4 「目覚ましディスカッション」 講師:榎本広樹 会場:練習室5 休憩(10分程度)	9:30 ゼミ3 「アーティスト・イン・レジデンス～ クリエイション・プロセスを支える 仕組みーゼミ1」 講師:日沼禎子(女子美術大学) 会場:スタジオA
11:00	11:00 休憩・移動	10:30 ゼミ5 「デザインの入口に立つ」 講師:佐藤裕美(クリエイティヴランド晴れ日) 会場:練習室5	11:00 休憩・移動
12:00	11:30 共通プログラム 『りゅーとぴあ1コイン・コンサート「超絶技巧と美音“ヴァイオリン”』』の鑑賞 出演:瀧村依里、鈴木慎崇 会場:コンサートホール		
13:00	12:30 昼食・休憩	12:30 昼食・休憩	12:30 昼食・休憩
14:00	13:30 共通プログラム 「りゅーとぴあ1コイン・コンサート」担当者と出演者のトークと意見交換 講師:瀧村依里、鈴木慎崇、中尾友彰 会場:劇場		
15:00	14:30 休憩・移動	14:30 休憩・移動	14:30 休憩・移動
16:00	14:45 ゼミ4 「公的資金の助成制度と助成金獲得のポイント」 講師:唐津絵理(愛知芸術文化センター) 会場:練習室4 休憩(15分程度)	14:40 ゼミ6 「キャッチ&リードを作る」 講師:榎本広樹 会場:練習室5 休憩(10分程度)	14:45 ゼミ4 「アーティスト・イン・レジデンス～ クリエイション・プロセスを支える 仕組みーゼミ2」 講師:日沼禎子 会場:スタジオA 休憩(15分程度)
17:00	16:30 ゼミ5 「ホールが果たす役割・ホールがもたらすもの」 講師:山口茂徳(小美玉市四季文化館の〜れ館長) 会場:練習室4 休憩(15分程度)	15:50 ゼミ7 「企画の種と成長の軌跡」 講師:瀧村依里(ヴァイオリニスト) 会場:練習室5 休憩(10分程度)	16:30 ゼミ5 「アーティスト・イン・レジデンス～ クリエイション・プロセスを支える 仕組みーゼミ3」 講師:日沼禎子 会場:スタジオA 休憩(15分程度)
18:00	18:45 ゼミ6 「フロントスタッフの心構えと接遇」 講師:田中恵子(りゅーとぴあチーフレセプションリスト) 会場:練習室4	17:00 ゼミ8 「地域のPRツールを探し出そう」 講師:榎本広樹 会場:練習室5 休憩(30分程度)	18:30 ゼミ6 「国際交流の未来像 -Kyoto Experimentの取り組み その1」 講師:橋本裕介(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団) 会場:スタジオA
19:00	20:30 休憩	18:30 ゼミ9 「快適なコンサート環境を整えるために」 講師:榎本広樹 会場:練習室5	20:30 休憩
20:00	20:30 休憩	19:10 ゼミ10 「舞台芸術という『商品』の特質を探る」 講師:榎本広樹 会場:練習室5	20:30 休憩
21:00	20:30 休憩	20:30 休憩	20:30 休憩

■7月3日(木) 第3日

【研修スケジュール】

	ホール入門コース	自主事業Ⅰ(音楽)コース	自主事業Ⅱ(舞台芸術)コース
	コーディネーター 真田弘彦 (りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館 事業課長)	コーディネーター 榎本広樹 (りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館 事業課主査)	コーディネーター 久野敦子 (公益財団法人セゾン文化財団 プログラ ム・ディレクター)
主会場	練習室4・スタジオA	練習室5	スタジオA・劇場舞台
9:00			
10:00	9:30 ゼミ7「アーティストに聞いてみよう！」 講師:金森穰(Noism芸術監督) 唐津絵理 上杉晴香(Noism制作統括)	9:30 ゼミ11「目覚ましディスカッション」 講師:榎本広樹 会場:練習室5	9:30 ゼミ7「公共圏における表現 -Kyoto Experimentの取り組み その2」 講師:橋本裕介 会場:スタジオA
11:00	会場:練習室4	休憩(10分程度) 10:30 ゼミ12「マーケットに伝える」 講師:國井拓也(株式会社アルビレックス 新潟マーケティンググループ) 会場:練習室5	
12:00	12:00 昼食・休憩	11:50 昼食・休憩	12:00 昼食・休憩
13:00	13:00 ゼミ8「アウトリーチの必要性と政令市 版音活事業の組み立て」 講師:児玉真(いわき芸術文化交流館 アリオス)、寺田尚弘(りゅーとぴ あ事業課)	12:50 ゼミ13「PR作戦立案」 講師:榎本広樹 会場:練習室5	13:00 ゼミ8「演劇ワークショップ:動いて、聴 く」 講師:中野成樹(有明教育芸術短期大 学講師)
14:00	会場:練習室4	休憩(10分程度) 14:00 ゼミ14「PR作戦発表」 講師:榎本広樹 会場:練習室5	会場:能楽堂・劇場舞台
15:00	休憩(15分程度)	休憩(10分程度)	休憩(15分程度)
16:00	15:15 ゼミ9「アウトリーチ現場体験～登録ア ーティストとの意見交換」 講師:児玉真、寺田尚弘、 加藤礼子(ヴァイオリニスト)、 中村哲子(ピアニスト)	15:10 ゼミ15「ブランディング」 講師:葉草正幸(株式会社和僑商店 代表取締役) 会場:練習室5	15:15 ゼミ9「演劇ワークショップ、2種盛」 講師:中野成樹 会場:劇場舞台
17:00	会場:スタジオA	休憩(10分程度) 16:40 ゼミ16「顧客管理」 講師:横木裕子(りゅーとぴあ広報・営業 担当) 会場:練習室5	
18:00	休憩(15分程度)	会場:練習室5	休憩(15分程度)
19:00	18:00 ゼミ10「育成事業参加者に聞いてみよ う！」 講師:寺田尚弘、伊藤香織、中尾友彰、 石田覚(りゅーとぴあ事業課)	休憩(30分程度) 18:30 ゼミ17「公共ホールに税金を使っていい という理由を100個、探し出そう。」 講師:榎本広樹 会場:練習室5	18:00 ゼミ10「創作タイム、プレ発表」 講師:中野成樹 会場:劇場舞台
20:00			
21:00	20:30	20:30	20:30

■7月4日(金) 第4日

【研修スケジュール】

	ホール入門コース	自主事業Ⅰ(音楽)コース	自主事業Ⅱ(舞台芸術)コース
	コーディネーター 真田弘彦 (りゅーとびあ 新潟市民芸術文化会館 事業課長)	コーディネーター 榎本広樹 (りゅーとびあ 新潟市民芸術文化会館 事業課主査)	コーディネーター 久野敦子 (公益財団法人セゾン文化財団 プログラム・ディレクター)
主会場	練習室4・スタジオA	練習室5	スタジオA・劇場舞台
9:00			
10:00	9:30 ゼミ11「ゼミ12へのアプローチ」 講師:真田弘彦 会場:スタジオA	9:30 ゼミ18「目覚ましディスカッション」 講師:榎本広樹 会場:練習室5	9:30 ゼミ11「手直し、発表、言いあい、ふりかえり」 講師:中野成樹 会場:劇場舞台
11:00	10:00 ゼミ12「知っておいたほうが良い公共ホールの管理運営に関わる著作権と法律」 講師:福井健策(弁護士) 会場:スタジオA	休憩(10分程度) 10:30 ゼミ19「4日間の発見を、A4一枚に」 講師:榎本広樹 会場:練習室5	
12:00	12:00 昼食・休憩	11:30 昼食・休憩	12:00 昼食・休憩
13:00		12:30 ゼミ20「発見の共有」 講師:榎本広樹 会場:練習室5	
14:00	13:00 ゼミ13「発表と振り返り」 講師:真田弘彦 会場:スタジオA	休憩(20分程度) 13:50 ゼミ21「公共ホールの職員には、〇〇がある」 講師:榎本広樹 会場:練習室5	13:00 ゼミ12「まとめと振り返り」 講師:久野敦子 会場:劇場ホワイエ
15:00	14:30 アンケート記入・休憩・移動	14:30 アンケート記入・休憩・移動	14:30 アンケート記入・休憩・移動
16:00	15:00 修了式		
17:00			
18:00			
19:00			
20:00			
21:00			

2 各コースについて

(1) ホール入門コース

① 総 評

コーディネーター 真田 弘彦

ホール入門コースは、公共ホールの業務に就いて、まだ1年半未満の方を対象にしたゼミということで、参加者21名中14名が業務に就いて3カ月程度の方でした。また、参加者の担当業務も事業担当のほか管理を担当している方もいて、施設の管理形態も指定管理者、直営、管理委託など様々で、プログラムの組み立てに結構悩みつつ、次のように考え進行しました。

私たちが管理運営する公共ホールは、バブル崩壊後の長引く経済低迷とそれに伴う所有自治体の財政難から管理面、事業面の予算が削減されるなど、未だに厳しい状況下におかれています。

一方、文化・芸術の持つ創造力そのものが社会的価値や公共ホールが社会的包摂機能を有することなどから、公共ホールの役割が期待されています。また、一昨年には、公共ホールの根拠法ともいえる「劇場・音楽堂等の活性化に関する法律」が施行され、それをバックボーンとした国の支援制度も充実してきています。

今回のホール入門コースでは、上記のことを踏まえ「ホールの役割と存在価値を探そう！」をテーマとして、大きく三つの構成でプログラムを組み立ててみました。

まず、公共ホールについて理解を深めることからスタートしました。全国に2000以上存在するといわれる公共ホールの中で、自分が働くホールがどのような時代に建設され、社会情勢、経済情勢、芸術文化の潮流に対応するトレンドとハード・ソフト面における問題点をもった施設なのか。また、公の施設としての制度上の位置付け、自治法改正に伴う管理運営形態や設置目的の変遷などについて改めて確認しました。

参加者からは、大きな流れとして多目的ホールから専門ホールへの変化、ハード先行からソフト重視への考え、公共ホールへの専門家（民間人）の登用など、公共ホールが創造活動の専門機関としての役割が求められてきていること、実演芸術の鑑賞の場に止まらず、地域社会の再生と発展に向けた役割が求められていることを認識していただけたのではないのでしょうか。

続いて、劇場・音楽堂等の活性化に関する法律や指針が求めることを共有してもらい、それをバックボーンとした国の補助事業など、公的資金による補助金等の獲得テクニックを学んでいただきました。公共ホールの仕事に就いたばかりのホール入門コースの参加者にとっては、少し実感性のないことだったかもしれませんが、公的資金の活用はホールの利用者の拡大を図るためにも活用価値があると思うので、これから公的資金の補助制度にしっかりアンテナを張っていただきたいと思います。

最後は、市内の3つの文化ホールを拠点とする「小美玉市まるごとホール計画」に基づき、市民と一体となって様々な事業に取り組む小美玉市の事例、今回のラボ開催館であるりゅーとぴあのレジデンシャル・ダンス・カンパニーNoismとジュニア育成事業に関わるスタッフや参加者との対話を通して、「ホールの役割や存在価値」を探っていただきました。

今回のテーマ「ホールの役割と存在価値を探そう！」の答えは当然多様で一つの正解が掲げられるものではありません。むしろ個性的な地域づくりの拠点としての役割が求められていることからすれば多様であるべきだと思います。

小美玉市の事例からは、「住民主役・行政支援」という考えを基本として、ホールを核とした地域住民参画による文化のまちづくりを実践し、地域住民の中にホールの存在価値とそれぞれの役割が共有できていることが素晴らしいと思いました。

また、りゅーとびあ舞踊部門芸術監督の金森穰から参加者に向けられたシンプルなメッセージ、“強い信念をもって目的に突き進むこと”が印象に残りました。きっと、ホールに関わるスタッフ1人々の志からホールの存在価値が生まれてくるのではないかと受け止めました。

ジュニア育成事業のメンバーからは、“自分の悩みの相談に乗ってもらえる場である”“不登校だった自分の家のような場所”“人の心に何が届くのかということを知った”“スタッフが私たちのファンでいてくれることがうれしい”など、音楽や芝居の技術的なこと以外に、人と人の心を繋ぐ多くのことが得られ学べる場になっていることが窺えました。ここからも、公共ホールの役割の一つが見えたようでした。

ステージラボは、講師と参加者の双方向のコミュニケーションを重視し、少人数ゼミ形式により実践的に取り組む研修で、講師の情熱と経験に基づく講義とワークショップやグループ討議などを通して、参加者が何を受け止め、自分の心の中にどのような化学反応を起こせるのかが鍵だと思います。最終ゼミ「発表と振り返り」の場で、これからの仕事に向けて新たな「意欲と情熱」を感じる参加者のコメントから私自身もエネルギーをもらい熱くなりました。ホール入門コースの皆さんに感謝！そしてお疲れさまでした！

最後になりますが、お忙しいところ講師を務めていただきました皆さん、各コースの運営やラボ全体の運営を支えてもらった頼もしいりゅーとびあのスタッフ、そしてステージラボ二回目目の最初の開催館としてりゅーとびあを選択し、素晴らしい機会を与えていただきました地域創造の皆さんに感謝します。

②ゼミ記録

—第1日— 7月1日（火）

ゼミ1 「アイスブレイク（他己紹介）」

講師： 真田 弘彦

二人一組のペアをつくり、それぞれのバックグラウンドについて（名前、出身地、施設名・所属、仕事内容、趣味等）聞き出し、相手に成り代わって紹介してもらった。また、紹介後には紹介内容に間違いがなかったか確認するとともに質問の時間を設けた。ここで、初めて出会う参加者の緊張が解れ、参加者全体のコミュニケーションも図ることができ、4日間のゼミが楽しく進行できる入り口をつくった。



ゼミ2 「公共ホールとは？」

講師： 真田 弘彦



実質的なゼミのスタートとして、公共ホールの歴史を確認することにした。我が国における公共ホールの建設的背景について、江戸時代～明治時代における芝居小屋（農村舞台）から始まり、公会堂～市民会館・文化会館～専門ホール・芸術劇場へと変化してきたこと、その時代々に抱えていた課題と考え方を理解していただいた。また、公の施設の一つである公共ホールの制度（地方自治法）上の位置付けと根拠法がないことの問題点、自治法の改正による管理形態の変遷、条例上の設置目的に音楽や演劇などの内容が明確に示される方向に変化していることなどを説明し、この後のゼミへの導入とした。

—第2日— 7月2日（水）

ゼミ3 「劇場法の制定と指針が求めるものと国の補助制度」

講師： 佐藤 隆弘

地域創造のステージラボで文化庁の職員から講師を務めていただくことが初めてだというゼミで、講師の佐藤さんからは、劇場法や指針に記載されている文言についての説明というより、法律や指針に秘められている

ことや佐藤さんの熱い想いを聞くことができた。印象に残ることで、「劇場法は関係者の悲願で劇場・音楽堂の思いが詰まったもの、法律は大きな劇場・音楽堂だけのものではない、これから皆さんが、劇場を愛する人、ホールが有る生活をつくることが重要」というメッセージをいただいた。私はこのゼミで、これからの劇場・音楽堂運営のスタート地点に連れて行ってもらった気がした。参加者の皆さんは如何に？



ゼミ4 「公的資金の助成制度と助成金獲得のポイント」

講師： 唐津 絵理

このゼミでは、前段で「重要性が高まる資金調達」と題して、劇場法の指針で経営の安定化に関する事項として「多様な財源を確保することが」求められていること、財源確保の手法として、公的助成事業、民間助成事業



による助成金獲得があることと具体的な助成制度について説明した。続いて、講師の唐津さんから豊富な実務経験を通じた助成金獲得のポイントについてレクチャーしていただいた。企画段階のポイントや申請書作成における注意点など実務に則したテクニックを学んでもらった。ホール業務に就いたばかりのホール入門コースの参加者にとっては、少し実感性のないことだったかもしれないが、今後きっと活かせるものになるだろう。

ゼミ5 「ホールが果たす役割・ホールがもたらすもの」

講師： 山口 茂徳

今回のホール入門コースのテーマ「ホールの役割と存在価値を探そう！」を考える上で参考にしてもらおうゼミの第一弾である。3町村の合併により3施設が市の公共ホールとなり、その施設を核とした「小美玉市まるごと文化ホール計画」を掲げ、“住民主役・行政支援”を基本に据え3施設の個性・独自性を活かしながら文化的なまちづくりを進めている取り組みを紹介してもらった。地域住民を主役として、様々な住民参画・運営体制が構築され、住民とホール（行政）の役割をお互いが理解し合いながら、ホールが住民の財産として活用されていることが素晴らしいと思えた。予算が無くても工夫により存在価値は創れるのだ！



ゼミ6 「フロントスタッフの心構えと接客」

講師： 田中 恵子

今回のホール入門コースは座学的な内容が多いことから、少し息抜きも含め、このゼミを組んだ。りゅーとぴあのチーフレセプションから接客業務について、りゅーとぴあで実践していることをベースとして、姿勢、表情、話し方・聞き方、言葉使い（接客基本用語）などの説明を受け、その後劇場ホワイエで参加者からチケットテイク、パンフレット配布、お客様の役割に分かれて、動作・立ち居振る舞いの確認をもらった。そこでは個性的な動きを取る（チケットを離さないお客様や複数枚のチケットを一人のお客様から渡された場合など）お客様への対応についてもアドバイスをいただいた。



—第3日— 7月3日（木）

ゼミ7 「アーティストに聞いてみよう！」

講師： 金森 穰、唐津 絵理、上杉 晴香

今回のホール入門コースのテーマ「ホールの役割と存在価値を探そう！」を考える上で参考にしてもらうゼミの第二弾として、りゅーとぴあ舞踊部門芸術監督である金森穰さんに登場いただくことにした。前半はNoismの設立経緯、運営形態、制作担当の仕事内容などについて担当者から説明を受けた。後半は自ら舞踊経験と豊富な事業経験をもつ唐津絵理さんに聞き手を務めていただき、金森穰さんから劇場専属の芸術団体として活動する立場からの劇場の存在意義や日本と海外の劇場の違い、今後の可能性や実現したいことなどについて聞くことができた。その中で、“成果主義ではなく活動を継続していくことでお互い（劇場と芸術団体・芸術家）の信頼をつくっていくこと、公共ホールの職員として強い信念を持つことが重要だ”というメッセージをいただいた。また、自らの活動の源は“日本の劇場を変えていきたい”という熱い思いがあることを語ってくれた。



ゼミ8 「アウトリーチの必要性と政令市版音活事業の組み立て」

講師： 児玉 真、寺田 尚弘

このゼミでは、近年盛んに取り組まれているアウトリーチ事業を取り上げてみた。各地で演奏家へのアウトリーチ講習会などを通じてアーティストとホールを結びつける演奏家育成に取り組んでいる児玉真さんから「アウトリーチは地域を元気にするか」をテーマに、「アウトリーチとはどういうことか?」「日本のアウトリーチの歴史と意義」「公共ホールの役割とアウトリーチ」などの切り口で児玉さんの経験に基づく話が聞けた。また、いわき市での実践を通して得た、アウトリーチ手法による地域の演奏家育成に対する考えも併せて聞くことができた。後段では、児玉さんからも指導を頂きながら取り組んできた、地域の登録アーティストによるりゅーとぴあアウトリーチ事業の組み立て手順とこれまでの実績、今後の展開について説明を受け、次のゼミ9へのアプローチとした。



ゼミ9 「アウトリーチ現場体験～登録アーティストとの意見交換」

講師： 児玉 真、寺田 尚弘、加藤 礼子、中村 哲子

ゼミ8のアウトリーチに対する講義を受け、ゼミ9ではりゅーとぴあの登録アーティストを迎え、実際の現場体験をしてもらった。昨年は小学校の子どもを対象に実施してきたアウトリーチを今年度から福祉施設など大人を対象に実施することから、登録アーティスト自身にとっても参加者をお客様とした試験的な場となり、今後の実施に向けて手応えを感じたようだ。体験終了後には、登録アーティストと参加者の意見交換を行い、登録アーティストへの応募動機やプログラムを組み立てるプロセスでのエピソードなど貴重な話が聞けた。また、登録アーティストとしてアウトリーチは演奏活動だけでは得ることのできない貴重な経験ができる場とのことから、アウトリーチは演奏家自身を成長させるものと実感。そして、これもホールの役割の一つと納得した。



ゼミ 10 「育成事業参加者に聞いてみよう！」

講師： 寺田 尚弘、伊藤 香織、中尾 友彰、石田 覚

りゅーとぴあの主要事業として取り組んでいるジュニア音楽事業（オーケストラ、合唱、邦楽）と演劇スタジオオキッズコースの参加者をゲストに迎え、参加している子どもたちにとって、りゅーとぴあでの活動がどのような価値を持っているのか実際に話を聞いてみた。

はじめ、各事業担当者から各教室・コースの概要について説明してもらった後、ゲストの子どもたち8名から各自それぞれの想いを語ってもらった。子どもたちがラボのゲストとしてどこまで対応できるのか少し心配をしていたが、そんな心配をよそに子どもたちの堂々としたスピーチにまず感銘。ラボ参加者の皆さんからは、子どもたちのスピーチを通して、公共ホールの役割として大切なことを感じてもらえたのではないかな。

<印象に残るスピーチ>

“音楽を通じた絆や仲間ができてよかった” “スタッフ（職員）が私たちのファンです” “人の心に何が届くのかということを知った” “将来の夢をみつけた” “私を支えてくれたホームと言える”・・・そして“公立館の職員になりたい！”



—第4日— 7月4日（金）

ゼミ 11 「ゼミ 12 へのアプローチ」

講師： 真田 弘彦

ゼミ 11 は、次のゼミ 12 をお願いしている講師の時間調整を含め、これまでのゼミを少し振り返ってみた。公共ホールの歴史からはじまり、自分のホールがどの立ち位置にある施設なのか、続いて国の施策的に公共ホールに求められていることは何か、公共ホールの経営の安定化、利用者の拡大を図るための財源確保、ホールの役割と存在価値を探る参考事例などについて進めてきたがどうだったかを参加者に改めて投げかけてみたが、番外編も毎晩開催してきた4日目ということで皆さんお疲



れ気味の感じだった。実質の最後となるゼミ12はエネルギッシュな講師による著作権と法律である。皆で頑張ろうというところであった。

ゼミ12 「知っておいた方が良い公共ホールの管理運営に関わる著作権と法律」

講師： 福井 健策



ゼミ12では、りゅーとぴあの顧問弁護士を務めていただいている福井弁護士にご登場いただいた。「公共ホールの著作権と契約」という切り口で、著作権では、そもそも「著作物とは?」、「著作物から除かれる情報」、「著作権は何についての禁止権か」などについて、契約超入門では、「契約を守らないとどうなる?」、「口約束も契約か?」「これだけはおぼえたい黄金則」などについて、限られた時間の中でそれぞれ多岐わたって講義していただいた。福井弁護士は、以前演劇活動に身を置いていたこともあり、ご自身の経験してきた事や他の実例なども織り交ぜ、判りやすく説明していただいた。個人的に「契約書はそもそも読むためにあるもの」がいたく心に留まった。

ゼミ13 「発表と振り返り」

講師： 真田 弘彦

最後のゼミでは、4日間を振り返り各自の今の気持ちを発表してもらった。総評でもお伝えしたように、「ホール入門コース」は業務について1年未満の方が大半であり、ホールでの仕事内容も様々だ。果たしてコーディネーターなりに意図した各プログラムから参加者の皆さんが何を受けとめ、何を持ち帰ってもらえるのか、大げさに言えば参加者からコーディネーターとしての審判を受けるような気持ちだった。参加者からは、“これまでの3か月間がなんだったのかと思った” “自分の課題が明確になった” “3か月間のモヤモヤが消え、自分のビジョン、やりたい事をしっかりもつことが大切だと思った” “育成事業の意義発見”そして“4日間をとおして悩みが大きく深くなった”・・・などの気持ちが聞けた。



最後に、参加者の皆さんへのメッセージとして、『地域特性や文化環境を捉えた目的と信念をもって突き進むこと、その結果としてホールの存在価値が生まれてくると思う。ハード自体を変えることは難しいが、生まれてくるソフトは皆さんが変えられる』ことを伝えた。少なからず悩みも含め、参加者各自が探し当てたイメージとラボでつくれた参加者同士のネットワークを活かし、それぞれのホールで活躍してもらえたらと願って、ステージラボ新潟セッションの「ホール入門コース」の幕を下ろした。

(2) 自主事業 I (音楽) コース

① 総 評

コーディネーター 榎本 広樹

2011年、岩井秀人作・演出の劇団ハイバイ「投げられやすい石」という芝居を観た。最初は、「友達の話をします」とか言って、客席フレンドリーに始まった。でも、やがて登場人物たちの、人間としてのダメさ加減が露わになってくる。その一つ一つが、まるで自分のことのように感じられて、ああもう、勘弁してくれっていうところで暗転し、ゆっくりと客席に光がもどると、もう役者は舞台にいない。拍手すらできず、当然、カーテンコールもない。

この時、お客であった私たちには、逃げ場がなかった。せめて拍手ができれば、拍手さえ、させてくれれば、芝居を「終わり」にできる。その場で見たもの、気づいたものを「終わり」にして、自分の日常に帰っていきなのに、それをさせず、客を中空に放り出したまま、幕切れ。結果、客は芝居を終わりにできず、芝居で無理やり覗き込まされた自分の心の暗部の存在を確かに感じたまま、劇場の階段を妙に不安定な足取りで降りていかなければならなかった。その夜は、一緒に見に行った友と二人、ひたすらに飲んだ。二人とも、口をついて出てくるのは、一つだった。「〇〇のバカヤロー！」

良い芝居は、これだから、困る。

今回、ステージ・ラボのコーディネーターを務めさせていただくにあたり、これをやろうと思いました。

「お集まりになった皆さん、皆さんの悩みは、私の悩みです。私たちは、一緒です。」

とフレンドリーに言って（それは誓って本当のことだけれど）、受講の皆さんと4日間を共に過ごし、皆さんからの信頼を得た後で、最後にこれ以上ないハードなメッセージを手渡す。

ここまでは上手くいった。ほとんど、計算どおりだった。でも、最後の最後に私は失敗した。受講者から、拍手を受けてしまったのだ。ああ、中途半端だった。受講者が修了式から部屋に戻ってきたら、知らないうちに修了証書が机に置いてあって、ホワイトボードに、

「Someday, Somewhere.」

とだけ書いてあるようにすればよかった。私は、岩井秀人になれなかった。

ということで、中途半端なコーディネーターで申し訳ありませんでした。私のことは忘れてください。ただ、公共ホールの職員が無条件の前提として背負っている十字架の重さ、それだけ覚えていてくださるなら、この上ない幸甚に存じます。

② ゼミ記録

—第1日— 7月1日(火)

ゼミ1 「アイス・ブレイク&グループ作り」

講師：榎本 広樹

初対面の緊張をゲームでほぐし、この4日間のプログラムを乗り切つて最大の効果を得るために、受講者・スタッフ全員で一つのチームになることを目指しました。また、その後、受講者は5つのグループに分かれて自己紹介をしました。

最初の30分で、全くの他人という関係から、全員で手をつなぐという段階まで至ることができたのは、参加者の前向きな姿勢によるところ大でした。



ゼミ2 「「探す」「出会う」」

講師：松原 健



公共ホールのスタッフは、音楽家の一瞬を見ているが、音楽事務所のマネージャーはその音楽家の一生を視野に入れている。その視点の違いを学ぶことを目指しました。松原さんの、真摯かつ気さくなお人柄と赤裸々トークは、参加者に大きな衝撃を与えたようです。「自分のホールに営業に来るマネージャー氏から、こんな話は聴いたことがない」とは、複数の参加者の感想。

ゼミ3 「マーケットを知る」

講師：りゅーとぴあ音楽企画制作スタッフ

公共ホールの企画は、マーケットへの視線なくして成立しません。りゅーとぴあ音楽企画制作チームの一人一人に、自分が担当している企画の成立から現在に至るまでを話してもらい、マーケットをどのように意識しているか、垣間見ることが目的でした。



りゅーとぴあの企画は、「買ってきました、やりました、終わりました」というものがなく、工夫や付加価値、次の一手への考察が込められていることが実感されました。

—第2日— 7月2日(水)

ゼミ4 「目覚ましディスカッション「公共ホールは、ニーズに応じていけばよい」○か×か」

講師： 榎本 広樹

この後、3日間、毎朝行われたこの「目覚ましディスカッション」、極めて単純化した設問に○か×かで答えて、その論拠を言い合うという設定でしたが、初日のこの日、予想だにできなかったことが起こりました。全員がこの設問に対し、×を選んだのです。しかたなく、ファシリテーターが反対論者となって議論を進行しました。一番目が覚めたのは、ファシリテーターの方だったか？



ゼミ5 「デザインの入り口に立つ。」

講師： 佐藤 裕美



デザイン・プランナーの佐藤さんから、ホールがチラシなどを作成する際にデザイナー側とどのような打ち合わせを行い、どのような点に注意したらよいのかを端的にお話いただきました。

ここで触れられた「デザイナーの視点」を、一部だけでも自分のものにできたら、様々な印刷物を作成する際にとっても有効と感じました。

ゼミ6 「キャッチ&リードを作る」

講師： 榎本 広樹

最もシンプルなキャッチ&リード文の作成方法を学んだあと、まず自分で、その次にグループで相談しあい、ヴァイオリニスト瀧村依里さんのリサイタルを自分のホールでやるとして、どのようなキャッチ・コピーとリード文にするか、実際に作成しました。

共通ゼミで瀧村さんの演奏を実際に聴き、お話を聞いた後だったので、このようなワークショップが成立しました。



ゼミ7 「企画の種と成長の軌跡」

講師： 瀧村 依里



ヴァイオリニスト瀧村依里さんが、詩人の能祖将夫さん、ダンサーの辻田暁さんと共に、魚沼のお寺で上演したプログラムについて、その企画の発端から実現までを追いました。ちょっと特殊な企画でしたが、音楽家とアイデアを出し合い、一緒に企画を作るということはどういうことか、その一端を感じていただきたいと願ってのコマでした。

毎回、では大変ですが、時々はこのような企画ができると、お客様にもホールのスタッフにとっても、それか

ら音楽家自身にとっても、刺激になるものです。

また、コマの最後に各グループがまとめたキャッチ&リード文を発表し、瀧村さん自身が最優秀作品を選びました。

ゼミ8 「地域のPR ツールを探し出そう」

講師： 榎本 広樹

改めて、PR に使える地域のツールを数え上げようというワークショップでした。数え上げてみて、皆さんどのような感想をお持ちだったでしょう。「あれ、意外にあるんだな」とお感じになったか、それとも「あれ、私って意外に地域のこと、知らない？」と不安に思われたか。



そのどちらの気づきも、このコマで狙ったことでした。

ゼミ 9 「快適なコンサート環境を整えるために」

ゼミ 10 「舞台芸術という『商品』の特質を探る」

講 師： 榎本 広樹



まず、お客様がコンサート会場に求める「快適さ」の中身、音楽家にとってのコンサートの意味と心境、そこにいるホール職員の可能性について考えました。

その上で、私たちが取り扱っているクラシック・コンサートというものを「商品」として捉えた場合、極めて嗜好性が高いという特質があることを確認しました。そこからどんなことが推論できるのか（有名じゃない人のチケットを売る方法、マーケットの構造分析、マーケット変化への対応等）を考えました。

—第3日— 7月3日（木）

ゼミ 11 「目覚ましディスカッション「公共ホールは、専門ホールが良い」○か×か」

講 師： 榎本 広樹

目覚ましディスカッションも2回目、ようやく参加者の皆様が大人の対応をしてくださって、○派と×派にほどよく分かれて意見を伝え合いました。見学のりゅーとぴあ事業課の寺田さん・中尾さんまで、発言を求めてしまいました。ありがとうございました。

あれ？最後まで自分の意見を言わなかったのは、ファシリテーター？（そういう役割だから、許してくださいまし）



ゼミ 12 「マーケットに伝える」

講師： 國井 拓也

プロ・スポーツ不毛の地と言われた新潟に、プロ・サッカーチームを誕生させ、4万人のスタジアムをホームカラー一色で埋め尽くしたアルビレックス新潟。どのように地域社会にアプローチをしてきたか、今、何をしようとしているのか、豊富な事例をもとにお話いただきました。

前例にとらわれない、むしろ前例がないからこそやる気を持って実現にアタックしていくその姿勢こそ、学びたいと感じました。



ゼミ 13 「PR 作戦立案」

ゼミ 14 「PR 作戦発表」

講師： 榎本 広樹

前日、個人ごとに数え上げた地域 PR 資源を、今度はグループ内で持ち寄り、一つの地域を研究材料として PR 作戦を立案するワークショップを行いました。

その後、グループごとに、PR 作戦を発表しました。それぞれのグループの発表に、他のグループではあげられていなかった作戦が盛り込まれていました。その気づきを共有のものとすることがこのゼミの目的でした。

今後、PR 作戦を考えるときに、様々なツール・手法をリストアップした上で、その都度、項目を取捨選択して効率的かつ有効な PR 作戦を立てられるようになることがこのゼミの目標でした。



ゼミ 15 「ブランディング」

講師： 葉萇 正幸

糰子ドリンクという、およそ強いニーズや幅広いマーケットがあるようには思えない食品を手掛けて、お客様及び各方面から高い評価を得るに至った古町糰子製造所のケースを詳しくご紹介いただきました。一つ一つのテクニックではなく、「志を高く」というメッセージが、その場にいた多くの人の心を射抜きました。



ゼミ 16 「顧客管理」

講師： 横木 裕子



クラシック音楽が嗜好性の高いものであるなら、企画成功のカギは顧客管理にあることは自明です。そこで、りゅーとびあ友の会担当者から、これまでどのようなサービスを提供してきたかを紹介してもらいました。

自分が企画した公演ではないのに、「一生懸命スタッフが企画した公演には、絶対にいいところがある。そのいいところを、どのようにお客様に伝えるかが、私たち（広報営業）の仕事」とおだやかに言い切る姿に、プロの魂を見ました。

ゼミ 17 「公共ホールに税金を使っていいという理由を 100 個、探し出そう」

講師： 榎本 広樹

一人では絶対に無理でも、みんなの力で約 85 分で 100 項目のリスト完成！ 「これは屁理屈だろう」とか、「これとこれは同じことを言っているのでは？」といった反論・疑問はこの場では言いっこなし（だって 100 個数え上げられるまでタご飯抜きと言われてたんですから！）。100 個書いたホワイトボードを囲んで、みんなで記念撮影をしました。

この「100 個の理由」、著作権は参加者全員で共有することにしました。それぞれが、予算獲得のための論拠として使うことができます。



—第4日— 7月4日（金）

ゼミ18 「目覚ましディスカッション「指定管理者制度は、公共ホールにとって悪だ」○か×か」

講師： 榎本 広樹

さすが、3回目ともなると意見を言うのに慣れてきて、堂々としたもの。ファシリテーターは、ただ次の発言者を指さすだけで、どんどん議論が進行しました。またもや突然発言を求められたりゆーとぴあ事業課の伊藤さんと地域創造スタッフ、ありがとうございました。ほら、「その場にあるものはなんでも使う」というのが、おんかつの鉄則でしたから…このコーディネーター、そこに学んだのです。



ゼミ19 「4日間の発見を一枚に」

ゼミ20 「発見の共有」

講師： 榎本 広樹



このワークショップでは、ラボの4日間で発見したことを、個人でA4一枚にまとめました。ノートは、一度閉じてしまえば常時目にする事ができませんが、A4一枚なら、デスクマットの下にでも置けば、日々、目にする事ができます。そのための、一枚。

その後、一人一人がA4一枚にまとめた発見を、グループで共有するワークショップ。このコースで、最後のグループワークの時間でした。

ゼミ 2 1 「公共ホールの職員には、〇〇がある」

講 師： 榎本 広樹

公共ホールの職員は、街の一般の人には許されていないことが許されている。

「主催者側の一員として、企画を立案すること」

これは、特権です。そして、特権を持つ者は持たない者に対して、同義的な責任を負っていると考えられます。

公共ホールの職員は、無条件の前提として、ある種の責任がある。普段は目に見えないその十字架を、最後に受講された皆様に指し示しました。そして、その責任を果たせなければ、どうするべきかについてもお話しました。あまりに厳しい話であったために、参加者は過酷な自分の運命を呪って会場は阿鼻叫喚の嵐・・・とはなりませんでしたが、心象風景としては、まあ、そういうことでした。

おそらく、このような冷酷な終わり方をしたステージラボは、過去になかったのではないかと想像します。音楽コースの参加者は、笑顔ではなく、重苦しさと共に、帰路についたのでした。



(3) 自主事業Ⅱ（舞台芸術）コース

① 総 評

コーディネーター 久野 敦子

自身が民間の支援組織で長く仕事をしていることから、官民協働による舞台芸術における公共性の実現を、公共ホール・劇場の方々と考える場にしたいというのが、全体のプログラム構成で考えたことでした。その考えに基づき、全体を①理論編、②制作編、③実践編で構成し、公共機関および民間事業者のつなぎ手として様々な分野で活躍をしている講師陣をお招きしました。また、ゼミでは、一方的な講義形式ではなく、参加者との対話をベースに、講義を進めていただき、参加者は、全体を通して、積極的に質問、発言を投げかけ、ゼミに参加してくれました。

講義に先立ち、自己紹介、各講師のプロフィールや学ぶべきポイントなどを説明したあと、参加者の学びたいポイントがどこにあるのかを明快にするため各自の課題出しをし、最終日のまとめのゼミで、グループ形式で発表をしてもらいました。グループのメンバーは、ランチミーティングをして、まとめの作業を進めることになり、多忙ではありましたが、これが参加者間の関係を密にし、情報交流や意見交換を促す場となったように思います。

理論編は、まずは、劇場運営の基本である「舞台芸術と公共性」に関する理念的な問題を考えるところからスタートしました。講師は、芸術文化政策に詳しい片山正夫さんです。様々な「公共」を巡る議論の紹介、解説の後、ディスカッションをしました。法律的要件を満たすことや公共資金の導入がその要件という意見から地域全体で芸術文化の振興を考えるべきという幅広い考えがあり、その後続くゼミでさらに、この問題についてさらに深く考察していくことが重要だということが認識されました。

続く、制作実務編では、「アーティスト・イン・レジデンス（AIR）」と「フェスティバル」という舞台芸術界の二つのホットなトピックを中心に据え、現場で八面六臂の活躍をする二人の講師による講義でした。

一人目は、官民のAIR施設で、アーティスト支援、プロジェクト、展覧会を多数企画、運営する傍ら青森市を拠点に活動する研究者、ディレクター、プロデューサーの日沼禎子さん、二人目は、京都で開催されている地域発信型のフェスティバル「京都エクスペリメント」と、2016年1月にオープン予定のロームシアター京都のプログラム・ディレクターを務める橋本裕介さんです。二人からは、現場での生々しい事例もお話いただき、芸術活動を通しての積極的な問題提議と情熱的な取り組みに驚きを感じた参加者もいたようです。しかしながら、既存の仕組みの中で事業を考えるだけでは問題は解決できず、芸術家、外の機関と協働しながら新しい事業を興していくこと、無理と思われることでも、どうしたら可能になるのかという発想を忘れないこと、実現のための入念な準備に大胆な行動力、目的に向かう強い意志が重要であることを学びました。

実践編コースでは、中野成樹＋フランケンズの主宰、演出家の中野成樹さんにお越しいただき、作品鑑賞としての演劇と市民参加型演劇の違い、参加型ワークショップの取り組み方法、戯曲分析からせりふを読み、舞台に立つまでのワークショップを実際に体験しました。さらに参加者の中には演劇経験者もいたためか、実質一日程度のワークショップにもかかわらず、最後はオリジナル作品を創作、舞台発表を実現させました。

最初のゼミから意欲のある参加者たちでしたが、演劇ワークショップを体験したのは、参加者の関係は、さらに、オープンで親密なものになり、笑いの絶えないクラスになりました。最後のまとめのゼミのグループ毎の発表では、舞台芸術コースらしくプレゼンテーションの演出にも凝ったものがあり、参加者たちの才能に驚かされました。また、各ホールでの取り組みや解決策の提案なども話し合われ、公共ホール、劇場が地域の文化芸術発信の基地となり、地域の施設やNPOなどとも連携をとりつつ活動の幅を広げていくことの重要性について十分に認識されたことを感じました。さらに、時間があれば、官民の連携プログラムの実施シミュレーションまで出来たかもしれません。

最後になりましたが、今回のステージラボの会場のりゅーとぴあでは、素晴らしい稽古場と劇場を、ゼミのために贅沢に存分に使わせていただき、能楽堂を解説付きで案内までしていただきました。ホール入門コースに講師としていらしていた愛知県芸術劇場シニアプロデューサーの唐津絵理さんにも飛び入り参加いただき、芸術劇場の舞踊プログラムの取り組みなどについてもお話をお聞かせいただくことができました。講師、参加者、りゅーとぴあ、ステージラボのスタッフのみなさまのお蔭で充実した楽しいラボが実現できました。ありがとうございます。

② ゼミ記録

—第1日— 7月1日(火)

ゼミ1 「本コースのねらいと自己紹介」

講師： 久野 敦子

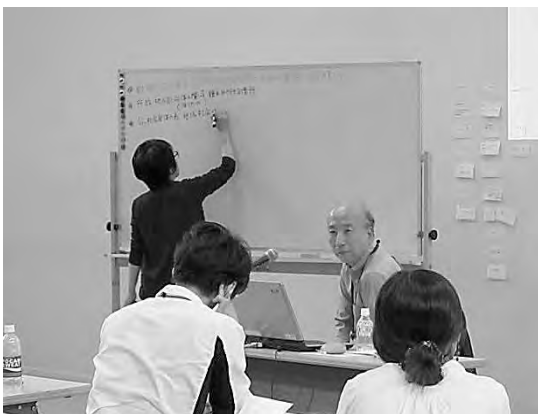
参加者のバックグラウンドや現在の仕事内容について自己紹介および様々な出自の講師による各ゼミの目的とねらいを紹介してゼミの準備をしました。また、参加者の学びたいポイントがどこにあるのかを明快にするため各自の課題出しをし、それらをテーマ別にグルーピングし担当を決め、最終日のまとめのゼミで、グループ形式で発表をし、得た物をクラス全体で共有することにしました。公共劇場の役割、滞在制作の方法、市民協働、ワークショップ、集客、広報など課題は多岐に渡り、ゼミ全体の時間割では、発表のための準備時間は設けられていなかったため、参加者からの提案で、ランチミーティングをしながらまとめの作業を進めることになりました。大変だったとは思いますが、逆に、これが参加者間の情報交流や意見交換の場となったように思います。併せて、お奨めのアーツ・マネジメント関連の図書の紹介もしました。



ゼミ2 「公共劇場と舞台芸術」

講師： 片山 正夫

理念編として、劇場が舞台芸術に関わるとき、「公共性」はどの局面に立ち現れるのだろうか？また「公共性」が認められるための条件とは何なのか？そもそも「公共性」とは何か？という原点に立ち返ってこの問題を考えました。事前に二つの課題が出され、1. 公共劇場はどのような条件を満たした劇場か。2. 公共劇場は、市場で利益を生まない芸術を扱うことを基本とすべきか。について各自3分程度話をできるように考えてくるというものでした。公共の概念を巡るいくつかの論考の紹介と解説を受けた後、公共性を巡る3つの概念：1. 公務員が行う活動が帯びるべき性質＝official、2. 参加者・構成員が共有する利害が帯びるべき性質＝common、3. 誰もがアクセスすることを拒まれない性質＝open から、事例を読み解きました。最後に課題に対する回答、およびディスカッションを実施しました。簡単に回答がでる設問ではありませんが、今回の全てのゼミに通底する問題であり、その後の受講のキーワードを獲得しました。



—第2日— 7月2日(水)

ゼミ3 「アーティスト・イン・レジデンス～クリエイション・プロセスを支える仕組み～ゼミ1」

講師： 日沼 禎子

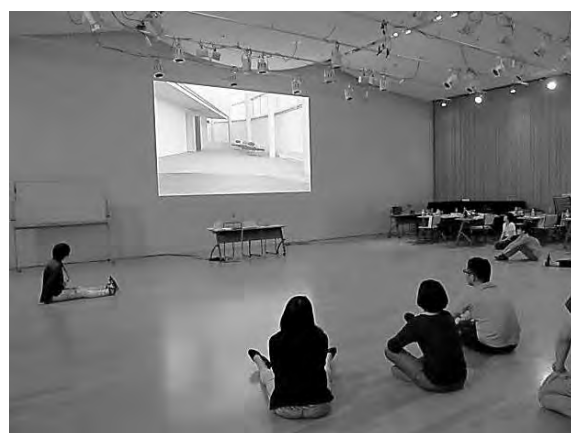
演劇、美術、音楽、文学などさまざまなジャンルを対象としたアーティストの持続的創作活動を支える仕組みAIRについての基礎を学びました。芸術家の滞在制作が芸術家と地域の双方に働きかける事例としてメディチ家やピカソ、松尾蕉の創作方法から現代のメディア・アートまで、スライドを使ってご紹介いただきました。また、国際芸術センター青森(ACAC)を中心とした自身の活動から、「閉塞的な土地が持つパワーをエネルギーに変える」方法や「公共、コミュニティとは何かを考え続けた」経験も併せて伺いました。



ゼミ4 「アーティスト・イン・レジデンス～クリエイション・プロセスを支える仕組み～ゼミ2」

講師： 日沼 禎子

ACAC での AIR によって制作された英国ダンサー・ショーネッド・ヒューズ (Sioned Huws) によるダンス作品『Aomori Aomori』の創作過程をケースに、具体的に本プロジェクトがどのように、地域資源(手踊り)に出会い、人々をプロジェクトに招き入れ、根付いていったのかを学びました。作品『Aomori Aomori』のワーク・イン・プログレス映像を見て、参加者たちも実際のダンス・ワークショップを体験し、創作のエッセンスにも触れました。



ゼミ5 「アーティスト・イン・レジデンス～クリエイション・プロセスを支える仕組み～ゼミ3」

講師： 日沼 禎子



ゼミ3、4で学んだ事例から、事業を持続的に継続するための官民協働の仕組み作りについて学びました。公共ホール・劇場、地域双方にとって「事業の持続性、継続性」が重要であることは言うまでもありませんが、単年度予算や公平性の問題から公立文化施設での継続的な取り組みは難しいのが現状です。そのような場合には、外部に協力団体や協力者がいることで、解決できることがあります。講師は、自らがアートNPOを立ち上げることで、民間の受け入れ組織を作り、官民の連携プレーで地域で継続した事業の取り組みを実現させました。また、行政担当者を味方につける方法、ファンドレイジングの方法などについても教えていただきました。

ゼミ6 「国際交流の未来像 -Kyoto Experimentの取り組み その1」

講師： 橋本 裕介

京都で誕生した国際舞台芸術祭「京都エクスペリメント」の成り立ちやその組織のあり方を紹介いただきました。まずは、フェスティバルの前身となるような小規模の事業から始めたこと、地域の文化的背景を調査し、その特性にあったプログラムの構成、会場、日程、動員目標の設定、実行組織などを作っていくことが重要であることや、京都市内の文化施設が、可能な範囲で、会場や資金、マンパワーなど提供できるものを出し合いながらフェスティバルを作りあげていること、不足部分をどのように埋めていったのかについて、具体的な数字を出しながら解説していただきました。また、海外のフェスティバルの例や具体的な国際プロジェクトの取り組みなどについても紹介いただきました。ローカルだからこそ可能な国際的なネットワークを構築する知恵と戦略の立て方が重要であることを学びました。



—第3日— 7月3日（木）

ゼミ7 「公共圏における表現 -Kyoto Experimentの取り組み その2」

講師： 橋本 裕介

京都市内のさまざまな会場で実施される「京都エクスペリメント」の事例を元に、舞台芸術がホールに



留まるのではなく、「地域ににじみ出していく」仕掛けとそれに伴う課題について考えました。アーティストと観客、観客同士の出会いの場である「ミーティングポイント」の設営、プログラム・ディレクター以外の別の視点で作品を紹介するフリンジプログラムなどの仕掛けの重要性について話がありました。参加者からも、それぞれの拠点で実施している子供向け企画の紹介などがあり、劇場を訪れない人々にも演劇に親しんでもらう方法について話し合われました。また、表現の自由や自主規制についても、実際に京都エクスペリメントで起こった事例から、具体的な対処法についてのお話もいただきました。講師からは、「劇場は、個人として自由に意見を交わせる公共圏になるべきではないか」という提議を受けそれぞれが問題を持ち帰りました。

ゼミ8 「演劇ワークショップ：動いて、聴く」

講師： 中野 成樹

ゼミ8の本編の開始前に、能楽堂を見学させていただきました。足袋をお借りして鏡の間から橋掛かりを通り本舞台に上げていただき、貴重な体験をしました。また、愛知芸術センターの舞踊プロデューサーの唐津絵理さんにも急遽講師をお願いし、30分くらいの短い時間でしたが、公共ホール・劇場での舞踊プログラムの作り方について講義をしていただきました。

本編のゼミでは、数種類の「シアターゲーム」を体験しました。これはプロの俳優達が稽古のウォーミングアップに用いたり、あるいは学校・地域の人々や不特定の集団でのコミュニケーションを潤滑にする手始めとしてもよく使われる方法ということで、体験したコースの参加者はますます仲が良くなりました。さらに、公共ホール・劇場で演劇を導入する際、作品鑑賞型か参加型かに整理することができ、それによって事業の目的が明快になり目的、方法が定まってくるというお話は、事例に即した分類がとても分かりやすく参考になりました。参加者からも、市民とのワークショップ実施の際の取り組みについての質問、事例の紹介などがあり、活発な議論に発展しました。



ゼミ9 「演劇ワークショップ：動いて、聴く」

講師： 中野 成樹

続くゼミでは、いよいよ舞台に立つての演劇体験です。りゅーとびあの素晴らしい劇場を舞台に、予め配布されていたテネシー・ウィリアムズ作『しらみとり婦人』をテキストに、短縮版の創作から徐々に演出を増やし、声を出し、体を動かしてみました。客席から舞台を眺めることで劇場空間を把握することで演技の質を変えることを体験し、身体性、声、俳優の仕事などについて考える時間となりました。



ゼミ10 「創作タイム、プレ発表」

講師： 中野 成樹

ゼミ8、9をもとに、グループにわかれ、さらに次の戯曲にチャレンジし、10分程度のシーンを創作しました。グループ毎に「戯曲に忠実に」、「大胆なアレンジをほどこして」、「無言劇で」等の指示をもらい、考え、試して、発表をしました。課題は、チャーホフ作『桜の園』です。参加者たちは、次々と指示をクリアし「演劇の楽しさ」を存分に楽しんだ時間となりました。翌日は、ゼミ10で発表したものを手直しし、舞台発表をする予定だったのですが、参加者たちの能力が非常に高いので、とうとうオリジナル創作にチャレンジしてみることになりました。



—第4日— 7月4日（金）

ゼミ11 「手直し、発表、言いあい、ふりかえり」

講師： 中野 成樹

二つのグループに分かれ、話し合いの中から10-15分程度の作品を創作し、手直しをしつつ、最終発表をしました。互いのチーム、中野さんからフィードバックをもらい、地域創造のスタッフの方々にもご覧いただきました。一つ目の作品は、劇場と客席を入れ替え、「見ることと見られること」を意識させる作品で演劇への批評精神に満ちた作品、二つ目のグループは、結婚相談所を舞台に展開されるドタバタ・コメディで、参加者の中には演劇経験者もいたのですが、それ以上の成果を上げた作品が上演され、感嘆しました。最後に二日間をふりかえり、演劇の手法を使った市民向けワークショップの可能性や演劇的体験と演劇創作は、導入の方法が異なることなどについてさらに話が展開しました。何より、舞台芸術体験がない担当者が、演劇やシアターゲーム、ワークショップを体験し、演劇の有用性について認識を新たにしてくれたことが成果だったと思います。



ゼミ12 「まとめと振り返り」

講師： 久野 敦子

四日間のゼミのまとめとポイントの整理を、ゼミ1で出された課題別のグループ発表を通して、また、参加者間の意見交換、今回の参加を通して感じた自身の変化、新しいアイデア、チャレンジしてみたことなどを話し合いました。公共ホール・劇場の役割については、地域活性化の拠点になるべく、地域資源を外に発信していく必要性、社会や地域の問題を市民と一緒に考え、個の意見を発することができる場にしていくことが重要、すべてを一つの劇場で担うことには限界があるので、地域全体の文化施設や市民と協力態勢をとるような、地域全体で「公共性」を捉える考えが必要、という意見がでました。さらに、今回のゼミでは触れることのできなかつた問題として、劇場アクセス、バリアフリーの問題についても言及がありました。さらに、発表から発展し、提議された問題について、それぞれの拠点での具体的な解決への取り組みなどについても発言は続きました。



3 共通プログラム

第一部『りゅーとぴあ1コイン・コンサート「超絶技巧と美音“ヴァイオリン”」』の鑑賞

第二部 担当者と出演者のトークと意見交換

(1) 日時・会場

7月2日(水) 11:30~14:30

りゅーとぴあ 新潟市芸術文化会館 コンサートホール、劇場

(2) 出演者

瀧村 依里 (ヴァイオリン)、鈴木 慎崇 (ピアノ)

中尾 友彰 (司会)

(3) 概要及び目的

第一部は、りゅーとぴあが聴衆拡大と邦人若手演奏家の支援を目的に開催している「1コイン・コンサート」を鑑賞。出演は、地域創造おんかつ支援登録アーティストでもある瀧村依里さん(ヴァイオリン)と鈴木慎崇さん(ピアノ)。約1000人の聴衆と共に1時間のコンサートを聴き、市民が気軽に来場できるコンサートの制作ノウハウを学ぶことを目的とした。第二部は、①企画制作担当者からの概要説明、②出演者2人を交えてのトーク、③受講生との意見交換。ここでは主に、会館職員が自分の耳で将来性のあるアーティストを発掘することの重要性と、アーティストとどのようにコミュニケーションを取りながら公演制作を進めていくかについて知ることを目的とした。



(4) 内容

■第一部『りゅーとぴあ1コイン・コンサート「超絶技巧と美音“ヴァイオリン”」』の鑑賞

一部の受講生は、開演10分前(11:20~)に会館職員が行う生CM(今後の主催事業のご案内)から鑑賞スタート。毎回公演に来場される約1000人のお客様をいかに逃さず次の公演へと繋げ、ひいては会館リピーターになっていただくかについて、具体的な手法を理解してもらった。続いて11:30から開演したコンサートは「超絶技巧と美音」の名にふさわしく、モンティのチャルダッシュやラヴェルのツィガーヌ等の難曲の連続。瀧村さんの正確無比な技巧と歌心溢れる美音、そして瀧村さんの魅力を最高の形で引き立てた鈴木さんのピアノに対して、聴衆から惜しめない拍手が贈られた。

■第二部 担当者と出演者のトークと意見交換

担当者からはアーティストの招聘方法についてなど、具体的なノウハウについての説明が行われた。また出演者を交えたトークでは、会館担当者が東京で演奏を聴いた際の印象から「超絶技巧と美音」と名付けたため、それに触発されて今回は難曲揃いのプログラムとなったエピソードなどが明かされた。また受講生からの質問も多く寄せられ、意見交換も活発に行われた。

Ⅳ ステージラボ

公立ホール・劇場

マネージャーコース

【研修スケジュール】

第1日 10月15日(水)	13:15	オリエンテーション
	13:30	ゼミ1(120min):『オリエンテーション』 講師:草加 叔也(空間創造研究所 代表) 内容:参加者の自己紹介とこの研修の進め方について。
	15:30	休憩
	15:45	ゼミ2(120min):『ワークショップを知る、参加者相互を知る』 講師:柏木 陽(NPO法人演劇百貨店) 内容:先ず演劇ワークショップを体験していただきます。身体表現の手法と学ぶ方法を通して、舞台芸術の魅力と体験することの必要性を知っていただきます。加えてオリエンテーションの延長戦として、参加者相互を知るためのきっかけとします。
	17:45	
第2日 10月16日(木)	10:00	ゼミ3(120min):『政策提案事例研究1(豊岡市民プラザ)』 講師:岩崎 孔二(豊岡市民プラザ 館長) 内容:駅前再開発を期待され進められた駅ビル整備事業の結果と、その再生を期して進められた豊岡市民プラザ整備、期待される役割、設立に至る経緯。またその施設を運営する非営利法人が担う役割について学びます。その事を通して、文化や芸術を活かしたまちづくりの手法と可能性について考えます。
	12:00	昼食・休憩
	13:00	ゼミ4(120min):『政策提案事例研究2(りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館)』 講師:真田 弘彦(新潟市民芸術文化会館 事業課長) 内容:新潟市民芸術文化会館整備の目的とこれまでに目指してきた使命、その実現のために行っている事業や活動、そしてその成果の評価や手法などについて学んでいただきます。特にりゅーとぴあの根幹を成す多彩な事業構成と実施内容、手法。その果たすべき役割、期待される成果について地方公共団体と管理運営主体の両視点から考えます。
	15:00	休憩
	15:15	共通ゼミ1(90min):ミニシンポジウム『劇場法を活かす』 講師:北風 幸一(文化庁文化部芸術文化課 文化活動振興室 室長)、草加 叔也、中川 幾郎 内容:『劇場法を活かす』をテーマに、文化庁担当者より、法律制定の狙い、公立ホール・劇場の設置者・管理運営者に期待すること等を話していただき、その後、コーディネーターを含めたディスカッションを行います。
	16:45	休憩
	17:00	共通ゼミ2(120min):グループディスカッション 講師:北風 幸一、草加 叔也、中川 幾郎 内容:前半のシンポジウムを基に、両コースの参加者がグループを作り、ディスカッション及び発表を行います。
	19:00	
第3日 10月17日(金)	10:00	ゼミ5(120min):『政策提案事例研究3(富士見市民会館キラリ☆ふじみ)』 講師:松井 憲太郎(富士見市民会館キラリ☆ふじみ 館長) 内容:東京から至近の距離にあり、行政圏域という概念も希薄な周辺都市に整備をされた公設のキラリ☆ふじみが、これまでに目指してきた役割と使命について知ることと、地域での存在感を示すように行ってきた事業や活動、そしてそのための戦略及び手法について学びます。さらに、そのことを踏まえながら、これから目指すべき地域の公立劇場・ホールのあり方について考えます。
	12:00	昼食・休憩
	13:00	ゼミ6(240min):『課題整理と発表』 講師:津村 卓(北九州芸術劇場 館長)、松井 憲太郎、草加 叔也 内容:参加者全員に各自が運営に関わる劇場・ホールについて「政策提案シート」を作成します。少なくとも今後10年程度を見据えた上で、それぞれの施設が目指す目的及び果たすべき使命を示し、そのことを達成するための手法について適宜ベンチマークを定めた上での提案をします。その提案については、参加者自らの言葉で5分のプレゼンを行い、その他の参加者や講師による質疑応答と個々の提案に対する評価を行います。
	17:15	修了式(17:30終了)

○公立ホール・劇場 マネージャーコース

① 総 評

コーディネーター 草加 叔也

この「公立ホール・劇場 マネージャーコース」は、それぞれの施設の行く末を考える大切な使命を課せられ、舵を委ねられている方々に参加していただくコースです。今回は、全国から 16 名の方々に貴重な時間を割いて参加していただきました。

今回、特にこのコースのコーディネーターを任されて、中心に置こうと考えたことは、施設の運営を行う方々及び組織が、その施設をどう運営していくのかという「政策提言能力を高めること」でした。全国の多くの公立ホール・劇場を運営する方々を見渡すと、ともすると「施設設置者（地方自治体）が、ビジョンを示さないから」ということを聞くことが少なくありません。もちろん施設設置者は、その責任をしっかりと全うするのが当然の責務です。しかし、だからと言って施設運営者は、それを宣託のように鵜呑みにしていれば、地域の文化施設の成長が持続できるものでしょうか。現場を任されているのは、現場にいる施設運営者自身です。そのことを自覚し、さらに責任を果たすためにも自らが管理運営する施設がどうあるべきかというビジョンを持ち、それを達成するための戦略を組み立てる能力を備えるべきだと考えてきました。

ただし、ホール・劇場に求められる使命は、地域により異なります。つまり、二つとして同じものはないと言っていいでしょう。今回はそのことへの認識と解決意欲の高い 16 名の方々が集まってくださいました。迎える講師の方々も参加者以上に現場意識が高く、長年現場で格闘されてきた腕力のある方々にお願しました。敢えて施設規模、職員数、そして事業費も異なるホール・劇場で活躍されてきた方々ですが、それぞれに条件が異なっても様々な取り組みができることが伝わったのではないのでしょうか。最終的には、今回のテーマとした課題を解決するのは、参加されたあなた自身です。もちろん、一人だけで背負うものではありませんが、戦略的なリーダーシップが求められると考えます。

高々、三日間ですが、長くて短い時間があっという間に過ぎてしまいました。既に、三日間は記憶の隅に閉じ込められているかもしれません。しかし、この報告書を目にすることがあれば、その時に考えたこと感じたこと、伺った話、そして最終日にプレゼンテーションした内容を思い出してください。きっと、役に立つ頃があると思います。

講師を務めてくださった岩崎孔二さん（豊岡市民プラザ）、真田弘彦さん（りゅーとびあ 新潟市民芸術文化会館）、松井憲太郎さん（富士見市民文化会館 キラリ☆ふじみ）、津村卓さん（北九州芸術劇場）、そして柏木陽さん（NPO 法人演劇百貨店）は、それぞれの地域で今日も活躍されています。是非、時間を作って、それぞれの施設を訪ねることをお勧めします。きっと新たな知恵を授けてくれると思います。

最後にひとつ思い出してください。地域に関わらず、文化や芸術をライフスタイルとして受け入れている市民は、それぞれの地域の 2 割から 3 割の方々に過ぎません。では、残りの方々はどうか。あまり関心がなかったり、全くその魅力に触れたことのない方々です。そういった方々にも、是非文化や芸術が備える魅力や楽しさを伝えてください。もしかすると、皆さんのアプローチを心待ちにしているかもしれません。さらには、その力や効果を波及、派生させていくことも考えてください。そのことで街が魅力的になるかもしれません。

皆さんは、そのことを実践するための要です。是非、10 年後の成果の報告が届くことを期待して筆を置きたいと思います。

② ゼミ記録

—第1日— 10月15日（水）

ゼミ1 「オリエンテーション」

講師： 草加 叔也

先ず、「公立ホール・劇場 マネージャーコース」の進め方と概要について説明をするとともに、16名の参加者にそれぞれが関わられているホール・劇場の概要や事業などについて紹介いただくとともに、本研修への参加に至った問題意識についてお話しいただきました。

当然ですが、参加者全員が多かれ少なかれハードウェア（施設や設備）、ソフトウェア（事業や予算）そしてヒューマンウェア（組織や人材）という点で異なった課題を抱えていることを、相互に共有することから始めました。もちろん、参加者の中には、はた目には潤沢な事業予算が与えられている施設もあれば、ほぼ無いに等しい施設もあります。このオリエンテーションでは、そのための不幸さや豊かさを比較するのではなく、それによってどんな不具合が発生しているのか、また、相互の比較により起因する原因を考えるきっかけを見つけることができたように考えます。



ゼミ2 「ワークショップを知る、参加者相互を知る」

講師： 柏木 陽

このゼミは、演劇ワークショップという体験を通して、これまでもしかすると参加者の対極にいと決め込んでいた“表現者”が備える身体表現という能力について知ることと、ゼミ1に続き、参加者同士がより深く知り合うことを目的として実施しました。きっと皆さん、身体表現の難しさと面白さを通して、ダンスや演劇などの表現者のことをこれまで以上に身近に感じられるようになったのではないのでしょうか。指導をお願いした柏木さんからは、今日参加された方が感じられ、表現されたこととプロが行っている作業とに雲泥の差があるわけではないことを教えていただきました。



また、もう一つの目的である参加者同士を知ることについては、このような短期のゼミでは大変に重要なことでもあります。想定していた通り、この時間を境に参加者同士の会話が増えてきたように思います。柏木さん独特の雰囲気づくりの妙と指導のおかげではなかったでしょうか。

—第2日— 10月16日（木）

ゼミ3 「政策提案事例研究1（豊岡市民プラザ）」

講師： 岩崎 孔二

今回のゼミの最大の目的は、ホール・劇場の運営について運営組織が自ら考え、提言する意思と能力を備える必要性があることを確認することです。そのために、ゼミ3～5では、施設規模や予算の違いがありながらも、それぞれの地域で特色のある活動を実践されている方々を講師に迎えてお話を伺いました。

最初に登壇いただいたのが、岩崎さんです。岩崎さんは、現在人口7万人弱の豊岡市職員として自ら手掛けられた駅前再開発ビル計画が破綻していく過程に関わるなかで、市の保留床部分を文化施設（劇場及び練習施設など）に利活用することで、再開発ビルそのものの破綻を食い止めるとともに、新たに市民の広場として再生させていく事業を立ち上げ、現在も非営利セクターの一員として関わり続けていらっしゃいます。その壮絶なドキュメンタリーもさることながら、その過程において文化を活かしていくことの可能性について知ることができました。さらに今年、城崎温泉の既存施設を改修して、アーティスト・イン・レジデンスが可能な「城崎国際アートセンター」を開館するに至る新たな試みについてもお話しいただきました。



ゼミ4 「政策提案事例研究2（りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館）」

講師： 真田 弘彦



政策提案事例研究の2つ目には、りゅーとぴあの真田さんにご登壇いただきました。りゅーとぴあは、全国的にみても高いレベルで舞台芸術及び音楽芸術を創造し、発信している地域拠点施設です。施設の規模や職員数、そして実践している事業数などを比較しても、わが国では群を抜いているホール・劇場施設です。真田さんには、その施設の概要、施設整備の背景と目的、管理運営の変遷、運営の基本理念及び基本方針、運営組織の専門人材の活用、事業実施体制、主要な事業概要など、りゅーとぴあの立ち上げから今日に至るまでについて、施設設置

主体の新潟市からの視点と実際に運営を司る財団からの視点でお話しいただきました。もちろん、新潟市はこの施設を運営していくために必要な文化投資を継続的に行ってきていますが、その投資効果が十分に新潟市の政策として価値が認められていることが、持続可能性を担保できる大きな要因になっていると考えられます。ただし、これまで継続的に実践してきている事業の多くは、施設の運営を行う組織が、自ら考え、創り上げてきた事業です。つまり、施設を運営する主体は、施設設置者から与えられた命題を効率的に解決するだけでなく、文化芸術施設としての新たな価値を常に創り続けていく能力と専門性が必要になることをお話しいただきました。

共通ゼミ 1 「ミニシンポジウム『劇場法を活かす』」

共通ゼミ 2 「グループディスカッション」

講師： 北風 幸一、草加 叔也、中川 幾郎

文化庁文化活動振興室の北風室長に、「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」の活かし方について、お話しいただきました。既に全国に約 2,200 もの公立の劇場、音楽堂が整備されている中で、新たにその基軸となる法整備を行うことには多くの期待と懸念がささやかれました。もちろん、この法整備は公設施設にだけ適用されるものではありませんが、劇場、音楽堂という施設が今後いかにあるべきかを示していることから、公立ホール・劇場 マネージャーコースに参加された皆さんにとっては、政策立案をしていく上でも拠り所のひとつとなる指針として、あらためて注視すべき点になったのではないのでしょうか。

特に、第一章第二項に示されている「劇場、音楽堂等の定義」及び同三項に示されている「劇場、音楽堂等の事業」については、ゼミの中でも触れましたが、今後の公設の劇場、音楽堂のあり方を考える上で重要な視点になると考えます。

この共通ゼミの最後に、文化政策幹部セミナーの参加者を交えたグループディスカッションを行ったことも、今回公立ホール・劇場 マネージャーコースのテーマとして掲げてきた「政策提言能力を高める」ことについて考える貴重な時間になったのではないかと考えます。



— 第 3 日 — 10月17日（金）

ゼミ 5 「政策提案事例研究 3（富士見市民文化会館 キラリ☆ふじみ）」

講師： 松井 憲太郎

キラリ☆ふじみが建つ富士見市は、埼玉県南東部に位置し、県庁所在地であるさいたま市に隣接するばかりか、東京の巨大ターミナル駅のひとつである池袋駅からも 30 分弱の距離にあります。つまり、大都市周辺に位置する施設であり、類似の多くの施設が独自色を出すことに四苦八苦するばかりか、ともするとその努力さえあきらめている現状が散見されます。そんな中でキラリ☆ふじみは、地域の文化施設として、文化芸術に対するしっかりとした姿勢を持つ施設として開館当時から注目されてきました。今回、登壇いただいた松井さんからは「公立施設が地域づくりの拠点となる日を目指して」ということをキラリ☆ふじみをモデルとしてお話しいただきました。あらためて“公立施設とは何か”“芸術の基本機能とは”“芸術の社会的役割”など次々に繰り出されるど真ん中、直球ストライクボールには、参加者一同、目を見張るばかりでした。



日常的に自分たちが取り組む文化や芸術の価値や効果、それがそれぞれの地域にとっていかに大切なものであるのか、そしてどう取り組んでいくべきかということをお話しいただいた松井さんの真摯な取り組みに三振させられた思いではなかったでしょうか。

ゼミ 6 「課題整理と発表」

講師： 津村 卓、松井 憲太郎、草加 叔也

さて、長いといえば長い三日間でしたが、その集大成として、参加者それぞれのホール・劇場を対象とした「政策提案シート」を作成し、発表していただきました。この政策提案で求めたことは以下の3つです。

- ① 今後10年間（程度）を見据えた目標と使命を考えること
- ② そのことを実現するための具体的手法を考えること
- ③ さらにそのための10年スケジュールと評価のためのベンチマークの設定と提案

以上の3点を参加する前に構想として整理していただき、最終的にゼミを通して修正加筆していただきました。この膨大な課題を課した上で、たった10分でプレゼンテーションをしていただきました。今になって多大な心労をかけたことをコーディネーターとしてお詫びいたします。また、プレゼンを拝聴し、真剣に取り組んでいただけたことに対し本当に感謝申し上げます。ただ、参加された方々も楽しんでいただけたのではないのでしょうか。加えて、個々のプレゼンにコメントをくださった津村さん、松井さんにもお礼申し上げます。予定時間を大幅にオーバーしたものの、新たな思いを持ってそれぞれの地域にお帰りいただいたものと考えます。



V アートミュージアムラボ

愛知セッション

【研修スケジュール】

	1日目(1月28日・水)	2日目(1月29日・木)	3日目(1月30日・金)
主会場	愛知芸術文化センター	豊川市桜ヶ丘ミュージアム、岡崎市美術博物館	愛知芸術文化センター
9:00		9:00 愛知芸術文化センター集合 移動	
10:00		10:00 豊川市桜ヶ丘ミュージアム着 ゼミ5 10:00～10:30(30分) 「あいちトリエンナーレ地域展開事業について」講師: 拝戸雅彦 会場ツアー 10:30～11:15(45分)	ゼミ8 10:00～11:00(60分) 「美術館の活動と芸術祭は共存できるのか(名古屋市美術館のケース)」 講師: 山田諭(名古屋市美術館学芸係長) 休憩(15分程度)
11:00		ゼミ6 11:15～12:00(45分) 「地域展開事業の効果」 講師: 森田靖久(豊川市桜ヶ丘ミュージアム学芸員)	ゼミ9 11:15～12:15(60分) 「美術館の活動と芸術祭は共存できるのか(横浜美術館のケース)」 講師: 天野太郎(横浜美術館首席学芸員)
12:00		昼食 12:00～13:00	昼食 12:15～13:15
13:00		移動	
14:00	受付 13:30～14:00 開講式 14:00～14:15 ゼミ1 14:20～15:20(60分) 「芸術祭の歴史」 講師: 藤川哲(山口大学人文学部教授) ※休憩(5分)	14:00 岡崎市美術博物館着 ゼミ7 14:00～15:00(60分) 「あいちトリエンナーレ2013の効果」 講師: 千葉真智子(岡崎市美術博物館学芸員)	まとめ/フリーディスカッション2 13:15～14:45(90分) モデレーター: 拝戸雅彦 パネリスト: 藤川哲、山田諭、天野太郎
15:00	ゼミ2 15:25～16:25(60分) 「あいちトリエンナーレの始まり」 講師: 拝戸雅彦 (愛知県国際芸術祭推進室主任主査)	休憩(15分程度) フリーディスカッション1 15:15～17:15(120分) モデレーター: 拝戸雅彦 パネリスト: 森田靖久、千葉真智子、藤川哲	休憩(15分程度) 修了式 15:00～15:20
16:00	休憩(15分程度)		
17:00	ゼミ3 16:40～17:40(60分) 「長者町とあいちトリエンナーレ」 講師: 武藤隆 (あいちトリエンナーレアーキテクト) ※休憩(5分)	移動	
18:00	ゼミ4 17:45～18:45(60分) 「ヨコハマトリエンナーレの始まり」 講師: 天野太郎(横浜美術館首席学芸員)	見学 17:30～18:30 あいちトリエンナーレ 2013会場(松本町、岡崎シビコなど)	
19:00	移動 交流会 19:00～20:30 場所: 愛知芸術文化センター内 ウルフギャング・バック	移動	
20:00		19:40 名古屋市内着	
21:00		※懇親会(20:00～)	

○ アートミュージアムラボ

① 総 評

コーディネーター 拝戸 雅彦

今、「公け」と関わる、公的資金を投入しての、現代美術の現場が二つに分かれているように見えます。一つは公立美術館で、もう一つがまちなかです。美術館は、企業や個人の方が作られたものもありますが、国や地方の公共団体が、地域の文化資産を後世に伝える、あるいは文化に触れる機会を提供するという目的の中で、本格的な建物を伴う組織として設立してきたものです。その一方で、近年、そうした美術館での活動とは異なる形で、美術館の外で、美術展を開催する、あるいは展示をする、地方の公共団体も増えてきました。いわゆる「芸術祭」です。その特徴は、自治体の名前で行われて行政組織が深く関わること、まちなかの商店街や倉庫などを使用すること、さらにそこに存在するコミュニティと積極的に関わろうとする点です。ただし、この芸術祭の成り立ちは、企画する地方の公共団体によって違っています。概ね、その地域の名前と魅力を外へと伝えるものと言っていいと思います。また、その公立美術館が、地方公共団体による直営によるものか、指定管理者制度によるものか、によっても、その関わり方は違ってきます。

そこで、今回のアートミュージアムラボでは、「芸術祭と公立美術館の曖昧な関係」と題して、公立美術館と芸術祭の関係を、愛知県で2010年に始まり、愛知県と名古屋市の二つの公立美術館を展示の拠点施設として用い、県内広域的に展開して、二回を無事に終えたあいちトリエンナーレと、2001年に横浜市内で美術館ではない施設で当初は始まり、現在は横浜美術館を拠点として、計5回行われたヨコハマトリエンナーレのケースを主要な例として、時に国内外の他のケースも参照しながら、見えるようにしてみました。世界的には、芸術祭の始まりは1895年と古く、19世紀の後半に大都市で流行した万国博覧会を前史としています。芸術祭の形は、中国や韓国でも1990年代の終わりから登場しており、少し後れをとる形で、日本国内的には2000年前後から始まった「現象」で、2010年以降にさらに盛んになってきています。公立美術館にとっても、そこに勤務する学芸員にとっても、また、所蔵品を持たない展示中心のアートセンターにとっても、無視できない存在となりつつあります。

一日目は、最初に藤川哲氏に芸術祭そのものの歴史的な成り立ちとその展開について語ってもらいました。続いて、キュレーターの一人である私と、そこにアーキテクトとして関わった武藤隆氏によるあいちトリエンナーレについての報告、そして横浜美術館学芸員の立場でヨコハマトリエンナーレに関わってきた天野太郎氏からその芸術祭の利点と問題点について話をしてもらいました。二日目は県内をバスで移動し、あいちトリエンナーレの成功によって残された収入によって成立した愛知県内の他地域での展開を、実際に展覧会が行われている豊川市桜ヶ丘ミュージアムの学芸員の森田彰久氏の報告、

続いてあいちトリエンナーレ 2013 でまちなか会場となった場所にも移動しつつ、その前年の 2012 年に岡崎で地域展開事業に関わった岡崎市美術博物館学芸員千葉真智子氏からの報告で伝えました。三日目は名古屋に戻って、あいちトリエンナーレの会場美術館となっている、名古屋市美術館の学芸員山田諭氏から、その問題点と、そして解決方法について。再び、天野氏から、公立美術館と芸術祭の関係について話してもらいました。質問やフリーディスカッションの際には、参加者やオブザーバーからそれぞれの経験と思いが紹介され、考察する材料が提供されました。こうして、ますます、公立美術館と芸術祭の関係は曖昧で複雑なものになっていきました。ただし、対立するものではなく、共存しうるものとして、あるいは、利用すべきものとして、芸術祭を存在させる、という、公立美術館やアートセンターの位置取りや戦略が示された、と思います。

最後に、ご多忙のなか、講師をつとめていただいた方々をはじめ、参加者やオブザーバーの方々、開催にご協力いただいた各位にお礼を申し上げます。

② ゼミ記録

— 第 1 日 — 1 月 2 8 日 (水)

ゼミ 1 「芸術祭の歴史」

講 師： 藤川 哲(山口大学人文学部教授)



「芸術祭」は 1895 年にイタリアのヴェネツィアで美術展（ビエンナーレ）として始まった。当初は公募展であったが、徐々に国ごとのパヴィリオンに代表作家を展示する形式へと移行した。1920～30 年代のファシズム政権時代にアーカイブを設け、音楽祭、映画祭、演劇祭を開始し、1980～90 年代に建築展、舞踏祭が追加されて、総合的な芸術祭へと発展した。このヴェネツィ

アの美術展と異なるモデルを定着させたのが 1955 年にドイツのカッセルで始まったドクメンタで、1972 年の第 5 回展以降、一人のディレクターが作家を選定するようになり、現在の芸術祭の基本スタイルとなった。国内では 2010 年の瀬戸内国際芸術祭が開始された頃から、ビエンナーレやトリエンナーレではなく「芸術祭」の名称が増加した。

芸術祭と公立美術館の関係を整理すると、単なる貸会場から、美術館の中に学芸チームが作られるもの、そしてコレクションが形成される芸術祭など様々である。芸術祭のルーツには万博があり、近年はグローバルな都市間競争の一部となっている。100 年以上続く事業なので、アーカイブ部門の設置等、長期的な展望が必要である。

ゼミ 2 「あいちトリエンナーレの始まり」

講 師： 拝戸 雅彦(愛知県国際芸術祭推進室主任主査)

拝戸は 2010 年の開催に向けて、2008 年に愛知県美術館の学芸員から異動した。あいちトリエンナーレの前史には 2005 年の愛知万博の成功がある。また、1992 年に設立された芸術の複合施設である、愛知芸術文化センターの活性化が同時に目されていた。当初作られていたその基本構想からは、愛知の経済的な豊かさに対して、文化的な活動が少し見劣りするということに読めて



しまうが、2010の開始に向けて、文化的に豊かであるから、それが見えるようにするためにも開催する、といった方向に変えていった。市民や県民からの、トリエンナーレに対する不安を解消し、それを具体的に視覚化するべく、2009年には長者町でプレイベントを行った。次第に、まちなかでの受け入れができていき、あいちトリエンナーレは長者町での成功を手掛かりに高い評価を得ることになった。東日本大震災後に開催された2013では岡崎市でも展開して、好評を博した。あいちトリエンナーレと関わりを持ちたいという市町村が登場してきている。

ゼミ3 「長者町とあいちトリエンナーレ」

講師： 武藤 隆(あいちトリエンナーレアーキテクト)



あいちトリエンナーレの2010と2013でアーキテクトを務めた武藤隆氏はかつて安藤忠雄氏の建築事務所の所員だった。その所員時代に兵庫県立美術館、国際芸術センター青森の立ち上げにも関わり、美術館やアートセンターとの関わりにおいて経験豊富である。とりわけ、地元長者町での展開に大きく関わった。この長者町は人、場所、ものを提供することであいちトリエンナーレ

の成功へとつなげた。中でも、KOSUGE 1-16が、戦災で失われた長者町の山車を作りあげ、それを2000年から始まったあびす祭りで引き回すプロジェクトは、一過性ではなく、トリエンナーレ2010が終わってからも、毎年、あびす祭りに登場して、現在では長者町の財産となっている。2010が終わってすぐに長者町アートアニュアル、という組織も作られ、町から寄付を募りつつ、長者町にあいちトリエンナーレが残した作品のメンテナンスをしている。2013の際にもまた、ビジターセンター&スタンドカフェを新設して、閉館後も人が交流できる場所を用意し、ホスピタリティを発揮した。

ゼミ4 「ヨコハマトリエンナーレの始まり」

講師： 天野 太郎(横浜美術館主席学芸員)

1990年代にアジア地域で芸術祭が盛んになってきた。1994年に国の方で芸術祭の開催が検討されていき、NHKと朝日新聞、国際交流基金が主催に入る形で第一回ヨコハマトリエンナーレがパシフィコ横浜展示ホール、横浜赤レンガ倉庫1号館で2001年に開催された。当初より会場の確保が問題となり、国際交流基金が主催から離れ、横浜市が主催者となり、ようやく横浜美術館が主会場となったのが2011年の第4回からである。横



浜美術館がヨコハマトリエンナーレの会場となることで、指定管理者である美術館には利用料金による収入のメリットが発生した。アジア各地の美術館では芸術祭が多く存在されているが、抱える仕事が多すぎて現場からは悲鳴が上がる。それでもやめられないのは、芸術祭そのものがその都市の観光資源となっていることも大きな理由の一つだろう。今後、日本の人口は確実に減り、また高齢化が進むことで、地域の姿は変わっていく。同時に税収も激減するなか、財源の点から見る限り、日本に明るい将来はない。そうした中で、人が集まる芸術祭と、公立美術館は付き合っていかなるを得ないのではないか。

— 第 2 日 — 1 月 2 9 日 (木)

ゼミ 5 「あいちトリエンナーレ地域展開事業について」

講 師： 拝 戸 雅 彦 (愛知県国際芸術祭推進室主任主査)



2010 のあいちトリエンナーレが見込み以上に成功し、それに伴って収入が発生した。愛知県ではその収入を積み立てて基金化して、トリエンナーレが開催されていない年に行う文化事業の開催経費に充てることにしている。その一つが、本体事業が開催されていない都市で、現代美術の展示が行われるあいちトリエンナーレ地域展開事業である。2011 年が豊橋市、2012 年が岡崎市で開催された。岡崎市は引き続き 2013 年に第二会場都市となった。そして 2014 年は名古屋の中心部から一時間以上電車を乗り継いでいく豊川市での開催となった。単年度予算で動いていく行政の文化イベントとしての性格から、その準備期間はかなり短く、その会場と併せて、この事業に関わっていける学芸員をタイミングよく提供してくれる市を探すのが難しい事業でもある。が、あいちトリエンナーレの名前が愛知県民に定着してきている現在、愛知県にとってもあいちトリエンナーレと同様の価値を持った事業ともなっている。

ゼミ6 「地域展開事業の効果」／展覧会「豊穰なるもの—現代美術 in 豊川」見学

講師： 森田 靖久(豊川市桜ヶ丘ミュージアム学芸員)

豊川市桜ヶ丘ミュージアムは 1983 年にコミュニティセンターとして設立された。そして、1994 年に市民ギャラリーの機能を持つようになった。老朽化が目立ってきたので、2013 年 7 月に閉館し、市民ギャラリーを増やす形でリニューアルが行われることになった。ミュージアムとして現代美術に関心があるわけではなかったが、あいちトリエンナーレの開催で、行政の意識としては機会があれば利用すべき、という動き



がでてきた。そこで、愛知県から提案された地域展開事業開催の打診に対応できた。ただし、愛知県の要望としては、ミュージアムでの展示以外に、街中での展開、学校派遣、近隣の市町村へのアウトリーチで、これは職員にとってかなりの負担だった。が、市ぐるみで、リニューアルオープンも兼ねた展覧会のオープニングイベントも開催され、協賛金の集まりも、来られた入場者数も、その好反応も予想以上だった。まちなかでの交渉などで問題点がないわけではないが、豊川で現代美術を見せていく、という意味では、次への展開の準備はできた。



ゼミ7 「あいちトリエンナーレ 2013 の効果」

講師： 千葉 真智子(岡崎市美術博物館学芸員)

岡崎市では 2012 年に「アート&ジャズ」というタイトルで地域展開事業が開催された。愛知県の方から、岡崎市の文化芸術部文化総務課にあいちトリエンナーレの第一回と第二回をつなぐ形での事業の持ちかけがなされた。そのために出品作家にあいちトリエン



ナーレの出品作家を含むことが条件となった。その他、まちなかでの展開とボランティアの活用が要望としてあった。岡崎市としては、県の要望通りに現代美術を展示するほか、「ジャズの街」としても情報発信をしつつ、同時期に移築した旧本多忠次邸を展示室とすることを合わせ技で考えた。事業の一部ではないが、同時期に岡崎市美術博物館でも現代美術の企画展を行い鑑賞者の回遊を図った。また、

地域展開事業でアートとして登場したオカザエモンが岡崎市の公式サポーターになり、2013でも露出されるなど、2013につながる動きを作ることができた。そして2013における岡崎市内の展開も成功した。

●フリーディスカッション1

モデレーター： 拝戸 雅彦

パネリスト： 森田 靖久、千葉 真智子、藤川 哲

あいちトリエンナーレの影響についてのディスカッションを行った。千葉氏は少なくとも、あいちトリエンナーレが始まったことで館の取り組みとして現代美術への抵抗感が少なくなったとし、千葉氏が美術館を離れてまちなかで動き回ることに對しての疑問は生じなかった、としている。トリエンナーレの開催と、時期や内容の面で歩調を合わすべきか、という点では、名古屋市美術館の山田氏から



からは地域における公立美術館の多様性を目指すべきで、画一的なことをすべきではない、という意見がでた。さいたま市で2016年夏に芸術祭を準備している今村氏から、地域ごとに特性を持たせて、地域を回遊するような仕掛けにしている、公立美術館との連携は全く想定されていない、との報告があった。さいたま、そして、瀬戸内も、その地域の食の要素を重視する傾向が出てきている。これは、人を集めることを考えたときに、作品を見せることだけを目的とはしなくなっている、ことを意味する。

●見 学「あいちトリエンナーレ 2013 岡崎会場」(松本町など)

案 内： 拝 戸 雅 彦、武 藤 隆

あいちトリエンナーレ 2013 で、岡崎市内でまちなかでの会場の一つとなった松本町を見学。ここには実は岡崎市民にも知られていない、徳川家康の父の菩提寺になっている寺がある。この由緒ある寺のもとの境内に小さな民家が集結している。ただし、建築法の関係で改築はできず、改装しかできない条件の場所である。2013 では数軒を使用した。トリエンナーレの終了後は、いずれにも借り手がついて、小さな文化的な活動が始まっている。これもトリエンナーレの成果の一つとっていいだろう。

－ 第 3 日 － 1 月 3 0 日 (金)

ゼミ 8 「美術館の活動と芸術祭は共存できるのか(名古屋市美術館のケース)」

講 師： 山 田 諭(名古屋市美術館学芸係長)



ICOM の規約にもあるように、公立美術館の仕事は展示公開、教育普及、収集保存、調査研究の 4 つである。そして、一般に開かれていて非営利でなければならない、これが市民に共有される理念である。つまり、地域に根差して、地域が誇りとし、同時に、世界に向けられたものである。が、名古屋市美術館も含め、国内の公立美術館の建物がこうした美術館の理念を尊重しているかどうかは怪しい。その多くが収蔵品を展示

した常設展のためではなく、特別展の開催を目的として設計されてしまっている。しかし、一般の人に対しても、時間をかけて常設展で収蔵品を繰り返し鑑賞する楽しさ面白さを伝えていくことが必要である。愛知県と名古屋市の関係から、名古屋市美術館は、企画展示室をあいちトリエンナーレの会場の一つとした。愛知県美術館とは違い、所蔵品の常設展示室はそのまま確保した理由がここにある。2010 のあいちトリエンナーレでの名古屋市美術館での展示は、まちなかの会場のような雑多な印象を与えたが、2013 は、前回の反省も踏まえて、建築を専門にしている芸術監督にも要望して、アイデアを共有しつつ、建物と空間の特性を生かす展示室空間を作ることになった。公立美術館として芸術祭とがうまく共存する在り方を見せることができたのではないかと考えている。

ゼミ9 「美術館の活動と芸術祭は共存できるのか(横浜美術館のケース)」

講師： 天野 太郎(横浜美術館主席学芸員)

日本の公立美術館は基本的に国や地方公共団体の予算で動いている。その収入はほぼ入場料収入だけである。将来的に日本の人口が減っていくことを考えると、公立美術館の存続は危うい。それを前提に考えていく必要がある。公立美術館が収入を稼ぐためにも、人が集まる芸術祭を企画展の一つとして受け入れ、収入を上げ、芸術祭のメリットを最大限生かしていくしかない。一方で芸術祭が雇用期間の関係で優れたスタッフを中長期に確保できない状況があるので、それは改善していくべきだろう。また、現在の芸術監督の制度、そして、テーマ設定の問題も含めて、芸術祭としての問題は多くある。



●フリーディスカッション2「研修全体のまとめ」

モデレーター： 拝戸 雅彦

パネリスト： 藤川 哲、山田 諭、天野 太郎



参加者からの意見を交えながら、ディスカッションを行った。名古屋ポストン美術館の三輪氏からはあいちトリエンナーレの期間中、古典的な絵画を求めてかえって入場者数が増えたことを報告している。これは、美術ファンに対しては、地域が同時期に多様性を示すべきいい例かもしれない。山田氏は、美術館の生き残りをかけて、たとえば優れたガイドボランティアなどの美術館を支えていく人を

育成していく、という考え方を示す。ただ、美術館と違って、コレクションを持たないアートセンターなどは、フレキシブルに若手のアーティストに活動の場を提供しているのではないだろうか、ともした。藤川氏は、芸術祭が、常住民が中心となる伝統的なお祭りとは異なって、外部から流入してきた新住民が「地元」意識を獲得する文化イベントになっている、としている。そして、美術館のみならず、どんな規模であれ、芸術祭を立ちあげ、さらに続けていくためには、その必然性とその必要性を常に確認すること、そして、それを支える人の育成が共通して必要となってくる、ことを再認識した。

VI ステージラボ

広島セッション

■2月17日(火) 第1日

【研修スケジュール】

	ホール入門コース	自主事業Ⅰ(音楽)コース	自主事業Ⅱ(演劇)コース
主会場	コーディネーター 津村 卓 北九州芸術劇場 館長兼プロデューサー/ 地域創造プロデューサー	コーディネーター 山本 若子 有限会社N.A.T 取締役/ 地域創造おんかつコーディネーター	コーディネーター 平田 オリザ 劇作家・演出家/こまばアゴラ劇場芸術監督 劇団「青年団」主宰/地域創造理事
9:00			
10:00			
11:00			
12:00			
13:00			
14:00	13:30 受付		
14:00	オリエンテーション・施設見学等		
15:00			
16:00	15:00 ゼミ1「自己紹介 記憶のなかから 自らを表現してみる」 講師:大月ヒロ子(有限会社アイデア 代表取締役)、 津村卓 会場:視聴覚スタジオ	15:00 ゼミ1「間接的自己紹介」 講師:山本若子 会場:中音楽室	15:00 ゼミ1「創作ゼミ1」 講師:平田オリザ 会場:大練習室
17:00			
18:00			
19:00	休憩(30分程度)	休憩(30分程度)	休憩(30分程度)
20:00	19:15 全体交流会 会場:広島市文化交流会館		
21:00			
22:00			

	ホール入門コース	自主事業Ⅰ(音楽)コース	自主事業Ⅱ(演劇)コース
主会場	コーディネーター 津村 卓 北九州芸術劇場 館長兼プロデューサー/ 地域創造プロデューサー	コーディネーター 山本 若子 有限会社N.A.T 取締役/ 地域創造おんかつコーディネーター	コーディネーター 平田 オリザ 劇作家・演出家/こまばアゴラ劇場芸術監督 劇団「青年団」主宰/地域創造理事
9:00			
10:00	9:30 ゼミ2:「アーティストの考える劇場 ・音楽堂その1 音楽」 講師:田村緑(ピアニスト) 会場:大音楽室	9:30 ゼミ2「アウトリーチの整理」 講師:児玉真(いわき芸術文化交流館アリオス チーフプログラム オフィサー) 会場:中音楽室	9:30 ゼミ2「創作ゼミ2」 講師:平田オリザ 会場:大練習室
11:00			
12:00	昼食・休憩	昼食・休憩	昼食・休憩
13:00		12:30 ゼミ3「アウトリーチを見る」 講師:山本若子、大上仁彦・小林浩子・ 中村優香・千葉一喜(アーバン・サクソフォン ・カルテット) 会場:広瀬小学校	13:00 ゼミ3「空間を発見する」 講師:杉山至(劇団「青年団」 舞台美術家) 会場:大練習室ほか
14:00	13:00 ゼミ3「アーティストの考える劇場 ・音楽堂その2 ダンス」 講師:北村成美(ダンサー、コレオグラファー) 会場:大音楽室		
15:00	15分休憩		
16:00	15:45 ゼミ4「劇場・音楽堂の現状を確認」 講師:津村卓 会場:大会議室	15分休憩	15分休憩
17:00		16:15 ゼミ4「アウトリーチを振り返る」 講師:山本若子 会場:中音楽室	16:15 ゼミ4「創作ゼミ3」 講師:平田オリザ 会場:大練習室ほか
18:00			
19:00	休憩(15分程度)		
20:00	18:30~20:30 共通プログラム 市民演劇 通しリハーサル鑑賞 会場:多目的スタジオ		
21:00			
22:00			

■2月19日(木) 第3日

【研修スケジュール】

	ホール入門コース	自主事業Ⅰ(音楽)コース	自主事業Ⅱ(演劇)コース
	コーディネーター 津村 卓 北九州芸術劇場 館長兼プロデューサー/ 地域創造プロデューサー	コーディネーター 山本 若子 有限会社N.A.T 取締役/ 地域創造おんかつコーディネーター	コーディネーター 平田 オリザ 劇作家・演出家/こまばアゴラ劇場芸術監督 劇団「青年団」主宰/地域創造理事
主会場			
9:00			
10:00	10:00 ゼミ5「アーティストの考える劇場 ・音楽堂その3 演劇」 講師:多田淳之介(演出家、富士見市民 文化会館キラリ☆ふじみ 芸術監督) 会場:大音楽室	9:30 ゼミ5「アウトリーチプログラムを考える －事例編」 講師:山本若子 会場:中音楽室	9:30 ゼミ5「創作ゼミ4」 講師:平田オリザ 会場:大練習室ほか
11:00			
12:00			
13:00	昼食・休憩	昼食・休憩	昼食・休憩
14:00	13:00 ゼミ6「地域社会から求められる芸術文化」 講師:坂田雄平(北九州芸術劇場 舞台事業課)、 津村卓 会場:大会議室	13:00 ゼミ6「アウトリーチプログラムを考える －実践編」 講師:山本若子、大上・小林・中村・千葉 (アーバン・サクソフォン・カルテット) 会場:中音楽室	13:00 ゼミ6「創作ゼミ5」 講師:平田オリザ 会場:大練習室ほか
15:00	休憩(15分程度)		休憩(15分程度)
16:00	15:15 ゼミ7「フィードバック」 講師:津村卓 会場:大会議室	(適宜休憩)	15:15 ゼミ7「創作ゼミ6」 講師:平田オリザ 会場:大練習室ほか
17:00			
18:00	休憩(15分程度)		休憩(15分程度)
19:00	18:00 ゼミ8「グループディスカッション」 講師:津村卓 会場:大会議室	ゼミ6終了後 自由参加:「アウトリーチプログラムを 考える－おまけ編」 講師:山本若子 会場:小音楽室	18:00 ゼミ8「創作ゼミ7」 講師:平田オリザ 会場:大練習室ほか
20:00			
21:00	20:30	20:30	20:30
22:00			

■2月20日(金) 第4日

【研修スケジュール】

	ホール入門コース	自主事業Ⅰ(音楽)コース	自主事業Ⅱ(演劇)コース
主会場	コーディネーター 津村 卓 北九州芸術劇場 館長兼プロデューサー/ 地域創造プロデューサー	コーディネーター 山本 若子 有限会社N.A.T 取締役/ 地域創造おんかつコーディネーター	コーディネーター 平田 オリザ 劇作家・演出家/こまばアゴラ劇場芸術監督 劇団「青年団」主宰/地域創造理事
9:00			
10:00	9:30 ゼミ9「グループディスカッション2」 講師:津村卓 会場:大会議室、中音楽室(見学)	9:30 ゼミ7「アウトリーチプログラムを考える -体験編」 講師:山本若子、大上・小林・中村・千葉 (アーバン・サクソフォン・カルテット) 会場:中音楽室	9:30 ゼミ9「創作ゼミ8」 講師:平田オリザ 会場:大練習室ほか
11:00			
12:00		(昼食休憩含む)	
13:00	昼食・休憩		昼食・休憩
14:00	13:00 ゼミ10「発表」 講師:津村卓 会場:大会議室、大練習室(見学)	休憩(15分程度) 13:30 ゼミ8「まとめ」 講師:山本若子、大上・小林・中村・千葉 会場:中音楽室	13:00 ゼミ10「創作発表」 講師:平田オリザ 会場:大練習室
15:00	14:30 アンケート記入・休憩・移動	14:30 アンケート記入・休憩・移動	14:30 アンケート記入・休憩・移動
	15:00 修了式		
16:00			
17:00			
18:00			
19:00			
20:00			
21:00			
22:00			

2 各コースについて

(1) ホール入門コース

① 総 評

コーディネーター 津村 卓

1996年以来のステージラボ広島セッション。今回41回を迎えたセッションだが、当時は地域創造も設立して2年目で、ステージラボ自体も4回目という、まだまだ手探り状態であったと思う。今では当たり前になっているが、入門コースをはじめ音楽、演劇に特化したコースをつくり、それぞれのコースに20名の少数の参加者で、朝から夜までのゼミが続き、そして深夜までの「番外ゼミ」という楽しい?研修会がスタートしたころであった。

当時は創造型(作品創り)事業や交流型(ワークショップ、アウトリーチ等)の事業が、全国の公立劇場・ホールの一部を除き実施されているとはいえない時期であるなか、創造型の劇場が開館し芸術監督制度も始まり、作品創りが行われるなか交流型事業としてワークショップやホールボランティア等が事業の中でウエイトを占めだしていた。また芸術文化における法律(文化芸術振興基本法)づくりが進み、さてこれからの公立劇場・ホールが何を目的にどういったミッションを掲げて運営されていけばよいのか、スタッフの在り方やどういったスキルが必要なかが問われていた時期だったと思う。

あれから20年。公立劇場・ホールの現場では、2003年に指定管理者制度が生まれ、2012年には劇場・音楽堂等の活性化に関する法律(劇場法)が生まれるなか、多くの劇場・ホールで専門職のスタッフの雇用が実施され、地域における文化拠点としての事業が実施されるようになってきた。そのなかでも交流型事業として、ワークショップに加えアウトリーチという概念が生まれ、劇場・ホールで待ち受けるだけでなく、芸術文化の拠点として持つノウハウやスキルを使って地域の学校をはじめ、まちに出て芸術の持つ潜在力をツールに事業を展開するまでになってきた。

今回の入門コースでは、美術、音楽、ダンス、演劇のワークショップを体験してもらい、なおかつアーティストが自分たちの行っているワークショップやアウトリーチをどう捉え、またコーディネートする側の劇場・ホールに対しての考えや、どういったオーダーがあるかを語ってもらった。これをヒントに、今後アーティストと組んで地域といかに向き合うか、また協働していくかの糸口を掴んでもらえる事を目標にプログラム構成を組み立てた。そして実際に幅広い内容の公演を多く実施し、創造事業として毎年複数の作品を創り、学校アウトリーチから地元企業や商店街との協働まで、幅広く街と向き合った事業を展開している北九州芸術劇場の事例を紹介することで、参加者それぞれ違う地域の状況をもとに糸をつなぎ紡ぐ方法を考えてもらえるようになればと思う。

わずか20年前とは比べ物にならないくらい社会は変化している。これから先、地域が発展し楽しいまちになっていくためには、芸術文化をはずしては考えられない時代になってきた。今回の参加者の皆さんは、その新しい時代を背負っていかねばならないはずである。では拠点となる劇場・ホールは何をしていけばよいのか。あきらめないで一緒に考えて行きましょう。最後に「劇場・ホールは在るものではなく、成るものである」から。

大月ヒロ子さん、田村緑さん、北村成美さん、多田淳之介さん他講師の皆さん、ありがとうございます。とても刺激的なワークショップでした。そして広島アステールプラザのみなさん!ありがとうございます。最後になりましたが、参加者のみなさん、本当にお疲れ様でした。

② ゼミ記録

—第1日— 2月17日（火）

ゼミ1 「自己紹介 記憶の中から自らを表現してみる」

講師： 大月 ヒロ子、津村 卓

美術を使ったワークショップから、初めて会った参加者それぞれの自己紹介をおこなった。

二人一組になって、書いている絵を見ないで一筆書きのようなイメージで似顔絵を描くことをはじめとし、子どもの頃の楽しかったことを画や言葉で書き出し、グループに分かれて一つの画を創作した。また講師がプロデュースしている古民家を使ったプロジェクトの話から他の芸術とのコラボレーションの可能性と自由な発想で向き合うことの大切さを伺った。



—第2日— 2月18日（水）

ゼミ2 「アーティストの考える劇場・音楽堂 その1 音楽」

講師： 田村 緑



ピアニストによる音楽のワークショップを体験してもらった。講師の田村さんが普段アウトリーチのプログラムとして実施している内容で、鑑賞の仕方としてベートーヴェンの「エリーゼのために」の演奏を聴きながらエリーゼをイメージすることから、ピアノという楽器の秘密を解き明かすこと、演奏を聴いた後「もし、私がピアノを弾けたなら誰にどの曲を贈るか」をイメージするといった内容であった。最後にアーティストとしてアウトリーチの重要な要素は「良い体験をしてもらう」ということ、そして事業は何を目的にしているかを明確にすることが大切であることを話してもらった。

ゼミ3 「アーティストの考える劇場・音楽堂 その2 ダンス」

講師： 北村 成美

「なにわのコレオグラファーしげやん」こと北村成美さんに、ワークショップを行ってもらった。身体を使った自己紹介から記念写真を撮るときシチュエーションを用いて、しげやんが構えるエアーカメラの前で全員でポーズをとる。カメラはどこに向けられるかわからないなかで、全員が走り回りながらポーズをとる。

ズをとる姿は、気が付けばとても素敵なダンスに変化していった。最後に広島らしく「広島焼き」「牡蠣」「平和公園」等を取り入れたダンスを創作。

素晴らしいダンス作品が完成した。劇場に対しては、アーティストが企画を持ち掛けやすいように、門が開かれていて欲しい。またアーティストに対し見守る眼も含め、見る目を持って欲しい。そして舞台以外も舞台に出来るよう劇場全体に風が通っているような劇場になってほしいという意見を貰った。



ゼミ4 「劇場・音楽堂の現状を確認」

講師： 津村 卓

1980年代の後半からの20数年の間に公立劇場・ホール環境や状況は大きく変化してきた。地域においてその目的やミッションの変化によって、事業の幅が広がるなか、専門職の雇用(芸術監督制度やプロデューサー制度)等で、より専門的なスキルが必要になっていく。また文化芸術振興基本法や指定管理者制度、また劇場法などが生まれるなか、二度にわたる大災害と向き合うにあたり、これからの劇場・音楽堂が何を期待され、どういう方向性を持たなければならないかを、参加者と共に話し合った。

—第3日— 2月19日(木)

ゼミ5 「アーティストが考える劇場・音楽堂 その3 演劇」

講師： 多田 淳之介

演劇のワークショップやアウトリーチプログラムを説明するとき、演技の仕方を教えてくれると思われることが多い。もちろん演技指導や作品創りなどのワークショップであれば、演技や戯曲解釈等のプログラムが行われるが、特にアウトリーチの場合は演劇の基本になる想像力を子ども達に提供するプログラム



が求められている。今回のプログラムでは想像力を喚起させてくれるものから演劇の再現性を体感するなど、短い時間のなかで中身の濃いプログラムを体感してもらえたと思う。また劇場をどう考えるかについては、劇場が地域にとって何が必要であるのかをしっかりと考えること。またアーティストと一緒に命がけの作品創りを楽しもう。行政側との関係を上手くやろう。など多くの公立劇場と仕事をしている多田さんから言える内容だった。

ゼミ6 「地域社会から求められる芸術文化」

講師： 坂田 雄平、津村 卓



地域の文化拠点としての劇場・ホールは、今以上に地域とどう向き合っていくかがこれからの大きな課題になっていくはずである。作品の公演また創作をベースに舞台芸術が持つ力と要素を幅広い社会に還元し、安心・安全であり活気あるまちづくりの中心を担うようにならない時代が来ている。具体的な事例として、数年前から劇場がまちに出て学校をはじめ市民、商店街、地元企業等と組んで事業を行っている北九州芸術劇場の事業を紹介した。もちろん地域によってすべての状況や環境が違うので、ひとつのきっかけとして捉えてみた。

ゼミ7 「フィードバック」

講師： 津村 卓

これまでのゼミの振り返りとして、4グループに分かれ、それぞれがどう受け止め感じたか、また何が課題として考えられるのか等を議論してもらった。フィードバックというこの作業が日常業務において、とても大切な時間であることに気が付いてもらえたと思う。



ゼミ8 「グループディスカッション1」

講師： 津村 卓

前日同様に4グループに分かれ、グループの中の一人の地域の劇場を上げるか、新しい地域に新しい劇場を開館させるか、とにかくこれまでのゼミを受けて劇場の「ビジョン」づくりに取り組んだ。



—第4日— 2月20日（金）

ゼミ9 「グループディスカッション2」

講師： 津村 卓

前半は音楽コースの参加者が構成したアウトリーチプログラムの発表を見学。アーバン・サクソフォン・カルテットの4人のアーティストは、今年度のアウトリーチフォーラム島根の参加アーティストで、音楽をどうイメージするかをテーマにし、コーディネーターと創ったプログラムをベースにしたものであった。音楽のアウトリーチプログラムとしてひとつの方法論として優れたものであった。その後ゼミ8の「ビジョン」づくりの続きをおこなった。

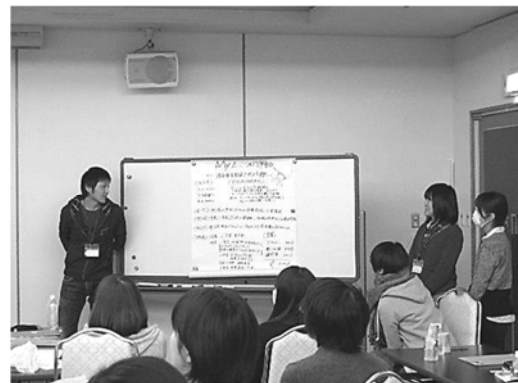


ゼミ10 「発表」

講師： 津村 卓

前半は演劇コースの参加者の創作劇の発表を1グループだけ見学。世界的演出家ピーター・ブルックの言葉に「なにもない舞台に俳優が1人、客席に1人の観客、それで演劇は成立する」日本の代表的な劇作家・演出家の佐藤信さんの言葉に「俳優と観客との間に信頼という関係が生まれれば、そこは劇場である」とある。発表を観て、アステールプラザの中会議室が「劇場」に、そして3日前まで劇場スタッフの「俳優」たちがいた。

さて4つのグループが考えてくれた劇場・ホールのビジョン、そして具体的な事業企画をグループ単位で発表してもらった。各グループの発表内容はそれぞれに特色があり、なおかつ地域との関係や目的・ミッションを明確にすることで、事業企画の内容にも反映された素晴らしい内容であった。



(2) 自主事業Ⅰ(音楽)コース

① 総 評

コーディネーター 山本 若子

4日間のカリキュラムを考える際、ラボのおみやげとして持ち帰るものとして嬉しいのは何だろう?と、想像してみた。当然ながら自分の中にあるものしか伝えられないし、伝わらない。では私の中にあるものとは?

そこそこの期間と機会でアウトリーチに関わらせてもらいながら、これのためなら頑張れるというものを得たように思う。それは募集メッセージで書いた「現場で生まれるあたたかくってふわっとしたもの」である。なんて抽象的で実態の無い言い方だろうと我ながらあきれられるのだけれど、でもこれが私のアウトリーチに対するモチベーションであり続けている。

さて、音楽コースのプログラム。講義から得る知識や方法、ワークショップ等での実体験等々いろいろ役に立つものはあるけれど、職場に戻った時に真の糧となってくれるものは自身で考えた先で生み出したものだろう。よし、生み出すことをプログラムの柱としよう。

ラボしょっぱなの開講式で「せっかくですから挑戦を」みたいな挨拶をしたように記憶しているのだけれど、蓋をあけてみるとそんなことを言われるまでもなく、何かを得ようとチャレンジ精神に満ち、ひたむきに考える人たちがかりで、この仲間たちとなら生み出せる!と感じたことを覚えている。

また、このラボ・プログラム実現においてアーバン・サクソフォン・カルテットにも多大な助けをもらった。メンバーには広島での楽しい夜を口説き文句に、小学校でのアウトリーチと、参加者が作る4つのアウトリーチ・プログラムをひと晩で実演まで練り上げるといふ、かなり負担大なお願いをしまい、陳謝。そしてそのお願いに見事に応えてくださり、感謝。

各ゼミの内容としては私自身がアウトリーチの現場で見てきたこと、感じたこと、考えたことなどのありっただけの経験を総動員したものにはなっているが、大事なことはそんな私の体験談ではなく、そこに参加者のみなさんの納得や疑問、発想などが相まって、そして自分ならどう解釈して次の創造へとつなげていくか、である。そう、目指すべきは、生み出す力。

そしてこの生み出す力にとって有効なもの、それは想像力だと考える。ひとつの事物に触れたとき、そこからどれだけたくさんのかを思い描けるか、新たな創造物のための材料を引き出せるか、そんなことに挑戦できる環境づくりができれば、と思い、プログラムを構成した。

初日の、初見の人を紹介するゼミを皮切りに、学校でのアウトリーチ見学やビデオ資料からアーティストのプログラム意図を慮ったり、アウトリーチ・プログラムを組むにあたっては、まだ見ぬ人たちのことを思いながらアイデアを出し、そのアイデアについて悩み、行き詰まり、見方を変えて突破口を切り開こうとしていった。また、アウトリーチという手法を解きほぐし考えていく中で、自己と他者との間に存在する空気感を想像する局面が多々あった。ひたすら誰かのことを思い、考え続けた4日間で、日に日にアンテナの感度が高まっていき、感受性に満ちた空気が渦巻いていたように感じたのは気のせいではないと思う。

「あたたかくってふわっとしたもの」とは、この感受性が呼応している状態のことを言うのかも知れない。

ラボ終了後「視界が開けた」という感想を頂いた。開けたのは何かを見ようとした努力の結果であり、開けた先に見えてくるものは自身で生み出した成果である。

14人の同士たちが取組んでいくであろう、アウトリーチ現場の未来は明るい。

② ゼミ記録

—第1日— 2月17日（火）

ゼミ1 「間接的自己紹介」

講師： 山本 若子

自己紹介の頭に間接的につけたのは、自分で自分をではなく自分を他者に紹介してもらう時間にしたかったため。初めて出会う相手を紹介する…そんな無茶ぶりの課題に対する戸惑いはほんの一瞬で、さすがチャレンジ精神旺盛の皆さん。すぐに要領を得て名珍紹介が繰り広げられました。

初見の人へ思いを巡らせるにあたってのとっかかりは事前課題として提出してもらった「好きな曲」とその曲にまつわるコメント、そして本人から放たれる空気のみ。かなりの集中力と想像力を駆使されたことと思います。途中、みなさんの感受性が高まったのか、スピリチュアルな体験ができてしまいました。



—第2日— 2月18日（水）

ゼミ2 「アウトリーチの整理」

講師： 児玉 真



ゼミ3でのアーバン・サクソフォン・カルテットによるアウトリーチは、音楽そのものの価値を伝えるよりも、音楽を使って想像力を引き出すという趣旨となっており、アウトリーチプログラムにおける位置づけは新しい部類に入るとされる。その内容に参加者の中には戸惑われる方もいるかも知れないということで、アウトリーチ見学の前に整理ができるような内容を児玉さんをお願いした。

内容はアウトリーチに対する公共ホールやアーティストの視点、その意義や技法などにも及び、整理だけでなくこの後のゼミで経験するアウトリーチプログラムも収められるような引き出しを用意して下さったゼミとなった。

ゼミ3 「アウトリーチを見る」

講師： 山本 若子、大上・小林・中村・千葉（アーバン・サクソフォン・カルテット）

市内小学校の6年生28名を対象としたアウトリーチを見学。

見学だけでなく会場設営も行い、アーティストと子どもたち、子どもたち同士の距離感などを考慮しながら椅子を並べました。また、演奏しながら教室に入場する演出をより効果的にするため、アーティストが入場時に子どもたちの間を通れるよう、アーティストからみて川の字にして2本の通路を作っては？という提案もあがり、実践。なかなかうまくいき、満足のいく演出だったけれど、後の進行の都合上アーティストが子どもたちに通路をつめるようお願いしたところ、仲のよすぎるクラスで思いの外ぎゅうぎゅうに詰めてくれ、集中して音楽を聴くには適さない環境となってしまった感は否めない。現場では思ってもいないことが起こるものです。



ゼミ4 「アウトリーチを振り返る」

講師： 山本 若子

ゼミ3で見学したアウトリーチを振り返り、考察。

考察の材料として「アーティストのやりたがっていたこと」と「アウトリーチを見た感想」について記述してもらった。

どのような曲目を演奏したのか、その演奏でもって子どもたちにどのような働きかけを行ったのか等について考えることで見えてくる物を発見し、アーティストが目指していたものを推察。



—第3日— 2月19日（木）

ゼミ5 「アウトリーチプログラムを考える 事例編」

講師： 山本 若子



過去のアウトリーチのビデオを用い、アーティストが着想したことを基にどのように曲目を選定し、話の内容を組んでいるのかを紹介。また、その内容に対する子どもたちの反応と、教室全体の空気感について考察した。ビデオでどれだけの空気感が伝わるのかに多少不安があったものの、ここは持ち前の感受性で補ってもらい、助けてもらった。

ゼミ6 「アウトリーチプログラムを考える 実践編」

講師： 山本 若子、大上・小林・中村・千葉（アーバン・サクソフォン・カルテット）

くじで4班に分かれ、『ピエルネ作曲「守護天使の夜」を、想像力豊かに聞いてもらう』というテーマで30分間のアウトリーチプログラムを作成。また、各班にアーバンのメンバーが一人ずつ入り、楽曲選定のアドバイスやアーティスト目線での助言、そしてゼミ7での実演にあたりプログラムの流れを他のメンバーに伝えるという役割を担ってもらった。

制限時間6時間。6時間もかかるのか？6時間で仕上がるのか？思いはそれぞれ、想定する対象者もそれぞれ。直感、論理性、同意、疑問、提案、こだわり、疲労、逃避…、いろんなものがうずまいた濃密な時間。

見えない相手を思うとき、自ずと自問自答する場面に出くわす。「どうすれば？」という方法についての思考と「何のために」という目的への思考。この2つの思考を行き来しつつ、「私の存在とは？」という自身の存在まで問い出した班も。



自由参加「アウトリーチプログラムを考える おまけ編」

ゼミ6でのプログラム作りが早く終わったなら、アーティストがそのプログラムをどのようにひとつの作品に仕上げていくのかを観察してもらおうと思ったが、4班全てのプログラムが完成したのが23時半であり、その余裕はなかった。ゆえにこの日のアーバン・サクソフォン・カルテットの4人の夜は長かった…。

—第4日— 2月20日（金）

ゼミ7 「アウトリーチプログラムを考える 体験編」

講師： 山本 若子、大上・小林・中村・千葉（アーバン・サクソフォン・カルテット）

各班で作成したアウトリーチプログラムの全てをアーバン・サクソフォン・カルテットによって実演。受講者は各班が想定する対象者を演じ、模擬アウトリーチを体験する。プログラム終了後は各班が独自に作成したアンケートに記入。

対象者は小学生、反抗期の中学生、高齢者施設の入居者とバラエティーに富むもの。プログラムがひとつ終わる度に倒れ込むように控え室に戻っていくアーバン・サクソフォン・カルテットのメンバーには負担が大きかったけれど、受講者にとって机の上で作ったプログラムが目の前で形になる体験はかなり濃密なものになったと思う。

アンケートには、プログラムを作った人の意図を汲みとり、そのプログラムの良いところ、弱点、改善方法などがこと細かに書いてあり、紙面上でプログラムを作った人とそのプログラム受けた人との互いの感受性が対話していて、字面を読んでいるだけでこみ上げてくるものがあった。



ゼミ8 「まとめ」

講 師： 山本 若子、大上・小林・中村・千葉（アーバン・サクソフォン・カルテット）

最後に、4日間を通しての感想などを自由に述べてもらった後、課題続きだったこの4日間のクールダウンの意味も込めて「守護天使の夜」を聴いてもらった。十人十色の面持ちで演奏を聴くみなさんの表情が印象的であった。



(3) 自主事業Ⅱ（演劇）コース

① 総評

コーディネーター 平田 オリザ

今回のステージラボは、大きく三つの枠組みを設定し、それを不連続で体験してもらうことによって、右脳と左脳を交互に使うような立体的な体験をしてもらうようにプログラムを行った。

1. コミュニケーションゲームからテキストを使った簡単なワークショップまでを体験させ、実体験を踏まえながら、ワークショップ・アウトリーチの問題点や課題の解説を行う。
2. 公共文化政策、劇場運営などについて、総論から各論まで、国内外の事例を交えて紹介し、理論的な体系づけを行う。特に、上司、本庁、議会などに対して、どのように説得力を持った議論を展開できるか、そのためにはどのような語彙が必要かをレクチャーする。
3. 四日間を通じて、十五分程度の寸劇を作る体系的な創作プログラムを体験する。

コースの構成としては、一日目は1と2を4割ずつで、3を2割とし、日を迫うごとに3の比率が増えるという流れにした。全体の構成、進行は、ほぼ予定通りに進み、受講者の満足度も高かったのではないと思う。詰め込みすぎの観もあったが、せっかくの機会なので、伝えられることはできる限り伝えたつもりである。総じて、過去に私が担当したステージラボに比べて、以下のような特徴があった。

- ア、舞台の実技経験者（ダンスを含む）が多かった。
- イ、大都市の大規模館からの参加が多かった。
- ウ、問題意識が高く、課題を持ってラボに参加していた。
- エ、若い専門職員が多かった。

アについては、先に掲げた3の創作プログラムの質が格段に上がり、グループによってはアシスタントを必要としないほどであった。

イについては、所属する施設の大きさにばらつきがあり、一つの解説がすべてのメンバーにとって実感を伴うものにはならない場合もあったかと思う。しかしながら、こういった機会でなければ知り得ない、それぞれの会館の規模に応じた課題や悩みを相互に知れたことは、将来、キャリアアップしていくであろう若い受講者にとっては有意義であったと思う。

イとも関連することだが、ウとエに関しては、これだけ専門職が増えてくると、やはり、それぞれの持つ課題にばらつきがあり、今後は、ラボで何を伝えるべきかも難しくなるだろうなと感じた。

今後、他の館に移りキャリアアップを図っていく可能性がある者、出身地の財団職員で他への移動は考えていない者、市からの出向で本庁に戻れば他の部署につく可能性のある者。そういった様々な環境の者が一堂に会して同じ作業をすることには強い意味があり、それこそがステージラボの醍醐味でもあるが、しかし、そろそろ他のコース分けも考えてもいい時期に来ているのかも知れない。

全体としては、若い参加者に、今後、職場で、自分の企画を遂行していくための闘うボキャブラリーをつけてもらうこと、どこに希望を見いだすかという点は伝えられたのではないと思う。

② ゼミ記録

—第1、2、3日— 2月17日（火）、18日（水）、19日（木）

ゼミ1、2、4、6 「創作ゼミ1、2、3、5」

講師： 平田 オリザ

ワークショップ

時系列で行った内容は以下の通り。

A. コミュニケーションゲーム

「仲間を集める」「身体で信頼関係を作る」「カードの番号に応じて役柄を演じる」「動きの中でイメージを共有する」という四つのコミュニケーションゲームを体験し、それぞれの意味や、ワークショップ遂行上の問題点を説明した。特に、演劇を教育プログラムに落とし込んでいく際の注意点、遂行上、コーディネーター側が気をつけなければならない点などを、実践を踏まえながら解説した。



B. 意識の分散



二人用のテキストを使って、まずは面と向かって、次は歩きながらといったように、次々に負荷をかけていき台本を読んでいくワークショップ。意識を分散させた方が台詞はナチュラルに言えるという新しい演劇教育の手法を紹介する。また、そのことが、演劇教育、コミュニケーション教育、あるいは体験教育の根拠づけとなるという点を、認知心理学の知見などを交えながら解説した。

C. 入ってきた人を意識する

三人のテキストを使い、電車の中で他人に話しかけるというシチュエーションを経験する。また、コンテキストという概念を説明し、実際に、どうすればその摺り合わせができていくかを、グループワークを通じて体験してもらった。

D. 出ていく人を意識する。

同じく三人のテキストを使い、次に出ていく人を意識する会話を体験した。観客の想像力を意識して物語を組み立てていく手法を学び、実際にグループワークでその実践を体験した。

—第2日— 2月18日(水)

ゼミ3 「空間を発見する」

講師： 杉山 至

E. 空間を発見する

舞台美術家杉山至を講師として、まず中心を発見するという簡単なワークショップ。さらに、劇場内を散策して、演劇的な空間を発見し、ミニドラマを創るグループワークを体験してもらった。

ワークショップの内容そのものの体験と、ワークショップには様々な種類があり、いろいろな可能性があるのだという点も併せて実感をしてもらった。



—第1日、2日、3日— 2月17日(火)、18日(水)、19日(木)

ゼミ1、2、4、5、8 「創作ゼミ1、2、3、4、7」

講師： 平田 オリザ

講義

A. 公共性とは何か

あらゆる事柄に公共性の順位をつけるゲームから始めて、公共性とは何か、それは普遍的なものではなく、時代や地域によって変わっていくものであるという大前提を理解してもらった。

B. 憲法論

そもそも文化権、文化によるアクセス権は憲法に保障された国民の権利であるというところから、文化政策の基本的な概念を解説した。

C. 新しい広場を作る

社会における芸術の役割を説明し、特に新しい概念である「文化による社会包摂」について詳しく解説した。

また、観光文化政策を中心に先進事例紹介を行い、文化の自己決定能力がある地域だけが競争力を持つことを示した。全体に、文化政策の幅広さを理解してもらった内容となった。



D. 劇場の役割



公共劇場が持つ役割を、歴史的、地理的条件などから分析した。さらに、国内外の先進事例、私の体験談などを紹介したのち、劇場法の意義についても言及した。

他に、各回とも、質疑応答の時間を作り、個別の問題を事例としながら、その解決策を検討した。

—第3日、4日— 2月19日（木）、20日（金）

ゼミ7、9、10 「創作ゼミ6、創作ゼミ8、創作発表」

講師： 平田 オリザ

創作プログラム

演劇の基本的な構造を説明したのち、各自に、「場所・背景・問題」を発案してもらい、その中から三つのアイデアを採択して三グループで創作に入った。

まず、登場人物を決め、プロットを決め、最後に台詞と動きを決めて稽古を進めた。

この過程で、参加者は、演劇の構造を学ぶと同時に、演劇ワークショップの様々な可能性を体得した。

グループによっては、深夜までカラオケボックスなどで練習をしたチームもあったようだ。

発表は、過去二回のステージラボに比べても格段にレベルが高く、充実したものとなった。



3 共通プログラム

(1) 日時・会場

2月18日(水) 18:30~20:30

アステールプラザ 2階 多目的スタジオ

(2) 出演者

ノゾエ征爾(俳優・演出家/劇団はえぎわ主宰)

金沢章子(司会)

(3) 概要及び目的

アステールプラザが、演劇界の第一線で活躍する演出家やスタッフを招き、地元の演劇人たちと協働でプロデュース公演を創作するプロジェクト“演劇引力広島”公演の通しリハーサル見学。

このプロジェクトは、アステールプラザ、演出家、プロスタッフに加え、演出部、制作部に地元演劇人が多数参加して、プロとの協働作業で芸術性の高い公演づくりを目指している。地方都市で行う本格的な創造活動の場を体験し、地域における文化芸術活動の牽引、街づくりといった劇場における創造活動の意義を考える機会とすることを目的とした。



(4) 内容

演劇引力広島第12回プロデュース公演「飛ぶひと」通しリハーサルの見学。

上演形式にとらわれない演出を可能にした平土間のワンボックス形式である多目的スタジオに、開帳場の舞台と150席の客席を設営。照明や音響を交えたはじめての通しであるため、舞台正面に演出テーブルが設置された客席内に入り、制作担当職員から企画趣旨の説明の他、アステールプラザの演劇ワークショップ受講生からプロとなった美術デザイナーの舞台セット、広島公演後には『劇団はえぎわ』による同作品の東京公演を実施、出演者はオーディションにより全国から参加、といった特色の説明や、作・演出を担当した『劇団はえぎわ』主宰のノゾエ征爾氏から広島との出会いから広島で作品を創作する思いなどが話され、その後通しリハーサルの見学を行った。

はじめての通しリハーサルということで、役者やスタッフには確認しながらの手探り感があり、受講生の方々も舞台制作者の視点で見学しているため、笑う場面でも笑い声が薄いとといった固い感じの舞台と客席であったが、公演直前の創作現場を垣間見ることができた。

また、公演を翌日に控え、終了後にはダメ出しが行われるために質問の時間を取ることができないのが残念であったが、終演後の帰り道では作品の内容について協議する姿も見受けられた。

VII 参加者リスト

ステージラボ新潟セッション参加者リスト

都道府県名	ふりがな	所属	担当施設名	
	参加者氏名	職名	開館年	
No.	所属住所		ホール1	座席数
			ホール2	座席数
	TEL/FAX		ホール3	座席数
			自主事業	事業予算

【参加者名簿】

1.ホール入門コース

01.北海道	もりわき ゆうすけ 森脇 優介	公益財団法人札幌市芸術文化財団 教育文化会館事業部 管理課 業務係	札幌市教育文化会館 開館年 1977年 大ホール 1100席 小ホール 360席
	No. 1	〒 060-0001 北海道札幌市中央区北1条西13丁目 TEL 011-271-5811 / FAX 011-271-1916	自主事業 d. 21本以上 事業予算 d. 3,000万円～5,000万円未満

06.山形県	ふじもと しゅうへい 藤元 周平	公益財団法人米沢上杉文化振興財団 事業企画員	伝国の杜 開館年 2001年 置賜文化ホール 977.1㎡
	No. 2	〒 992-0052 山形県米沢市丸の内1-2-1 TEL 0238-26-2666 / FAX 0238-26-2660	自主事業 c. 11本～20本 事業予算 c. 1,000万円～3,000万円未満

07.福島県	せき まえこ 関 真映子	いわき芸術文化交流館 施設管理課 嘱託職員	いわき芸術文化交流館アリオス 開館年 2008年 大ホール 1705席 中劇場 687席 小劇場 233席
	No. 3	〒 970-8026 福島県いわき市平字三崎1-6 TEL 0246-22-7418 / FAX 0246-22-8181	自主事業 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上

08.茨城県	よしなり まさと 吉成 理人	小美玉市役所 市民生活部生活文化課 主任	小美玉市四季文化館(みの～れ) 開館年 2002年 大ホール 600席 小ホール 300席 練習室1・2 72.60㎡・50.80㎡
	No. 4	〒 319-0132 茨城県小美玉市部室1069 TEL 0299-48-4466 / FAX 0299-48-4467	自主事業 d. 21本以上 事業予算 c. 1,000万円～3,000万円未満

15.新潟県	おのづか あき 小野塚 陽	公益財団法人新潟市芸術文化振興財団 事業課 音楽企画制作	りゅーとびあ 新潟市民芸術文化会館 開館年 1998年 コンサートホール 1884席
	No. 5	〒 951-8132 新潟県新潟市中央区一番堀通町3-2 TEL 025-224-5614 / FAX 025-224-5626	自主事業 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上

15.新潟県	はやかわ ちさと 早川 知里	公益財団法人長岡市芸術文化振興財団 事業課 主事	長岡リリックホール 開館年 1996年 コンサートホール 700席 シアター 450席
	No. 6	〒 940-2108 新潟県長岡市千秋3-1356-6 TEL 0258-29-7715 / FAX 0258-29-7722	自主事業 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上

16.富山県	うらもと しほ 浦本 詩帆	公益財団法人黒部市国際文化センター 会計事務	黒部市国際文化センター コラーレ 開館年 1995年 カーターホール 886席 マルチホール 240席 能舞台 300席
	No. 7	〒 938-0031 富山県黒部市三日市20 TEL 0765-57-1201 / FAX 0765-57-1207	自主事業 d. 21本以上 事業予算 d. 3,000万円～5,000万円未満

20.長野県	まつざわ しんじ 松澤 慎治	大町市教育委員会 生涯学習課 文化会館 兼 大町公民館 兼 勤労者福祉施設	大町市文化会館 開館年 1986年 大ホール 1144席
	No. 8	〒 398-0002 長野県大町市大町1601-2 大町市文化会館 TEL 0261-22-9988 / FAX 0261-22-9849	自主事業 b. 1本～10本 事業予算 c. 1,000万円～3,000万円未満

【参加者名簿】

1.ホール入門コース

21.岐阜県	ひがし みちこ 東 美智子	一般財団法人岐阜市公共ホール管理財団 業務課 事務グループ	岐阜市民会館
	No. 9	〒 500-8812 岐阜県岐阜市美江寺町2-6 TEL 058-262-8111 / FAX 058-262-8114	開館年 1967年 大ホール 1501席 自主事業 c. 11本~20本 事業予算 c. 1,000万円~3,000万円未満
21.岐阜県	たかはし のぶまさ 高橋 伸昌	岐阜県山県市 文化の里 花咲きホール 主査	山県市 文化の里 花咲きホール
	No. 10	〒 501-2125 岐阜県山県市洞田127-135 TEL 0581-36-2323 / FAX 0581-36-2777	開館年 2005年 花咲きホール 350席 自主事業 b. 1本~10本 事業予算 c. 1,000万円~3,000万円未満
23.愛知県	なかの くにお 中野 邦男	愛知県知多郡武豊町 武豊町教育委員会	武豊町民会館
	No. 11	〒 470-2555 愛知県知多郡武豊町字大門11 TEL 0569-74-1211 / FAX 0569-74-1227	開館年 2004年 輝きホール 678席 響きホール 230席 自主事業 b. 1本~10本 事業予算 c. 1,000万円~3,000万円未満
24.三重県	やまうち しほ 山内 志穂	公益財団法人三重県文化振興事業団 三重県文化会館 事業推進グループ	三重県総合文化センター 三重県文化会館
	No. 12	〒 514-0061 三重県津市一身田上津部田1234 TEL 059-233-1112 / FAX 059-233-1106	開館年 1994年 大ホール 1903席 中ホール 968席 小ホール 285席 自主事業 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上
24.三重県	みうら ばんじょう 三浦 万丈	公益財団法人鈴鹿市文化振興事業団 事業係	鈴鹿市文化会館・鈴鹿市民会館
	No. 13	〒 513-0802 三重県鈴鹿市飯野寺家町810 鈴鹿市文化会館内 TEL 059-384-7000 / FAX 059-384-7755	開館年 1988年(文化会館)・1968年(市民会館) 鈴鹿市文化会館 500席 鈴鹿市民会館 1278席 自主事業 c. 11本~20本 事業予算 c. 1,000万円~3,000万円未満
27.大阪府	きただ けいじ 北田 恵慈	公益財団法人八尾市文化振興事業団 総合企画事業班 スタッフ	八尾市文化会館(プリズムホール)
	No. 14	〒 581-0803 大阪府八尾市光町2-40 TEL 072-924-5112 / FAX 072-924-5010	開館年 1988年 大ホール 1440席 小ホール 390席 レセプションホール 150席 自主事業 d. 21本以上 事業予算 e. 5,000万円~1億円未満
32.島根県	おおくさ あきお 大久佐 明夫	島根県安来市 市民生活部市民会館開館準備室 室長	安来市民会館(仮称)
	No. 15	〒 692-8686 島根県安来市安来町878-2 TEL 0854-23-3034 / FAX 0854-23-3155	開館年 2017年(予定) 大ホール 1000席 小ホール 300席 自主事業 事業予算
36.徳島県	ゆあさ まさよし 湯浅 正敬	徳島県徳島市 市民環境部 文化振興課 係長	徳島市新ホール(名称未定)
	No. 16	〒 770-8571 徳島県徳島市幸町2-5 TEL 088-621-5178 / FAX 088-624-1281	開館年 2018年(予定) 未定 1500席 自主事業 事業予算

【参加者名簿】

1.ホール入門コース

40.福岡県	いちたますみ 一田 真澄	公益財団法人北九州市芸術文化振興財団 宣伝営業課	北九州芸術劇場
			開館年 2003年
No. 17	〒 803-0812 福岡県北九州市小倉北区室町1-1-11 TEL 093-562-2520 / FAX 093-562-2526		大ホール 1269席
			中劇場 700席
			小劇場 96~216席
			自主事業 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上
40.福岡県	やしろかおる 屋代 薫	公益財団法人宗像ユリックス 事業部 リーダー	宗像総合市民センター
			開館年 1988年
No. 18	〒 811-3437 福岡県宗像市久原400 TEL 0940-37-1483 / FAX 0940-37-1359		イベントホール 2309席
			ハーモニーホール 622席
			自主事業 d. 21本以上 事業予算 e. 5,000万円~1億円未満
40.福岡県	かめがわあゆみ 亀川 あゆみ	公益財団法人大野城まどかぴあ 文化芸術振興課文化芸術振興担当	大野城まどかぴあ
			開館年 1996年
No. 19	〒 816-0934 福岡県大野城市曙町2-3-1 TEL 092-586-4040 / FAX 092-586-4021		大ホール 783席
			中ホール 118席
			多目的ホール 300席
			自主事業 d. 21本以上 事業予算 e. 5,000万円~1億円未満
47.沖縄県	うんてん ゆうき 運天 優希	名護市教育委員会 社会教育課 地域創造係	名護市民会館
			開館年 1985年
No. 20	〒 905-0014 沖縄県名護市港2-1-1 TEL 0980-53-5427 / FAX 0980-53-5426		大ホール 1054席
			中ホール 350席
			自主事業 c. 11本~20本 事業予算 b. 1円~1,000万円未満
47.沖縄県	てるやちあき 照屋 千秋	沖縄県南城市 企画部 まちづくり推進課 主任主事	沖縄県南城市文化センター シュガーホール
			開館年 1994年
No. 21	〒 901-1403 沖縄県南城市佐敷字佐敷307 TEL 098-947-1100 / FAX 098-947-0099		シュガーホール 510席
			自主事業 b. 1本~10本 事業予算 c. 1,000万円~3,000万円未満

【参加者名簿】

2.自主事業Ⅰ(音楽)コース

01.北海道	ほりこし めいこ 堀越 芽生子	公益財団法人札幌市芸術文化財団 芸術の森事業部 管理課 業務係	札幌芸術の森 開館年 1986年 野外ステージ 1416㎡ アートホール(アリーナ) 645㎡ アートホール(大練習室) 488㎡ 自主事業 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上
	No. 1	〒 005-0864 北海道札幌市南区芸術の森2-75 TEL 011-592-5111 / FAX 011-592-4120	

04.宮城県	ごまいばし さおり 五枚橋 紗織	公益財団法人 仙台市市民文化事業団 コンクール推進課 主事	日立システムズホール仙台(仙台市青年文化センター) 開館年 1990年 コンサートホール 802席 シアターホール 584席 交流ホール 472㎡ 自主事業 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上
	No. 2	〒 981-0904 宮城県仙台市青葉区旭ヶ丘3-27-5 TEL 022-727-1872 / FAX 022-727-1873	

08.茨城県	すずき まさひろ 鈴木 雅博	小美玉市役所 市民生活部 生活文化課 主幹	小美玉市小川文化センター アビオス 開館年 1982年 大ホール 1200席 小ホール 300席 自主事業 c. 11本~20本 事業予算 c. 1,000万円~3,000万円未満
	No. 3	〒 311-3423 茨城県小美玉市小川225 TEL 0299-58-0921 / FAX 0299-58-0923	

10.群馬県	こばやし まや 小林 摩耶	公益財団法人群馬県教育文化事業団 事業課 主事	群馬県民会館 開館年 1971年 大ホール 1997席 小ホール 499席 自主事業 b. 1本~10本 事業予算 c. 1,000万円~3,000万円未満
	No. 4	〒 371-0017 群馬県前橋市日吉町1-10-1 TEL 027-232-1111 / FAX 027-232-1115	

10.群馬県	まるもと てつや 丸本 哲也	公益財団法人桐生市スポーツ文化事業団 文化事業部 文化事業課 文化振興係	桐生市市民文化会館 開館年 1997年 シルクホール 1517席 小ホール 276席 自主事業 d. 21本以上 事業予算 d. 3,000万円~5,000万円未満
	No. 5	〒 376-0024 群馬県桐生市織姫町2-5 TEL 0277-40-1500 / FAX 0277-46-1126	

11.埼玉県	よしだ たつや 吉田 竜哉	公益財団法人さいたま市文化振興事業団 事業課兼文化センター 主任	さいたま市文化センター 開館年 1985年 大ホール 2006席 小ホール 340席 自主事業 c. 11本~20本 事業予算 c. 1,000万円~3,000万円未満
	No. 6	〒 336-0024 埼玉県さいたま市南区根岸1-7-1 TEL 048-866-3467 / FAX 048-837-2572	

11.埼玉県	ばば ももこ 馬場 桃子	公益財団法人和光市文化振興公社 事業係 主事補	和光市民文化センター サンアゼリア 開館年 1993年 大ホール 1286席 小ホール 229席 展示ホール・企画展示室 口 427㎡ 自主事業 d. 21本以上 事業予算 e. 5,000万円~1億円未満
	No. 7	〒 351-0192 埼玉県和光市広沢1-5 TEL 048-468-7774 / FAX 048-468-8994	

13.東京都	しかから ゆうすけ 鹿倉 雄介	公益財団法人東京都歴史文化財団 東京芸術劇場 事業企画課 事業第一係 主事	東京芸術劇場 開館年 1990年 コンサートホール 1999席 プレイハウス 834席 シアターイースト 324席 自主事業 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上
	No. 8	〒 171-0021 東京都豊島区西池袋1-8-1 TEL 03-5391-2111 / FAX 03-5391-2215	

【参加者名簿】

2.自主事業Ⅰ(音楽)コース

13.東京都	しもかわ かな	一般財団法人地域創造 総務部 主事	開館年	年
	下川 華奈			
No. 9	〒 107-0052 東京都港区赤坂2-9-11 オリックス赤坂2丁目ビル9階 TEL 03-5573-4184 / FAX 03-5573-4070		自主事業	事業予算
16.富山県	あいかわ ひろき	公益財団法人富山県文化振興財団 富山県高岡文化ホール 総務担当	富山県高岡文化ホール	
	相川 博紀		開館年	1986年
No. 10	〒 933-0055 富山県高岡市中川園13-1 TEL 0766-25-4141 / FAX 0766-25-4332		大ホール	703席
			多目的小ホール	300席
			自主事業	d. 21本以上 事業予算 c. 1,000万円~3,000万円未満
20.長野県	やまだ あつこ	一般財団法人長野県文化振興事業団 事業課 主事	キッセイ文化ホール(長野県松本文化会館)	
	山田 敦子		開館年	1992年
No. 11	〒 390-0311 長野県松本市水汲69-2 TEL 0263-34-7100 / FAX 0263-34-7101		大ホール	2000席
			中ホール	746席
			自主事業	d. 21本以上 事業予算 d. 3,000万円~5,000万円未満
20.長野県	やまだ あきよし	特定非営利活動法人Js文化フォーラム 企画・広報担当	東御市文化会館	
	山田 顕義		開館年	1991年
No. 12	〒 389-0515 長野県東御市常田505-1 東御市文化会館 TEL 0268-62-3700 / FAX 0268-62-3262		東御市文化会館サンテラスホール 750席	
			自主事業	d. 21本以上 事業予算 c. 1,000万円~3,000万円未満
22.静岡県	すずき しょうた	公益財団法人静岡市文化振興財団 静岡音楽館 AOI 主事	静岡音楽館AOI	
	鈴木 翔太		開館年	1995年
No. 13	〒 420-0851 静岡県静岡市葵区黒金町1-9 TEL 054-251-2200 / FAX 054-253-3322		ホール	618席
			講堂	約340㎡
			リハーサル室1・リハーサル室2	約100㎡・約100㎡
			自主事業	c. 11本~20本 事業予算 e. 5,000万円~1億円未満
22.静岡県	にしざき さとこ	公益財団法人焼津市振興公社 焼津文化会館 文化振興課	焼津市焼津文化会館	
	西崎 仁子		開館年	1985年
No. 14	〒 425-8585 静岡県焼津市三ヶ名1550 TEL 054-627-3111 / FAX 054-628-5176		大ホール	1300席
			小ホール	500席
			自主事業	d. 21本以上 事業予算 e. 5,000万円~1億円未満
23.愛知県	こうのす としひろ	公益財団法人豊田市文化振興財団 コンサートホール・能楽堂 主事	豊田市コンサートホール・能楽堂	
	鴻巣 俊博		開館年	1998年
No. 15	〒 171-0021 愛知県豊田市西町1-200 豊田総合館8階 TEL 0565-35-8200 / FAX 0565-37-0011		豊田市コンサートホール	1004席
			豊田市能楽堂	458席
			多目的ルーム	90㎡
			自主事業	d. 21本以上 事業予算 e. 5,000万円~1億円未満
23.愛知県	つちえ かえ	特定非営利活動法人武豊文化創造協会 事務局員	武豊町民会館(ゆめたろうプラザ)	
	土江 香恵		開館年	2004年
No. 16	〒 470-5555 愛知県知多郡武豊町大門田11 TEL 0569-74-1211 / FAX 0569-74-1227		輝きホール	678席
			響きホール	230席
			自主事業	d. 21本以上 事業予算 c. 1,000万円~3,000万円未満

【参加者名簿】

2.自主事業Ⅰ(音楽)コース

28.兵庫県	こんどう のぞみ 近藤 のぞみ	公益財団法人神戸市民文化振興財団 事業二部 文化振興課	神戸文化ホール、市内区民センター(7箇所) 開館年 1973年 神戸文化ホール・大ホール 2043席 神戸文化ホール・中ホール 904席 東灘区民センター・うはらホール 650席 自主事業 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上
	No. 17	〒 650-0017 兵庫県神戸市中央区楠町4-2-2 神戸文化ホール内 TEL 078-351-3597 / FAX 078-351-3121	

31.鳥取県	かない ゆうすけ 金井 祐輔	公益財団法人鳥取県文化振興財団 鳥取県立県民文化会館 企画制作部とリアート推進課 主任	鳥取県立県民文化会館(とりぎん文化会館) 開館年 1993年 梨花ホール 2000席 小ホール 500席 自主事業 b. 1本~10本 事業予算 e. 5,000万円~1億円未満
	No. 18	〒 680-0017 鳥取県鳥取市尚徳町101-5 TEL 0857-21-8700 / FAX 0857-21-8705	

33.岡山県	どいはら ちひろ 土井原 千尋	公益財団法人岡山シンフォニーホール 管理部	岡山シンフォニーホール 開館年 1991年 大ホール 2001席 イベントホール 200席 自主事業 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上
	No. 19	〒 700-0822 岡山県岡山市北区表町1-5-1 TEL 086-234-2001 / FAX 086-234-1968	

35.山口県	にしの まどか 西野 まどか	公益財団法人防府市文化振興財団 防府市地域交流センター 事業係	防府市地域交流センター 開館年 1998年 音楽ホール 602席 自主事業 b. 1本~10本 事業予算 c. 1,000万円~3,000万円未満
	No. 20	〒 747-0036 山口県防府市戎町1-1-28 TEL 0835-26-5151 / FAX 0835-26-5111	

40.福岡県	かいしゃくじ たがこ 皆尺寺 多賀子	公益財団法人 北九州市芸術文化振興財団 音楽事業課	北九州市立響ホール 開館年 1993年 大ホール 720席 リハーサル室 173㎡ 研修室 50㎡ 自主事業 c. 11本~20本 事業予算 e. 5,000万円~1億円未満
	No. 21	〒 805-0062 福岡県北九州市八幡東区平野1-1-1 国際村交流センター内 TEL 093-662-4010 / FAX 093-662-0100	

44.大分県	たじま みさ 但馬 未紗	公益財団法人 大分県芸術文化スポーツ振興財団 企画普及課	iichiko総合文化センター 開館年 1998年 グランシアタ 1966席 音の泉 710席 自主事業 c. 11本~20本 事業予算 f. 1億円以上
	No. 22	〒 870-0029 大分県大分市高砂町2-33 TEL 097-533-4004 / FAX 097-533-4009	

【参加者名簿】

3.自主事業Ⅱ(舞台芸術)コース

01.北海道	くしびき あやの 櫛引 彩乃	公益財団法人札幌市芸術文化財団 総務課 経理係	札幌市教育文化会館
			開館年 1975年
No. 1	〒 064-8649 北海道札幌市中央区中島公園1-15 札幌コンサートホール内 TEL 011-521-5114 / FAX 011-513-4121		大ホール 1100席
			小ホール 360席
			自主事業 c. 11本~20本 事業予算 d. 3,000万円~5,000万円未満

08.茨城県	えのきど じゅんいち 榎戸 純一	小美玉市役所 市民生活部 生活文化課 係長	小美玉市小川文化センター アピオス
			開館年 1982年
No. 2	〒 311-3423 茨城県小美玉市小川1225 TEL 0299-58-0921 / FAX 0299-58-0923		大ホール 1200席
			小ホール 300席
			自主事業 c. 11本~20本 事業予算 c. 1,000万円~3,000万円未満

09.栃木県	はせがわ としお 長谷川 敏夫	公益財団法人足利市みどりと文化・スポーツ財団 足利市民プラザ 事業担当	足利市民プラザ
			開館年 1982年
No. 3	〒 326-0824 栃木県足利市朝倉町264 TEL 0284-72-8511 / FAX 0284-72-7278		文化ホール 826席
			自主事業 d. 21本以上 事業予算 c. 1,000万円~3,000万円未満

11.埼玉県	うの まきこ 宇野 茉稀子	公益財団法人さいたま市文化振興事業団 事業課兼文化センター 主事	さいたま市文化センター
			開館年 1985年
No. 4	〒 336-0024 埼玉県さいたま市南区根岸1-7-1 TEL 048-866-3467 / FAX 048-837-2572		大ホール 2006席
			小ホール 340席
			多目的ホール 320㎡
			自主事業 c. 11本~20本 事業予算 c. 1,000万円~3,000万円未満

13.東京都	ふるた かよ 古田 佳代	公益財団法人東京都歴史文化財団 事業企画課 事業第二係	東京芸術劇場
			開館年 1990年
No. 5	〒 171-0021 東京都豊島区西池袋1-8-1 TEL 03-5391-2115 / FAX 03-5391-2215		プレイハウス 834席
			シアターイースト 324席
			シアターウエスト 270席
			自主事業 c. 11本~20本 事業予算 f. 1億円以上

13.東京都	こじま あき 兒島 安希	一般財団法人地域創造 総務部 主事	開館年 年
No. 6	〒 107-0052 東京都港区赤坂2-9-11 オリックス赤坂2丁目ビル9階 TEL 03-5573-4164 / FAX 03-5573-4070		
			自主事業 事業予算

13.東京都	なかざわ まさこ 中澤 雅子	一般財団法人地域創造 総務部 副参事	開館年 年
No. 7	〒 107-0052 東京都港区赤坂2-9-11 オリックス赤坂2丁目ビル9階 TEL 03-5573-4057 / FAX 03-5573-4070		
			自主事業 事業予算

14.神奈川県	なかそ あんな 中祖 杏奈	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団 横浜赤レンガ倉庫1号館	横浜赤レンガ倉庫1号館
			開館年 2002年
No. 8	〒 231-0001 神奈川県横浜市中区新港1-1-1 TEL 045-211-1515 / FAX 045-211-1519		3階ホール 300席
			自主事業 b. 1本~10本 事業予算 d. 3,000万円~5,000万円未満

【参加者名簿】

3.自主事業Ⅱ（舞台芸術）コース

14.神奈川県	おぼら みつひろ	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団 横浜市民ギャラリーあざみ野	横浜市民ギャラリーあざみ野	
	小原 光洋		開館年 2005年	レクチャールーム 194席
No.	〒 225-0012 神奈川県横浜市青葉区あざみ野南1-17-3 アートフォーラムあざみ野内			
9	TEL 045-910-5656 / FAX 045-910-5674		自主事業	d. 21本以上 事業予算 d. 3,000万円～5,000万円未満

21.岐阜県	えんどう りか	公益財団法人多治見市文化振興事業団 多治見市文化会館	多治見市文化会館	
	遠藤 梨加		開館年 1981年	大ホール 1298席
No.	〒 507-0039 岐阜県多治見市十九田町2-8		小ホール 390席	
10	TEL 0572-23-2600 / FAX 0572-23-7555		自主事業	d. 21本以上 事業予算 e. 5,000万円～1億円未満

27.大阪府	やまだ りか	公益財団法人茨木市文化振興財団 文化事業係	茨木市市民会館、茨木市福祉文化会館、茨木市市民総合センター	
	山田 理香		開館年 1969年(大ホール)、1981年(文化ホール)、1989年(センターホール)	大ホール 997席
No.	〒 567-0888 大阪府茨木市駅前4-7-50		文化ホール 345席	
11	TEL 072-625-3055 / FAX 072-625-3036		センターホール 426席	
			自主事業	c. 11本～20本 事業予算 d. 3,000万円～5,000万円未満

27.大阪府	やまだ ゆか	公益財団法人河内長野市文化振興財団 事業グループ	ラブリールホール	
	山田 愉香		開館年 1992年	大ホール 1308席
No.	〒 586-0016 大阪府河内長野市西代町12-46		小ホール 464席	
12	TEL 0721-56-6100 / FAX 0721-56-6111		自主事業	d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上

28.兵庫県	かねこ いっせい	公益財団法人神戸市民文化振興財団 北神区民センター	北神区民センター	
	金子 一誠		開館年 2011年	ありまホール 498席
No.	〒 650-0017 兵庫県神戸市北区藤原台中町1-3-1			
13	TEL 078-987-3400 / FAX 078-987-3444		自主事業	d. 21本以上 事業予算 b. 1円～1,000万円未満

40.福岡県	かがた こうじ	公益財団法人北九州市芸術文化振興財団 舞台事業課	北九州芸術劇場	
	加賀田 浩二		開館年 2003年	大ホール 1260席
No.	〒 803-0812 福岡県北九州市小倉北区室町1-1-11		中劇場 700席	
14	TEL 093-562-2620 / FAX 093-562-2633		小劇場 120～216席	
			自主事業	d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上

40.福岡県	なかじま ちさこ	久留米市役所 市民文化部 久留米シティプラザ推進室 気運醸成チーム 専門スタッフ	久留米シティプラザ(平成28年3月開館予定)	
	仲島 智紗子		開館年 2016年	ザ・グランドホール 1509席
No.	〒 830-8520 福岡県久留米市城南町15-3		久留米座 399席	
15	TEL 0942-30-9242 / FAX 0942-30-9714		Cボックス 最大144席	
			自主事業	b. 1本～10本 事業予算 d. 3,000万円～5,000万円未満

ステージラボ 公立ホール・劇場 マネージャーコース参加者リスト

都道府県名	ふりがな	所属	担当施設名	
	参加者氏名	職名	開館年	
No.	所属住所 TEL/FAX		ホール1	座席数
			ホール2	座席数
			ホール3	座席数
			自主事業	事業予算

【参加者名簿】

公立ホール・劇場 マネージャーコース

04.宮城県	おおた のりよし 太田 憲賢	公益財団法人宮城県文化振興財団 企画事業課 課長補佐兼係長	宮城県民会館 開館年 1964年 大ホール 1590席
	No. 1 〒 980-0803 宮城県仙台市青葉区国分町三丁目3番7号 TEL 022-225-8641 / FAX 022-223-8728		- - 自主事業 c. 11本~20本 事業予算 f. 1億円以上

11.埼玉県	たかはし たつや 高橋 達也	一般財団法人上里町文化振興協会 管理兼業務係	上里町勤労者総合文化センター(ワープ上里) 開館年 1993年 多目的ホール 500席
	No. 2 〒 369-0306 埼玉県児玉郡上里町七本木71-1 TEL 0495-34-0488 / FAX 0495-34-0661		- - 自主事業 b. 1本~10本 事業予算 b. 1円~1,000万円未満

12.千葉県	うきょう しんじ 右京 信治	千葉県鎌ヶ谷市 市民会館長	きらりホール(きらり鎌ヶ谷市民会館) 開館年 2014年 きらりホール 2132.71㎡
	No. 3 〒 273-0101 千葉県鎌ヶ谷市富岡1-1-3 TEL 047-441-3377 / FAX 047-445-6777		- - 自主事業 c. 11本~20本 事業予算 c. 1,000万円~3,000万円未満

13.東京都	まつうら ともふみ 松浦 智史	公益財団法人目黒区芸術文化振興財団 めぐろパーシモンホール事業係長	めぐろパーシモンホール 開館年 2002年 大ホール 1200席
	No. 4 〒 152-0023 東京都目黒区八雲1-1-1 TEL 03-5701-2913 / FAX 03-5701-2968		- - 自主事業 b. 1本~10本 事業予算 c. 1,000万円~3,000万円未満

13.東京都	わたなべ まさあき 渡辺 昌明	公益財団法人立川市地域文化振興財団 事務局長	たましんRISURUホール(立川市市民会館) 開館年 1974年 大ホール 1201席 小ホール 246席
	No. 5 〒 190-0022 東京都立川市錦町3-3-20 TEL 042-526-1312 / FAX 042-525-6581		- - 自主事業 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上

18.福井県	おがわ りゅういち 小川 隆一	公益財団法人福井市ふれあい公社 自主事業担当 副主幹	福井市文化会館 開館年 1968年 - 1162席
	No. 6 〒 910-0019 福井県福井市春山2丁目7番1号 TEL 0776-20-5010 / FAX 0776-24-9198		- - 自主事業 b. 1本~10本 事業予算 b. 1円~1,000万円未満

20.長野県	ますだ やすお 増田 泰男	一般財団法人長野市文化芸術振興財団 事務局次長	長野市芸術館 開館年 2016年予定 - 1300席
	No. 7 〒 380-0801 長野県長野市箱清水1丁目3-8長野市城山分室 TEL 026-219-3100 / FAX 026-219-3110		- - 自主事業 未定 事業予算 未定

20.長野県	はぎわら とおる 萩原 透	一般財団法人長野県文化振興事業団 事業課長	キッセイ文化ホール(長野県松本文化会館) 開館年 1992年 大ホール 2000席 中ホール 746席
	No. 8 〒 390-0311 長野県松本市水汲69-2 TEL 0263-34-7100 / FAX 0263-34-7101		- - 自主事業 d. 21本以上 事業予算 b. 1円~1,000万円未満

【参加者名簿】

公立ホール・劇場 マネージャーコース

23.愛知県	いとう ひでひこ 伊藤 英彦	公益財団法人かすがい市民文化財団 チーフマネージャー	春日井市民会館／春日井市文芸館 開館年 1966年／1999年 春日井市民会館 1022席 文芸館・視聴覚ホール 198席
	No. 9 〒 486-0844 愛知県春日井市鳥居松町5-44 TEL 0568-85-6868 / FAX 0568-82-0213		自主事業 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上
28.兵庫県	いわさき ともゆき 岩崎 智之	公益財団法人尼崎市総合センター 事業部 営業貸館担当係長	尼崎市総合文化センター(あましんアルカイクホール) 開館年 1975年 あましんアルカイクホール 1820席 あましんアルカイクホール・オクト 650席
	No. 10 〒 660-0881 兵庫県尼崎市昭通通2丁目7-16 TEL 06-6487-0800 / FAX 06-6482-3504		自主事業 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上
28.兵庫県	さかきばら ひとし 榑原 均	公益財団法人神戸市民文化振興財団 事業1部 部長	神戸文化ホール 開館年 1973年 大ホール 2043席 中ホール 904席
	No. 11 〒 650-0017 神戸市中央区榑町4丁目2-2 TEL 078-351-2942 / FAX 078-351-3121		自主事業 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上
31.鳥取県	にしお よしあき 西尾 佳晃	公益財団法人鳥取県文化振興財団 財団・事務局次長、会館総務部・副部長兼総務課長兼施設課長	鳥取県立県民文化会館 開館年 1993年 梨花ホール 2000席 小ホール 500席
	No. 12 〒 680-0017 鳥取県鳥取市尚徳町101-5 TEL 0857-21-8700 / FAX 0857-21-8705		自主事業 c. 11本～20本 事業予算 e. 5,000万円～1億円未満
33.岡山県	たかつぐ ひであき 高次 秀明	公益財団法人岡山シンフォニーホール 事務局長	岡山シンフォニーホール 開館年 1991年 大ホール 2001席 イベントホール 200席
	No. 13 〒 700-0822 岡山県岡山市北区表町1-5-1 TEL 086-234-2001 / FAX 086-234-1968		自主事業 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上
40.福岡県	のもと かずや 野元 和也	福岡市役所 経済観光文化局文化振興部文化振興課主査(拠点文化)	福岡市民ホール 開館年 1963年 大ホール 1770席 中ホール 354席
	No. 14 〒 810-0001 福岡県福岡市中央区天神5丁目1番23号 TEL 092-733-5113 / FAX 092-733-5537		自主事業 b. 1本～10本 事業予算 b. 1円～1,000万円未満
40.福岡県	りゅう あき 龍 亜希	公益財団法人北九州市芸術文化振興財団 舞台事業課 チーフ	北九州芸術劇場 開館年 2003年 大ホール 1269席 中劇場 700席
	No. 15 〒 803-0812 福岡県北九州市小倉北区室町1丁目1-11 TEL 093-562-2620 / FAX 093-562-2633		自主事業 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上
41.佐賀県	ながいけ まもる 永池 守	一般財団法人鹿島市民立生涯学習・文化振興財団 常務理事(エイブル館長)	鹿島市生涯学センターエイブル 開館年 2001年 エイブルホール 881.88㎡ ステージ 70㎡
	No. 16 〒 849-1312 佐賀県鹿島市大字納富分2700-1 TEL 0954-63-2183 / FAX 0954-63-3423		自主事業 c. 11本～20本 事業予算 b. 1円～1,000万円未満

アートミュージアムラボ愛知セッション 参加者リスト

都道府県名	ふりがな	所属	担当施設名	
	参加者氏名	職名	開館年	
No.	所属住所		ホール1	座席数
			ホール2	座席数
	TEL/FAX		ホール3	座席数
			自主事業	事業予算

【参加者名簿】

1.アートミュージアムラボ

11.埼玉県	いまむら よしひろ 今村 嘉宏	さいたま市役所 文化振興課トリエンナーレ係 係長	-
	No. 1	〒 330-9588 埼玉県さいたま市浦和区常盤6-4-4 TEL 048-829-1226 / FAX 048-829-1922	開館年 - - - 自主事業 - 事業予算 -
11.埼玉県	あくつ わかな 坏 若菜	川口市教育委員会 美術専門補助員	川口市立アートギャラリー・アトリア
	No. 2	〒 332-0033 埼玉県川口市並木元町1-76 TEL 048-253-0222 / FAX 048-250-0525	開館年 2006年 展示室A 77.5㎡ 展示室B 77.5㎡ スタジオ 195㎡ 自主事業 b. 1本~10本 事業予算 c. 1,000万円~3,000万円未満
20.長野県	おおた さとこ 太田 智子	株式会社地域文化創造 学芸課	茅野市美術館
	No. 3	〒 390-0002 長野県茅野市塚原1-1-1 TEL 0266-82-8222 / FAX 0266-82-8223	開館年 1980年 常設展示室 250㎡ 企画展示室 350㎡ - 自主事業 b. 1本~10本 事業予算 c. 1,000万円~3,000万円未満
21.岐阜県	はやざき ゆき 早崎 由起	公益財団法人大垣市文化事業団 事業課	大垣市スイピアセンター
	No. 4	〒 503-0911 岐阜県大垣市室本町5-51 TEL 0584-82-2310 / FAX 0584-82-02305	開館年 1992年 アートギャラリー(企画展示室) 400㎡ その他オープンスペース、貸展示室、常設(科学館) - - 自主事業 b. 1本~10本 事業予算 b. 1円~1,000万円未満
23.愛知県	みわ ゆいこ 三輪 祐衣子	公益財団法人名古屋国際芸術文化交流財団 学芸部	名古屋ボストン美術館
	No. 5	〒 460-0023 愛知県名古屋市中区金山町1-1-1 TEL 052-684-0786 / FAX 052-684-0781	開館年 1999年 4階ボストンギャラリー 約700㎡ 5階オープンギャラリー 約700㎡ - 自主事業 b. 1本~10本 事業予算 e. 5,000万円~1億円未満
23.愛知県	とば みやこ 鳥羽 都子	公益財団法人かすがい市民文化財団 美術グループ・マネジャー	文化フォーラム春日井
	No. 6	〒 486-0844 愛知県春日井市鳥居松町5-44 TEL 0568-85-6868 / FAX 0568-82-0213	開館年 1999年 ギャラリー 329㎡ 視聴覚ホール 274㎡ - 自主事業 b. 1本~10本 事業予算 b. 1円~1,000万円未満
27.大阪府	まはら りょうこ 馬原 良子	豊中市役所 人権文化部文化芸術室 一般非常勤職員	-
	No. 7	〒 561-8501 大阪府豊中市中桜塚3-1-1 TEL 06-6858-2864 / FAX 06-6846-6003	開館年 - - - 自主事業 - 事業予算 -
27.大阪府	おくむら あやの 奥村 綾乃	公益財団法人堺市文化振興財団 非常勤学芸員	堺市立文化館(アルフォンス・ミュシャ館)
	No. 8	〒 590-0014 大阪府堺市堺区田出井町1-2-200 ベルマーージュ堺式番館 TEL 072-222-7227 / FAX 072-222-6116	開館年 2000年 ギャラリー 491㎡ 与謝野晶子文芸館 141.3㎡ アルフォンス・ミュシャ館 260.69㎡ 自主事業 b. 1本~10本 事業予算 b. 1円~1,000万円未満

【参加者名簿】

1.アートミュージアムラボ

28.兵庫県	まつなが まさお 松長 昌男	尼崎市役所 シティプロモーション推進部都市魅力創造発信課 課長	-	
			開館年	-
No. 9	〒 660-8501 兵庫県尼崎市東七松町1-23-1 TEL 06-6489-6385 / FAX 06-6489-6793		-	-
			-	-
			自主事業	- 事業予算 -
28.兵庫県	いとう まゆみ 伊藤 まゆみ	神戸アートビレッジセンター 美術担当	神戸アートビレッジセンター	
			開館年	1996年
No. 10	〒 652-0811 兵庫県神戸市兵庫区新開地5-3-14 TEL 078-512-5500 / FAX 078-512-5356		KAVCギャラリー	148㎡
			KAVCシアター	129㎡
			KAVCスタジオ	53㎡
			自主事業	b. 1本~10本 事業予算 b. 1円~1,000万円未満
42.長崎県	たなか いくこ 田中 郁子	諫早市美術・歴史館 嘱託職員(運営員)	諫早市美術・歴史館	
			開館年	2014年
No. 11	〒 854-0014 長崎県諫早市東小路町2-33 TEL 0957-24-6611 / FAX 0957-24-6633		展示室1	125㎡
			展示室2	86㎡
			展示室3	93㎡
			自主事業	b. 1本~10本 事業予算 b. 1円~1,000万円未満
43.熊本県	ささき げんたろう 佐々木 玄太郎	公益財団法人熊本市美術文化振興財団 学芸員	熊本市現代美術館	
			開館年	2002年
No. 12	〒 860-0845 熊本県熊本市中央区上通町2-3 TEL 096-278-7500 / FAX 096-359-7892		ギャラリーI	882㎡
			ギャラリーII	573㎡
			ギャラリーIII	130㎡
			自主事業	b. 1本~10本 事業予算 e. 5,000万円~1億円未満

ステージラボ広島セッション参加者リスト

都道府県名	ふりがな	所属	担当施設名	
	参加者氏名	職名	開館年	
No.	所属住所 TEL/FAX		ホール1	座席数
			ホール2	座席数
			ホール3	座席数
			自主事業	事業予算

【参加者名簿】

1.ホール入門コース

01.北海道	もがみ たつや 最上 達也	公益財団法人札幌市芸術文化財団 コンサートホール事業部 事業課 事業係	札幌コンサートホールKitara 開館年 1997年 大ホール 2008席 小ホール 453席 - - 自主事業 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上
	No. 1	〒 064-8649 北海道札幌市中央区中島公園1-15 TEL 011-520-2000 / FAX 011-520-1575	

01.北海道	きとう まなみ 木藤 愛美	公益財団法人札幌市芸術文化財団 芸術の森事業部 美術館工芸係	札幌芸術の森 開館年 1986年 札幌芸術の森 389,653㎡ - - 自主事業 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上
	No. 2	〒 005-0864 北海道札幌市南区芸術の森2丁目75 TEL 011-592-4122 / FAX 011-591-0094	

08.茨城県	すずき えりか 鈴木 絵里香	水戸市 市民環境部 市民生活課 主事	水戸市民会館 開館年 - - - 自主事業 - 事業予算 -
	No. 3	〒 310-8610 茨城県水戸市中央1丁目4-1 TEL 029-224-1111 / FAX 029-232-9238	

08.茨城県	かしむら ゆうや 櫻村 裕也	公益財団法人日立市科学文化情報財団 音楽ホール担当 主事	日立シビックセンター 開館年 1990年 音楽ホール 825席、939㎡ 多用途ホール 200席、274㎡ - - 自主事業 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上
	No. 4	〒 317-0073 茨城県日立市幸町1-21-1 TEL 0294-24-7711 / FAX 0294-24-7979	

09.栃木県	あくつ さき 阿久津 早希	公益財団法人とちぎ未来づくり財団 利用サービス課	栃木県総合文化センター 開館年 1991年 メインホール 1604席 サブホール 344~584席 - - 自主事業 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上
	No. 5	〒 320-8530 栃木県宇都宮市本町1-8 TEL 028-643-1000 / FAX 028-643-1019	

13.東京都	たなか あつし 田中 淳士	豊島区役所 文化商工部 文化デザイン課 文化環境整備グループ	豊島区立舞台芸術交流センター(あうるすぽっと) 開館年 2007年 豊島区立舞台芸術交流センター 301席、2,931㎡ - - 自主事業 c. 11本~20本 事業予算 f. 1億円以上
	No. 6	〒 170-0013 豊島区東池袋4-5-2 ライズアリーナビル2F・3F TEL 03-5391-0750 / FAX 03-5391-0752	

16.富山県	なみさし みか 浪指 美雅	公益財団法人富山県文化振興財団 ホール担当 主事	新川文化ホール 開館年 1994年 大ホール 1186席、256.66㎡ 小ホール 297席、106.15㎡ - - 自主事業 d. 21本以上 事業予算 e. 5,000万円~1億円未満
	No. 7	〒 937-0853 富山県魚津市宮津110 TEL 0765-23-1123 / FAX 0765-23-0534	

20.長野県	かとう やすし 加藤 靖司	一般財団法人長野市文化芸術振興財団 事業担当(広報・営業)	長野市芸術館 開館年 2016年(予定) 大ホール 1292席、4130㎡ 小ホールA(リサイクル用) 295席、1170㎡ 小ホールB(多目的) 225席、440㎡ 自主事業 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上
	No. 8	〒 380-8512 長野県長野市箱清水1丁目3-8 長野市城山分室 TEL 026-219-3100 / FAX 026-219-3110	

【参加者名簿】

1.ホール入門コース

20.長野県	もちづき りょうと	上田市	上田市交流文化芸術センター サントミュージゼ	
	望月 領都	上田市交流文化芸術センター サントミュージゼ 主事	開館年	2014年
No. 9	〒 386-0025		大ホール	1530席
	長野県上田市天神3-15-15		小ホール	320席
	TEL 0268-27-2000 / FAX 0268-27-2310		常設展示室・企画展示室	272㎡・424㎡
			自主事業	c. 11本~20本 事業予算 f. 1億円以上

22.静岡県	むらまつ えり	公益財団法人焼津市振興公社	大井川文化会館	
	村松 恵理	文化振興課	開館年	1992年
No. 10	〒 421-0205		ホール	1050席
	静岡県焼津市宗高888		-	-
	TEL 054-622-8811 / FAX 054-622-8822		-	-
			自主事業	d. 21本以上 事業予算 d. 3,000万円~5,000万円未満

23.愛知県	やなせ ひろたか	公益財団法人豊田市文化振興財団	豊田市民文化会館	
	築瀬 弘剛	文化事業課	開館年	1975年
No. 11	〒 471-0035		大ホール	1708席
	愛知県豊田市小坂町12-100		小ホール	436席
	TEL 0565-31-8804 / FAX 0565-35-4801		展示室A・展示室B	593㎡・144㎡
			自主事業	b. 1本~10本 事業予算 b. 1円~1,000万円未満

23.愛知県	しらき としお	長久手市 文化の家	文化の家	
	白木 敏雄	くらし文化部 文化の家 管理係長	開館年	1998年
No. 12	〒 480-1166		森のホール	819席
	愛知県長久手市野田農201		風のホール	300席
	TEL 0561-61-3411 / FAX 0561-61-2510		光のホール	103席
			自主事業	d. 21本以上 事業予算 d. 3,000万円~5,000万円未満

28.兵庫県	つじい おさむ	公益財団法人神戸市民文化振興財団	神戸文化ホール	
	辻井 修	事業一部 自主事業チーム	開館年	1973年
No. 13	〒 650-0017		大ホール	2043席
	兵庫県神戸市中央区楠町4丁目2-2		中ホール	904席
	TEL 078-351-3535 / FAX 078-351-3121		-	-
			自主事業	d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上

28.兵庫県	はんだ きょうこ	公益財団法人伊丹市文化振興財団	伊丹市立演劇ホール(アイホール)	
	半田 恭子	伊丹市立演劇ホール 事業担当	開館年	1988年
No. 14	〒 664-0846		イベントホール	357㎡
	兵庫県伊丹市伊丹2丁目4番1号		カルチャールームA	100㎡
	TEL 072-782-2000 / FAX 072-782-8880		カルチャールームB	90㎡
			自主事業	d. 21本以上 事業予算 d. 3,000万円~5,000万円未満

28.兵庫県	のむら さとこ	NPO法人ブラッツ	豊岡市民プラザ	
	野村 聡子		開館年	2004年
No. 15	〒 668-0031		ほっとステージ	294席
	兵庫県豊岡市大手町4-5アイティ7F 豊岡市民プラザ内		-	-
	TEL 0796-24-3000 / FAX 0796-24-3004		-	-
			自主事業	d. 21本以上 事業予算 b. 1円~1,000万円未満

32.島根県	さかね さとか	公益財団法人しまね文化振興財団	島根県芸術文化センター「グラントワ」	
	坂根 里香	島根県芸術文化センター「グラントワ」 いわみ芸術劇場 企画広報課	開館年	2005年
No. 16	〒 698-0022		大ホール	1500席
	島根県益田市有明町5-15		小ホール	400席
	TEL 0856-31-1860 / FAX 0856-31-1884		-	-
			自主事業	d. 21本以上 事業予算 e. 5,000万円~1億円未満

【参加者名簿】

1.ホール入門コース

32.島根県	いわた たかのり 岩田 貴詞	島根県安来市 市民生活部 市民会館開館準備室 主任主事	安来市民会館(仮称)	
			開館年	2017年(予定)
No. 17	〒 692-8686 島根県安来市安来町878-2 TEL 0854-23-3039 / FAX 0854-23-3155		-	-
			-	-
			自主事業	事業予算
34.広島県	なちだ あい 奈地田 愛	公益財団法人広島市文化財団 安佐北区民文化センター・事業推進員	安佐北区民文化センター	
			開館年	1983年
No. 18	〒 731-0221 広島県広島市安佐北区可部7丁目28-25 TEL 082-814-0370 / FAX 082-814-0770		-	-
			-	-
			自主事業	c. 11本~20本 事業予算 b. 1円~1,000万円未満
34.広島県	たけうち ひとみ 竹内 ひとみ	株式会社暮らしサポートみよし 舞台グループ	三次市民ホールきりり	
			開館年	2015年
No. 19	〒 728-0021 広島県三次市三次町111-1 三次市民ホールきりり TEL 0824-62-2222 / FAX 0824-62-2230		-	-
			-	-
			自主事業	b. 1本~10本 事業予算 b. 1円~1,000万円未満
40.福岡県	たなか ありさ 田中 ありさ	公益財団法人北九州市芸術文化振興財団 劇場管理課	北九州芸術劇場	
			開館年	2003年
No. 20	〒 803-0812 福岡県北九州市小倉北区室町1丁目1-11 TEL 093-562-2655 / FAX 093-562-2588		大ホール	1269席
			中劇場	700席
			小劇場	96~216席
			自主事業	d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上

【参加者名簿】

2.自主事業Ⅰ(音楽)コース

13.東京都	とうま もとし	一般財団法人地域創造 芸術環境部 主事	-
	当真 大司		開館年 -
No. 1	〒 107-0052 東京都港区赤坂2-9-11 オリックス赤坂2丁目ビル9階 TEL 03-5573-4057 / FAX 03-5573-4060		-
			-
			自主事業 - 事業予算 -

20.長野県	むれ みかこ	一般財団法人長野市文化芸術振興財団 事業担当(普及・育成事業)	長野市芸術館(建設中)
	牟禮 美華子		開館年 2016年(予定)
No. 2	〒 380-0801 長野県長野市箱清水一丁目3-8 長野市城山分室 TEL 026-219-3100 / FAX 026-219-3110		大ホール 1292席
			小ホールA 295席
			小ホールB 225席
			自主事業 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上

20.長野県	さとう ひろき	上田市 交流文化芸術センター サントミュージゼ/主事	サントミュージゼ 上田市交流文化芸術センター・上田市立美術館
	佐藤 博樹		開館年 2014年
No. 3	〒 386-0025 長野県上田市天神3-15-15 TEL 0268-27-2000 / FAX 0268-27-2310		大ホール 最大1530席
			小ホール 最大320席
			常設展示室 272㎡
			自主事業 c. 11本~20本 事業予算 f. 1億円以上

22.静岡県	ひらい ゆきこ	公益財団法人静岡県文化財団 事業課 企画制作グループ チーフスタッフ	静岡県コンベンションアーツセンター
	平井 由己子		開館年 1999年
No. 4	〒 422-8005 静岡県静岡市駿河区池田79-4 TEL 054-203-5714 / FAX 054-203-5716		大ホール・海 最大4626席
			中ホール・大地 最大1209席
			交流ホール 最大400席
			自主事業 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上

23.愛知県	ほりかわ かつま	一般財団法人ちりゅう芸術創造協会 特別任用職員	パティオ池鯉鮒(知立市文化会館)
	堀川 克磨		開館年 2000年
No. 5	〒 472-0026 愛知県知立市上重原町間瀬116 TEL 0566-83-8100 / FAX 0566-83-8110		かきつばたホール 1004席
			花しょうぶホール 293席
			-
			自主事業 d. 21本以上 事業予算 e. 5,000万円~1億円未満

27.大阪府	のがみ ゆか	公益財団法人河内長野市文化振興財団 ラブリールホールチーム 事業グループ	河内長野市立文化会館 ラブリールホール
	野上 友香		開館年 1992年
No. 6	〒 586-0016 大阪府河内長野市西代町12-46 TEL 0721-56-6100 / FAX 0721-56-6111		大ホール 1308席
			-
			-
			自主事業 d. 21本以上 事業予算 e. 5,000万円~1億円未満

32.島根県	なかむら ともよ	公益財団法人出雲市芸術文化振興財団 芸術文化事業部 芸術アカデミー課 音楽教育指導員	出雲市民会館
	中村 知世		開館年 1981年
No. 7	〒 693-0023 島根県出雲市塩冶有原町2-15 TEL 0853-24-1212 / FAX 0853-21-7085		大ホール 1210席、285㎡
			-
			-
			自主事業 c. 11本~20本 事業予算 e. 5,000万円~1億円未満

33.岡山県	おがわ ういこ	公益財団法人岡山シンフォニーホール 管理部	岡山シンフォニーホール
	小川 羽衣子		開館年 2001年
No. 8	〒 700-0082 岡山県岡山市北区表町1-5-1 TEL 086-234-2001 / FAX 086-234-1968		大ホール 2001席
			イベントホール 200席
			-
			自主事業 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上

【参加者名簿】

2.自主事業Ⅰ(音楽)コース

33.岡山県	あかぎ しげまさ	勝央町	勝央文化ホール
	赤木 茂正	教育振興部 主事	開館年 2004年
No.	〒 709-4316		-
9	岡山県勝田郡勝央町勝間田211-1		-
	TEL 0868-38-1753 / FAX 0868-38-2580		自主事業 b. 1本~10本 事業予算 b. 1円~1,000万円未満

34.広島県	おだ まみ	公益財団法人広島市文化財団	広島市南区民文化センター
	小田 真美	南区民文化センター	開館年 1990年
No.	〒 732-0816		ホール 554席
10	広島県広島市南区比治山本町16-27(産業文化センター内)		スタジオ 151席
	TEL 082-251-4120 / FAX 082-256-8811		-
			自主事業 d. 21本以上 事業予算 b. 1円~1,000万円未満

34.広島県	おがさはら あい	公益財団法人呉市文化振興財団	呉市文化ホール
	小笠原 愛	事業係	開館年 1989年
No.	〒 737-0051		-
11	広島県呉市中央3-10-1		-
	TEL 0823-25-7878 / FAX 0823-23-6511		自主事業 b. 1本~10本 事業予算 d. 3,000万円~5,000万円未満

40.福岡県	ひらかわ かほ	公益財団法人北九州市芸術文化振興財団	北九州市立響ホール
	平川 夏帆	音楽事業課	開館年 1993年
No.	〒 805-0062		大ホール 720席
12	福岡県北九州市八幡東区平野1-1-1 国際村交流センター内		リハーサル室 173㎡
	TEL 093-663-4010 / FAX 093-663-0100		研修室 50㎡
			自主事業 c. 11本~20本 事業予算 e. 5,000万円~1億円未満

40.福岡県	よしかね えり	久留米市	久留米シティプラザ
	吉兼 恵利	市民文化部 久留米シティプラザ推進室 開館準備チーム	開館年 2016年(予定)
No.	〒 830-8520		ザ・グランドホール 1509席
13	福岡県久留米市城南町15-3		久留米座 399席
	TEL 0942-30-9242 / FAX 0942-30-9714		Cボックス 最大144席
			自主事業 b. 1本~10本 事業予算 c. 1,000万円~3,000万円未満

46.鹿児島県	こうだ まさる	霧島国際音楽ホール(みやまコンセル)	霧島国際音楽ホール
	幸多 優	事業課 芸術文化専門員	開館年 1994年
No.	〒 899-6603		霧島国際音楽ホール 770席
14	鹿児島県霧島市牧園町高千穂3311-29		-
	TEL 0995-78-8000 / FAX 0995-78-3311		-
			自主事業 c. 11本~20本 事業予算 d. 3,000万円~5,000万円未満

【参加者名簿】

3.自主事業Ⅱ(演劇)コース

13.東京都	かとう ゆうじ	一般財団法人地域創造 芸術環境部 主事	-
	加藤 祐二		開館年 年
No. 1	〒 107-0052		-
	東京都港区赤坂2-9-11 オリックス赤坂2丁目ビル9階		-
	TEL 03-5573-4073 / FAX 03-5573-4060		-
			自主事業 - 事業予算 -

14.神奈川県	さとみ ゆうすけ	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団 協働推進グループ・横浜赤レンガ倉庫1号館	横浜赤レンガ倉庫1号館
	里見 有祐		開館年 2002年
No. 2	〒 231-0001		3Fホール 300席
	神奈川県横浜市中区新港1-1-1 横浜赤レンガ倉庫1号館		2FスペースABC 各186㎡
	TEL 045-221-0219 / FAX 045-221-0327		-
			自主事業 c. 11本~20本 事業予算 b. 1円~1,000万円未満

14.神奈川県	たけいし ゆきもり	公益財団法人相模原市民文化財団 総務課 主事	-
	武石 進衛		開館年 年
No. 3	〒 252-0303		-
	神奈川県相模原市南区相模大野4-4-1 相模女子大学グリーンホール内		-
	TEL 042-749-2207 / FAX 042-749-2772		-
			自主事業 - 事業予算 -

16.富山県	おかだ ゆか	公益財団法人富山県文化振興財団 ホール担当 主事	富山県教育文化会館
	岡田 祐佳		開館年 1974年
No. 4	〒 930-0096		ホール 621席
	富山県富山市舟橋北町7-1		-
	TEL 076-441-8635 / FAX 076-441-8184		-
			自主事業 b. 1本~10本 事業予算 c. 1,000万円~3,000万円未満

17.石川県	かわもり よしゆき	公益財団法人金沢芸術創造財団 事業課 主事	金沢歌劇座 他
	川守 慶之		開館年 1962年
No. 5	〒 920-0999		金沢歌劇座 他 1919席
	石川県金沢市柿木畠1-1		-
	TEL 076-223-9898 / FAX 076-261-5233		-
			自主事業 c. 11本~20本 事業予算 e. 5,000万円~1億円未満

20.長野県	くすだ あき	株式会社地域文化創造 事業部制作主任	茅野市民館
	久寿田 亜季		開館年 2005年
No. 6	〒 391-0002		マルチホール 780席
	長野県茅野市塚原一丁目1番1号		コンサートホール 300席
	TEL 0266-82-8222 / FAX 0266-82-8223		アトリエ 200㎡
			自主事業 d. 21本以上 事業予算 c. 1,000万円~3,000万円未満

23.愛知県	やまもと むぎこ	公益財団法人愛知県文化振興事業団 事業部プロデューサー(演劇)	愛知県芸術劇場
	山本 麦子		開館年 1992年
No. 7	〒 454-0861		大ホール 2005席
	愛知県名古屋市中区東桜1丁目 13-2 愛知芸術文化センター内		コンサートホール 1800席
	TEL 052-671-5648 / FAX 052-971-5541		小ホール 282席
			自主事業 d. 21本以上 事業予算 d. 3,000万円~5,000万円未満

28.兵庫県	いしな さとこ	公益財団法人神戸市民文化振興財団 事業一部 自主事業チーム担当	神戸文化ホール
	石名 智子		開館年 1973年
No. 8	〒 650-0017		大ホール 2043席
	兵庫県神戸市中央区楠町4丁目2-2 神戸文化ホール内		中ホール 904席
	TEL 078-351-3535 / FAX 078-351-3121		-
			自主事業 d. 21本以上 事業予算 e. 5,000万円~1億円未満

【参加者名簿】

3.自主事業Ⅱ(演劇)コース

28.兵庫県	あさい ゆきみ 浅井 幸美	公益財団法人宝塚市文化財団 事業課 係員	宝塚ソリオホール、宝塚ベガ・ホール、宝塚文化創造館
	No. 9	〒 665-0845 兵庫県宝塚市栄町2-1-1 ソリオ1-3F TEL 0797-85-8844 / FAX 0797-85-8873	開館年 1993年、1978年、2011年 宝塚ソリオホール 300席 宝塚ベガ・ホール 372席 宝塚文化創造館 180席 自主事業 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上
34.広島県	やまおか しのぶ 山岡 忍	公益財団法人呉市文化振興財団 事務局員	呉市文化ホール
	No. 10	〒 737-0051 広島県呉市中央3丁目10-1 TEL 0823-25-7878 / FAX 0823-23-6511	開館年 1989年 ホール 1620席 - - - - 自主事業 b. 1本~10本 事業予算 d. 3,000万円~5,000万円未満
40.福岡県	いちだ かえこ 一田 佳栄子	公益財団法人北九州市芸術文化振興財団 舞台事業課	北九州芸術劇場
	No. 11	〒 803-0812 福岡県北九州市小倉北区室町一丁目1-11 TEL 093-562-2620 / FAX 093-562-2633	開館年 2003年 大ホール 1269席 中劇場 700席 小劇場 96~216席 自主事業 d. 21本以上 事業予算 f. 1億円以上
40.福岡県	いいだ あゆみ 飯田 愛弓	公益財団法人大野城まどかぴあ 文化芸術振興課	大野城まどかぴあ
	No. 12	〒 816-0934 福岡県大野城市曙町2-3-1 TEL 092-586-4040 / FAX 092-586-4021	開館年 1996年 大ホール 783席 小ホール 118席 多目的ホール 300席 自主事業 d. 21本以上 事業予算 e. 5,000万円~1億円未満
42.長崎県	きのした まさと 木下 雅人	長崎市 経済局文化観光部文化振興課	長崎ブリックホール
	No. 13	〒 852-8104 長崎県長崎市茂里町2-38 TEL 095-842-3782 / FAX 095-842-3784	開館年 1998年 大ホール 2002席 国際会議場 542席 - - 自主事業 d. 21本以上 事業予算 c. 1,000万円~3,000万円未満

平成26年度ステージラボ・
アートミュージアムラボ 事業報告書
～公共ホール等企画運営ワークショップ～

編集・発行 一般財団法人 地域創造
〒107-0052 東京都港区赤坂2-9-11
オリックス赤坂2丁目ビル9階
電 話 03-5573-4050
ファクシ 03-5573-4060

平成27年6月発行

